

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7433774号  
(P7433774)

(45)発行日 令和6年2月20日(2024.2.20)

(24)登録日 令和6年2月9日(2024.2.9)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全82頁)

(21)出願番号	特願2019-52154(P2019-52154)	(73)特許権者	000144153
(22)出願日	平成31年3月20日(2019.3.20)		株式会社三共
(65)公開番号	特開2020-151165(P2020-151165 A)		東京都渋谷区渋谷三丁目 2 9 番 1 4 号
(43)公開日	令和2年9月24日(2020.9.24)	(72)発明者	小倉 敏男
審査請求日	令和4年1月28日(2022.1.28)		東京都渋谷区渋谷三丁目 2 9 番 1 4 号
前置審査			株式会社三共内
		審査官	大浜 康夫

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、  
表示手段と、  
前記表示手段を用いて演出識別情報を可変表示する可変表示演出手段と、  
前記表示手段を用いて段階的な表示態様の变化により、段階に対応した前記有利状態に  
制御される期待度を示唆可能な示唆表示を表示する示唆表示演出手段と、を備え、  
前記示唆表示演出手段は、  
複数種類のタイミングで前記示唆表示を一旦消去することが可能であり、  
前記示唆表示を一旦消去した後に再度表示することが可能であり、  
前記示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも前記有利状態に制御され  
る期待度が高い段階に変化した前記示唆表示を表示することが可能であり、  
前記可変表示演出手段は、前記示唆表示が一旦消去された状態において、前記演出識別情  
報を継続して可変表示し、  
前記示唆表示演出手段は、前記示唆表示を再度表示するときに、該示唆表示を強調して  
表示することが可能であり、  
前記示唆表示が一旦消去されてから再度表示されるまでの消去期間は、複数種類あり、  
前記消去期間に応じて、前記有利状態に制御される期待度が異なり、  
前記消去期間が同じ場合であっても、前記示唆表示が一旦消去されたタイミングに応じて  
、再度表示された前記示唆表示が前記有利状態に制御される期待度に対応したいずれの段

階に変化するかの割合が異なる、遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の遊技機として一般的に知られているものとしては、遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態等）に制御可能なものがあった。このような遊技機としては、例えばメータ表示のように、段階的な表示態様の变化により、有利状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示をするものがあった（特許文献1参照）。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2013-233322号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、特許文献1のように、段階的な表示態様の变化により、有利状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示をする演出では、示唆表示が変化するタイミングに意外性がなく、遊技において興趣を盛上げることが不十分であるという問題があった。

20

【0005】

本発明は、かかる実情に鑑み考え出されたものであり、その目的は、遊技において興趣を盛上げることができる遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

（A）遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

表示手段と、

前記表示手段を用いて演出識別情報を可変表示する可変表示演出手段と、

前記表示手段を用いて段階的な表示態様の变化により、段階に対応した前記有利状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示を表示する示唆表示演出手段と、を備え、

30

前記示唆表示演出手段は、

複数種類のタイミングで前記示唆表示を一旦消去することが可能であり、

前記示唆表示を一旦消去した後に再度表示することが可能であり、

前記示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも前記有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した前記示唆表示を表示することが可能であり、

前記可変表示演出手段は、前記示唆表示が一旦消去された状態において、前記演出識別情報を継続して可変表示し、

前記示唆表示演出手段は、前記示唆表示を再度表示するときに、該示唆表示を強調して表示することが可能であり、

40

前記示唆表示が一旦消去されてから再度表示されるまでの消去期間は、複数種類あり、

前記消去期間に応じて、前記有利状態に制御される期待度が異なり、

前記消去期間が同じ場合であっても、前記示唆表示が一旦消去されたタイミングに応じて、再度表示された前記示唆表示が前記有利状態に制御される期待度に対応したいずれの段階に変化するかの割合が異なる。

（1）遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態等）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機1等）であって、

段階的な表示態様（数値表示およびレベル表示等の段階的な表示態様）の変化により、前記有利状態に制御される期待度を予告可能な予告表示（図8-4等の示唆表示111F001等。なお、以下に示唆表示のことを予告表示と称することがあるが同義である）を

50

表示する予告表示手段を備え、

前記予告表示手段は、前記予告表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に再度表示する（図 8 - 4（N）等）ことが可能であり、前記予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前（図 8 - 4（I）のような 80 % 等）よりも前記有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した前記予告表示（図 8 - 4（N）のような 100 % 等）を表示することが可能であり（図 8 - 4（N）のような 100 % 等）、

前記有利状態に制御されない旨の所定報知（図 8 - 4（J）等）のようなはずれ表示結果の報知等）がされた後に、前記予告表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に、再度表示することが可能であり（図 8 - 4（N）等）、

さらに、

設定変更操作（例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 61 AK002 などへの操作）に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値（例えば、「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段（例えば、主基板 11）と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出（例えば、設定示唆演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御基板 12）と、

可変表示に関連した特定演出（例えば、セリフ予告）を実行可能な特定演出実行手段（例えば、演出制御基板 12）と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり（例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能）、

前記特定演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出を前記示唆演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である（例えば、セリフ予告の画像に重ねてモヤ画像を表示したり、セリフ予告をフリーズさせたりする）。

#### 【0007】

このような構成によれば、予告表示を一旦消去した後に再度表示することが可能であり、前記予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した予告表示を表示することが可能であるので、予告表示が変化するタイミングに意外性があり、予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した予告表示を表示することにより、遊技において興趣を盛上げることができる。さらに、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、特定演出の態様を示唆演出の実行状況に応じて変更可能なので、遊技の興趣が向上する。

#### 【0008】

（2）遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態等）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機 1 等）であって、

段階的な表示態様（数値表示およびレベル表示等の段階的な表示態様）の変化により、前記有利状態に制御される期待度を予告可能な予告表示（図 8 - 4 等の予告表示 111 F001 等）を表示する予告表示手段を備え、

前記予告表示手段は、前記予告表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に再度表示する（図 8 - 4（N）等）ことが可能であり、前記予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前（図 8 - 4（I）のような 80 % 等）よりも前記有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した前記予告表示（図 8 - 4（N）のような 100 % 等）を表示することが可能であり（図 8 - 4（N）のような 100 % 等）、

前記有利状態に制御されない旨の所定報知（図 8 - 4（J）等）のようなはずれ表示結果の報知等）がされた後に、前記示唆表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に、再度表示することが可能であり（図 8 - 4（N）等）、

さらに、

設定変更操作（例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 61 AK002 などへの操作）に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値（

10

20

30

40

50

例えば、「１」～「６」)のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段(例えば、主基板１１)と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出(例えば、設定示唆演出)を実行可能な示唆演出実行手段(例えば、演出制御基板１２)と、

可変表示に関連した特定演出(例えば、セリフ予告、飾り図柄の可変表示)を実行可能な特定演出実行手段(例えば、演出制御基板１２)と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり(例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能)、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出を前記特定演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である(例えば、図９－１４などのように設定示唆演出の画像を強調表示する)。

10

#### 【０００９】

このような構成によれば、予告表示を一旦消去した後に再度表示することが可能であり、前記予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した予告表示を表示することが可能であるので、予告表示が変化するタイミングに意外性があり、予告表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した予告表示を表示することにより、遊技において興趣を盛上げることができる。さらに、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、示唆演出の態様を特定演出の実行状況に応じて変更可能なので、遊技の興趣が向上する。

20

#### 【００１０】

(３) 前記(１)～(２)の遊技機において、

前記予告表示手段は、前記有利状態に制御されない旨の所定報知(図８－４(Ｊ等)のようなはずれ表示結果の報知等)がされた後に、前記予告表示を一旦消去した(図８－４(Ｊ)等)後に、再度表示することが可能である(図８－４(Ｎ)等)。

#### 【００１１】

このような構成によれば、有利状態に制御されない旨の所定報知がされた後においても、遊技者の有利状態への期待感を持続させることができる。

#### 【００１２】

(４) 前記(１)～(３)の遊技機において、

前記予告表示手段は、前記有利状態に制御されない旨の所定報知(図８－４(Ｊ等)のようなはずれ表示結果の報知等)がされた後に、特別演出(図８－４(Ｋ)～(Ｏ)の特別演出としてのルーレット演出等)を実行し、当該特別演出の実行に関連して、前記予告表示を再度表示することが可能である(図８－４(Ｎ)等)。

30

#### 【００１３】

このような構成によれば、有利状態に制御されない旨の所定報知がされた後に、特別演出の実行に関連して予告表示の再度表示が可能であることにより、特別演出が実行された場合に、予告表示が再度表示されることに対する期待感を遊技者に持たせることができる。

#### 【００１４】

(５) 前記(１)～(４)の遊技機において、

前記予告表示の段階的な表示態様の変化に関与可能な所定演出(図８－４(Ｅ)、(Ｆ)、(Ｇ)のチャンスアップ演出)を実行可能な所定演出手段(演出制御用ＣＰＵ１２０)をさらに備え、

40

前記予告表示手段は、前記予告表示を一旦消去する前に実行された前記所定演出を、前記予告表示を再度したときに再度実行することが可能であり、前記所定演出が実行されたことに応じて、前記予告表示における表示態様の段階を変化させることが可能である(〔予告表示再度実行時に一旦消去前に実行された演出を再度実行する演出例〕)。

#### 【００１５】

このような構成によれば、予告表示を一旦消去する前に実行された所定演出を、予告表示を再度したときに再度実行することが可能であり、当該所定演出が実行されたことに応

50

じて、予告表示における表示態様の段階が変化可能であることにより、一度所定演出が実行されて有利状態に制御されなかったときであっても、遊技者の残念感を払拭することができる。

【 0 0 1 6 】

( 6 ) 前記 ( 1 ) ~ ( 5 ) の遊技機において、

前記予告表示手段は、複数種類のタイミングで前記予告表示を一旦消去することが可能であり ( 図 8 - 6 の ( A ) ~ ( C ) の第 1 タイミング ~ 第 3 タイミングに示す、非リーチはずれ表示時、ノーマルリーチはずれ表示時、スーパーリーチはずれ表示時等 )、前記予告表示が一旦消去されたタイミングに応じて、前記再度表示された前記予告表示が予告する期待度がどの段階に変化するかの割合が異なる ( 図 8 - 5 ( B ) に示すように、例えば、第 1 S P リーチはずれ表示の段階および第 2 S P リーチはずれ表示の段階で予告表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合は、ノーマルリーチはずれ表示の段階で予告表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合と比べて、予告表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるときに、80%の予告表示と100%の予告表示とのどの段階に変化するかの割合が異なる等 ) 。

10

【 0 0 1 7 】

このような構成によれば、予告表示が一旦消去されたタイミングに応じて、再度表示された予告表示が予告する期待度がどの段階に変化するかの割合が異なるので、予告表示が一旦消去されるタイミングに遊技者を注目させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

20

【 0 0 1 8 】

( 7 ) 前記 ( 1 ) ~ ( 6 ) の遊技機において、

遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値に設定可能な設定手段をさらに備え ( C P U 1 0 3 等 )、

前記予告表示手段は、前記設定手段により設定された設定値が遊技者にとって有利である程、前記再度表示された前記予告表示が予告する期待度が最上の段階に変化する割合が高い ( [ 設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された予告表示が予告する期待度が最上の段階に変化する割合が高い演出例 ] ) 。

【 0 0 1 9 】

このような構成によれば、設定手段により設定された設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された予告表示が予告する期待度が最上の段階に変化する割合が高いため、予告表示の再度表示に遊技者を注目させて興趣を盛上げることができる。

30

【 0 0 2 0 】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段 8 ~ 1 7 に係る発明が含まれる。従来より遊技機において特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報に示されているような、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、設定変更操作に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値のうちのいずれかの設定値を設定可能であり、設定値の設定に関連した示唆演出 ( キリン、ゾウ、ライオンを用いた演出 ) を実行するものが開示されている。

【 0 0 2 1 】

しかしながら、示唆演出を実行している際に他の演出が実行されることについて考慮されておらず、遊技の興趣の向上が図れない。

40

【 0 0 2 2 】

本発明は遊技の興趣が向上した遊技機を提供することを目的とする。

【 0 0 2 3 】

( 8 ) この発明に係る遊技機は、

可変表示 ( 例えば、特図ゲーム ) を実行し、遊技者にとって有利な有利状態 ( 例えば、大当たり遊技状態 ) に制御可能な遊技機 ( 例えば、特徴部 6 1 A K を有するパチンコ遊技機 1 ) であって、

設定変更操作 ( 例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A

50

K 0 0 2 などへの操作 ) に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値 ( 例えば、「 1 」 ~ 「 6 」 ) のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段 ( 例えば、主基板 1 1 ) と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出 ( 例えば、設定示唆演出 ) を実行可能な示唆演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、

可変表示に関連した特定演出 ( 例えば、セリフ予告 ) を実行可能な特定演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり ( 例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能 ) 、

前記特定演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出を前記示唆演出が実行されないときは異なる態様で実行可能である ( 例えば、セリフ予告の画像に重ねてモヤ画像を表示したり、セリフ予告をフリーズさせたりする ) 。

#### 【 0 0 2 4 】

上記構成によれば、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、特定演出の態様を示唆演出の実行状況に応じて変更可能なので、遊技の興趣が向上する。

#### 【 0 0 2 5 】

( 9 ) この発明に係る遊技機は、

可変表示 ( 例えば、特図ゲーム ) を実行し、遊技者にとって有利な有利状態 ( 例えば、大当たり遊技状態 ) に制御可能な遊技機 ( 例えば、特徴部 6 1 A K を有するパチンコ遊技機 1 ) であって、

設定変更操作 ( 例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A K 0 0 2 などへの操作 ) に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値 ( 例えば、「 1 」 ~ 「 6 」 ) のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段 ( 例えば、主基板 1 1 ) と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出 ( 例えば、設定示唆演出 ) を実行可能な示唆演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、

可変表示に関連した特定演出 ( 例えば、セリフ予告、飾り図柄の可変表示 ) を実行可能な特定演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり ( 例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能 ) 、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出を前記特定演出が実行されないときは異なる態様で実行可能である ( 例えば、図 9 - 1 4 などのように設定示唆演出の画像を強調表示する ) 。

#### 【 0 0 2 6 】

上記構成によれば、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、示唆演出の態様を特定演出の実行状況に応じて変更可能なので、遊技の興趣が向上する。

#### 【 0 0 2 7 】

( 1 0 ) 前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出 [ 特定演出 ] の演出表示の動作を継続させる一方、前記特定演出 [ 示唆演出 ] の演出表示の動作を停止させることが可能な ( 例えば、セリフ予告をフリーズさせる ) 、

ようにしてもよい。

#### 【 0 0 2 8 】

上記構成によれば、演出動作の対比により示唆演出 ( 又は特定演出 ) の演出効果を高めることができ、遊技の興趣が向上する。

#### 【 0 0 2 9 】

なお、上記 ( 9 ) の記載は、基本的に上記 ( 7 ) に対応したものであるが、 [ ] 内の記載を適用することで、上記 ( 9 ) の記載は、上記 ( 8 ) に対応したものとなる ( 以下、同様。 ) 。

#### 【 0 0 3 0 】

10

20

30

40

50

( 1 1 ) 前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出を、第 1 態様から当該第 1 態様よりも視認性が低い第 2 態様（例えば、モヤがかかった態様）に変更可能である（例えば、モヤ画像の表示によりセリフ予告の視認性を下げる）、ようにしてもよい。

【 0 0 3 1 】

上記構成によれば、特定演出の視認性が下がることで、示唆演出を強調できるので、示唆演出の演出効果を高めることができ、遊技の興趣が向上する。

【 0 0 3 2 】

( 1 2 ) 前記特定演出には、特定の表示領域を用いて、実行中の可変表示に関する有利度を示唆する演出（例えば、セリフ予告 A ～ C ）が含まれ、

10

前記示唆演出には、前記特定の表示領域と重ならない領域であって、当該特定の表示領域よりも小さい表示領域を用いて実行される演出（例えば、設定示唆演出 A ～ D ）が含まれる、

ようにしてもよい。

【 0 0 3 3 】

上記構成によれば、特定演出と示唆演出とのうち一方が他方を妨げないので、遊技の興趣の低下を防止できる。

【 0 0 3 4 】

( 1 3 ) 前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出の演出表示の動作を継続させる一方、前記特定演出の演出表示の動作を停止させることが可能で（例えば、セリフ予告をフリーズさせる）、かつ、前記特定演出を第 1 態様から当該第 1 態様よりも視認性が低い第 2 態様（例えば、モヤがかかった態様）に変更可能であり（例えば、モヤ画像の表示によりセリフ予告、飾り図柄の視認性を下げる）、

20

前記示唆演出の終了により、前記特定演出の演出表示の動作を再開させ、かつ、前記特定演出を第 1 態様に戻す（例えば、設定示唆演出の終了により、セリフ予告の演出動作が再開し、モヤ画像の表示も終了させる）、

ようにしてもよい。

【 0 0 3 5 】

上記構成によれば、特定演出の実行が確保され、遊技の興趣の低下を防止できる。

【 0 0 3 6 】

30

( 1 4 ) 重畳された複数の層により演出表示を表示可能な表示手段（例えば、画像表示装置 5 ）を備え、

前記複数の層のうちの前記特定演出の演出表示が表示される層よりも前記示唆演出の演出表示が表示される層の方が遊技者側に配置されている（例えば、図 9 - 8 参照）、

ようにしてもよい。

【 0 0 3 7 】

上記構成によれば、示唆演出の視認性を確保でき、遊技の興趣の低下を防止できる。

【 0 0 3 8 】

( 1 5 ) 前記示唆演出 [ 特定演出 ] 実行手段は、第 1 示唆演出 [ 第 1 特定演出 ] （例えば、設定示唆演出 A、セリフ予告 C ）と、当該第 1 示唆演出 [ 第 1 特定演出 ] とは異なる第 2 示唆演出 [ 第 2 特定演出 ] （例えば、設定示唆演出 B ～ D、セリフ予告 A ～ B ）と、を実行可能であり、

40

前記特定演出 [ 示唆演出 ] 実行手段は、

前記特定演出 [ 第 1 特定演出 ] と前記第 1 示唆演出 [ 示唆演出 ] とが同一期間中に実行される場合には、当該特定演出 [ 示唆演出 ] を前記異なる態様で実行せず（例えば、図 9 - 1 5 ）、

前記特定演出 [ 第 2 特定演出 ] と前記第 2 示唆演出 [ 示唆演出 ] とが同一期間中に実行される場合には、当該特定演出 [ 示唆演出 ] を前記異なる態様で実行する（例えば、図 9 - 1 5 ）、

ようにしてもよい。

50

## 【 0 0 3 9 】

上記構成によれば、特定演出（又は示唆演出）の種類により、示唆演出（又は特定演出）を異なる態様としたりしなかったりするので、遊技の興趣が向上する又は遊技の興趣の低下を防止できる。

## 【 0 0 4 0 】

（ 1 6 ）前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出は、第 1 態様から当該第 1 態様よりも視認性が低い第 2 態様（例えば、モヤがかかった態様）に変更可能であり（例えば、モヤ画像の表示によりセリフ予告、飾り図柄の視認性を下げる）、

前記第 1 特定演出（例えば、セリフ予告 C）は、前記第 2 特定演出（例えば、セリフ予告 A ～ B）よりも前記有利状態に制御される割合が高く、

10

前記特定演出実行手段は、

前記示唆演出と前記第 1 特定演出とが同一期間中に実行される場合には、当該第 1 特定演出を前記第 2 態様に変更せず（例えば、図 9 - 1 5（ A ））、

前記示唆演出と前記第 2 特定演出とが同一期間中に実行される場合には、当該第 2 特定演出を前記第 2 態様に変更する（例えば、図 9 - 1 5（ A ））、

ようにしてもよい。

## 【 0 0 4 1 】

上記構成によれば、第 1 特定演出については視認性が低下する第 1 態様に変更されない

20

ので、遊技の興趣の低下を防止できる。

## 【 0 0 4 2 】

（ 1 7 ）前記第 1 示唆演出（例えば、設定示唆演出 A）は、設定されている設定値が不利な第 1 設定値（例えば、「 1 」～「 3 」）のときに実行されやすく、

前記第 2 示唆演出（例えば、設定示唆演出 B ～ D）は、設定されている設定値が前記第 1 設定値よりも有利な第 2 設定値（例えば、「 4 」～「 6 」）のときに実行されやすく、

前記特定演出実行手段は、

前記第 1 示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合には、当該特定演出を前記異なる態様で実行せず（例えば、図 9 - 1 5（ B ））、

前記第 2 示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合には、当該特定演出を前記異なる態様で実行する（例えば、図 9 - 1 5（ B ））、

30

ようにしてもよい。

## 【 0 0 4 3 】

上記構成によれば、第 1 示唆演出のときには特定演出を異なる態様で実行しないので、遊技の興趣が向上する又は遊技の興趣の低下を防止できる。

## 【 0 0 4 4 】

尚、本発明は、本発明の請求項に記載された発明特定事項のみを有するものであって良いし、本発明の請求項に記載された発明特定事項とともに該発明特定事項以外の構成を有するものであっても良い。

## 【図面の簡単な説明】

## 【 0 0 4 5 】

40

【図 1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図 5】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図 6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8 - 1】特徴部 1 1 1 F における演出制御コマンドを例示する図である。

【図 8 - 2】特徴部 1 1 1 F における演出制御メイン処理を示すフローチャートである。

【図 8 - 3】特徴部 1 1 1 F におけるサブ側遊技停止処理を示すフローチャートである。

50



【図 8 - 4】段階的に表示態様が変化可能な示唆表示の演出例を示す画像表示装置 5 の表示画面図である。

【図 8 - 5】示唆表示有無判定テーブルを示す図である。

【図 8 - 6】示唆表示の演出タイミングの代表例を示すタイミングチャートである。

【図 9 - 1】特徴部 6 1 A K を備えるパチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 9 - 2】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 9 - 3】大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 9 - 4】変動パターンを例示する図である。

【図 9 - 5】セリフ予告を実行するときの演出画面例を示す図である。

10

【図 9 - 6】設定示唆演出を実行するときの演出画面例を示す図である。

【図 9 - 7】セリフ予告及び設定示唆演出を実行するときの演出画面例を示す図である。

【図 9 - 8】演出画像を構成する各画像を表示する複数のレイヤーを説明するための図である。

【図 9 - 9】セリフ予告及び設定示唆演出の実行タイミングなどを示す図である。

【図 9 - 10】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 9 - 11】セリフ予告の実行の有無等の決定例を示す図である。

【図 9 - 12】設定示唆演出の実行の有無の決定例を示す図である。

【図 9 - 13】設定示唆演出の種類の決定例を示す図である。

【図 9 - 14】変形例に係る演出画面例を示す図である。

20

【図 9 - 15】変形例に係る、モヤの表示及びフリーズの実行の決定例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0046】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

【0047】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

30

【0048】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの LED などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

40

【0049】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

50

## 【 0 0 5 0 】

なお、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

## 【 0 0 5 1 】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示装置 5 は、例えば L C D ( 液晶表示装置 ) や有機 E L ( ElectroLuminescence ) 等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

10

## 【 0 0 5 2 】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄 ( 数字などを示す図柄など ) の可変表示が行われる。ここでは、第 1 特図ゲーム又は第 2 特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において飾り図柄が可変表示 ( 例えば上下方向のスクロール表示や更新表示 ) される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

## 【 0 0 5 3 】

画像表示装置 5 の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

20

## 【 0 0 5 4 】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第 1 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 1 保留記憶数、第 2 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 2 保留記憶数ともいう。また、第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

## 【 0 0 5 5 】

また、遊技盤 2 の所定位置には、複数の L E D を含んで構成された第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とが設けられ、第 1 保留表示器 2 5 A は、L E D の点灯個数によって、第 1 保留記憶数を表示し、第 2 保留表示器 2 5 B は、L E D の点灯個数によって、第 2 保留記憶数を表示する。

30

## 【 0 0 5 6 】

画像表示装置 5 の下方には、入賞球装置 6 A と、可変入賞球装置 6 B とが設けられている。

## 【 0 0 5 7 】

入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第 1 始動入賞口を形成する。第 1 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個 ( 例えば 3 個 ) の賞球が払い出されるとともに、第 1 特図ゲームが開始され得る。

## 【 0 0 5 8 】

40

可変入賞球装置 6 B ( 普通電動役物 ) は、ソレノイド 8 1 ( 図 2 参照 ) によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第 2 始動入賞口を形成する。可変入賞球装置 6 B は、例えば、一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、ソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、当該可動翼片の先端が入賞球装置 6 A に近接し、第 2 始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる ( 第 2 始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。 ) 。その一方で、可変入賞球装置 6 B は、ソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる ( 第 2 始動入賞口が開放状態になるともいう。 ) 。第 2 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個 ( 例えば 3 個 ) の賞球が払い出されるとともに、第 2 特図ゲームが開始され得る。なお、可変入賞球装置 6 B は、閉鎖状態と開放状態とに変化する

50

るものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

【 0 0 5 9 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左右下方 4 箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口 1 0 が設けられる。この場合には、一般入賞口 1 0 のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【 0 0 6 0 】

入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B の下方には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、ソレノイド 8 2（図 2 参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。

10

【 0 0 6 1 】

一例として、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用（特別電動役物用）のソレノイド 8 2 がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口に進入（通過）できなくなる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口に進入しやすくなる。

【 0 0 6 2 】

大入賞口に遊技球が進入したときには、所定個数（例えば 1 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。大入賞口に遊技球が進入したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口及び一般入賞口 1 0 に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出される。

20

【 0 0 6 3 】

一般入賞口 1 0 を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口始動口）への入賞を始動入賞ともいう。

【 0 0 6 4 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左側方）には、普通図柄表示器 2 0 が設けられている。一例として、普通図柄表示器 2 0 は、7 セグメントの L E D などからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、L E D を全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

30

【 0 0 6 5 】

画像表示装置 5 の左方には、遊技球が通過可能な通過ゲート 4 1 が設けられている。遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことに基づき、普図ゲームが実行される。

【 0 0 6 6 】

普通図柄表示器 2 0 の上方には、普図保留表示器 2 5 C が設けられている。普図保留表示器 2 5 C は、例えば 4 個の L E D を含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数を L E D の点灯個数により表示する。

【 0 0 6 7 】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

40

【 0 0 6 8 】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の遊技効果ランプ 9 が設けられている。遊技効果ランプ 9 は、L E D を含んで構成されている。

【 0 0 6 9 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 では図示略）には、演出に応じて動作する可動体 3 2 が設けられている。

【 0 0 7 0 】

50

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）30 が設けられている。

【0071】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する打球供給皿（上皿）が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い出される打球供給皿（下皿）が設けられている。

【0072】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ 31A が取り付けられている。スティックコントローラ 31A には、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ 31A に対する操作は、コントローラセンサユニット 35A（図 2 参照）により検出される。

10

【0073】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン 31B が設けられている。プッシュボタン 31B に対する操作は、プッシュセンサ 35B（図 2 参照）により検出される。

【0074】

パチンコ遊技機 1 では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ 31A やプッシュボタン 31B が設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

20

【0075】

（遊技の進行の概略）

パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドル 30 への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート 41 を通過すると、普通図柄表示器 20 による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート 41 を通過した場合（遊技球が通過ゲート 41 を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば 4）まで保留される。

30

【0076】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置 6B を所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第 2 始動入賞口が開放状態になる）。

【0077】

入賞球装置 6A に形成された第 1 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 1 特別図柄表示装置 4A による第 1 特図ゲームが開始される。

【0078】

40

可変入賞球装置 6B に形成された第 2 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 2 特別図柄表示装置 4B による第 2 特図ゲームが開始される。

【0079】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば 4）までその実行が保留される。

【0080】

特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」と

50

なり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0081】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

【0082】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

10

【0083】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（後述の、通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

【0084】

小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態では、一部の大当り種別のときの大当り遊技状態と同様の開放態様（大入賞口の開放回数が上記ラウンド数と同じであり、かつ、大入賞口の閉鎖タイミングも同じ等）で大入賞口が開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

20

【0085】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

【0086】

時短状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

30

【0087】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

【0088】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変等）ともいう。

40

【0089】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、時短状態、確変状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率及び特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態で

50

ある。

【 0 0 9 0 】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

【 0 0 9 1 】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。なお、特図ゲームの表示結果として「小当り」がなくてもよい。

【 0 0 9 2 】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【 0 0 9 3 】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機 1 では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置 5 に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力、及び／又は、遊技効果ランプ 9 の点等／消灯、可動体 3 2 の動作等により行われてもよい。

【 0 0 9 4 】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置 5 に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R では、第 1 特図ゲーム又は第 2 特図ゲームが開始されることに伴って、飾り図柄の可変表示が開始される。第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3 つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【 0 0 9 5 】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置 5 の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【 0 0 9 6 】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに伴ってリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機 1 では、演出態様に伴って表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

【 0 0 9 7 】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置 5 の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【 0 0 9 8 】

10

20

30

40

50

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

#### 【0099】

特図ゲームの表示結果が「小当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別）の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

10

#### 【0100】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

20

#### 【0101】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

30

#### 【0102】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

#### 【0103】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当り種別）での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

40

#### 【0104】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストラーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

50

## 【 0 1 0 5 】

## ( 基板構成 )

パチンコ遊技機 1 には、例えば図 2 に示すような主基板 1 1、演出制御基板 1 2、音声制御基板 1 3、ランプ制御基板 1 4、中継基板 1 5 などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機 1 の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

## 【 0 1 0 6 】

主基板 1 1 は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機 1 における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板 1 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0、スイッチ回路 1 1 0、ソレノイド回路 1 1 1 などを有する。

10

## 【 0 1 0 7 】

主基板 1 1 に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、例えば 1 チップのマイクロコンピュータであり、ROM (Read Only Memory) 1 0 1 と、RAM (Random Access Memory) 1 0 2 と、CPU (Central Processing Unit) 1 0 3 と、乱数回路 1 0 4 と、I/O (Input/Output port) 1 0 5 とを備える。

## 【 0 1 0 8 】

CPU 1 0 3 は、ROM 1 0 1 に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板 1 1 の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM 1 0 1 が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 1 0 2 がメインメモリとして使用される。RAM 1 0 2 は、その一部または全部がパチンコ遊技機 1 に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップ RAM となっている。なお、ROM 1 0 1 に記憶されたプログラムの全部又は一部を RAM 1 0 2 に展開して、RAM 1 0 2 上で実行するようにしてもよい。

20

## 【 0 1 0 9 】

乱数回路 1 0 4 は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU 1 0 3 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

30

## 【 0 1 1 0 】

I/O 1 0 5 は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第 1 特別図柄表示装置 4 A、第 2 特別図柄表示装置 4 B、普通図柄表示器 2 0、第 1 保留表示器 2 5 A、第 2 保留表示器 2 5 B、普図保留表示器 2 5 C など）を制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

## 【 0 1 1 1 】

スイッチ回路 1 1 0 は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ 2 1、始動口スイッチ（第 1 始動口スイッチ 2 2 A および第 2 始動口スイッチ 2 2 B）、カウントスイッチ 2 3）からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

40

## 【 0 1 1 2 】

ソレノイド回路 1 1 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド 8 1 やソレノイド 8 2 をオンする信号など）を、普通電動役物のソレノイド 8 1 や大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に伝送する。

## 【 0 1 1 3 】

主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板 1 2 に供給する。主基板 1 1 から出力された演出制御コマンドは、

50



中継基板 1 5 により中継され、演出制御基板 1 2 に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板 1 1 における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

【 0 1 1 4 】

演出制御基板 1 2 は、主基板 1 1 とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体 3 2 の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

10

【 0 1 1 5 】

演出制御基板 1 2 には、演出制御用 CPU 1 2 0 と、ROM 1 2 1 と、RAM 1 2 2 と、表示制御部 1 2 3 と、乱数回路 1 2 4 と、I / O 1 2 5 とが搭載されている。

【 0 1 1 6 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、ROM 1 2 1 に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部 1 2 3 とともに演出を実行するための処理（演出制御基板 1 2 の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM 1 2 1 が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 1 2 2 がメインメモリとして使用される。

【 0 1 1 7 】

20

演出制御用 CPU 1 2 0 は、コントローラセンサユニット 3 5 A やプッシュセンサ 3 5 B からの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部 1 2 3 に指示することもある。

【 0 1 1 8 】

表示制御部 1 2 3 は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【 0 1 1 9 】

表示制御部 1 2 3 は、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 1 2 3 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 9 の点灯 / 消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 1 3 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯 / 消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 1 4 に供給したりする。また、表示制御部 1 2 3 は、可動体 3 2 を動作させる信号を当該可動体 3 2 又は当該可動体 3 2 を駆動する駆動回路に供給する。

30

【 0 1 2 0 】

音声制御基板 1 3 は、スピーカ 8 L、8 R を駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ 8 L、8 R を駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ 8 L、8 R から出力させる。

【 0 1 2 1 】

40

ランプ制御基板 1 4 は、遊技効果ランプ 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 を点灯 / 消灯する。このようにして、表示制御部 1 2 3 は、音声出力、ランプの点灯 / 消灯を制御する。

【 0 1 2 2 】

なお、音声出力、ランプの点灯 / 消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体 3 2 の制御（可動体 3 2 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 1 2 0 が実行するようにしてもよい。

【 0 1 2 3 】

乱数回路 1 2 4 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）

50

を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用CPU120が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

#### 【0124】

演出制御基板12に搭載されたI/O125は、例えば主基板11などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

#### 【0125】

演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、主基板11以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機1のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

#### 【0126】

（動作）

次に、パチンコ遊技機1の動作（作用）を説明する。

#### 【0127】

（主基板11の主要な動作）

まず、主基板11における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機1に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理が実行される。図3は、主基板11におけるCPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

#### 【0128】

図3に示す遊技制御メイン処理では、CPU103は、まず、割込禁止に設定する（ステップS1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップS2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ/タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

#### 【0129】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する（ステップS3）。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号（クリア信号）が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合（ステップS3；Yes）、初期化处理（ステップS8）を実行する。初期化处理では、CPU103は、RAM102に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアするRAMクリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

#### 【0130】

また、CPU103は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS9）。演出制御用CPU120は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

#### 【0131】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には（ステップS3；No）、RAM102（バックアップRAM）にバックアップデータが保存されているか否かを判定する（ステップS4）。不測の停電等（電断）によりパチンコ遊技機1への電力供給が停止したときには、CPU103は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップS4では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフでRAM1

10

20

30

40

50

02にバックアップデータが記憶されていない場合（ステップS4；No）、初期化处理（ステップS8）を実行する。

【0132】

RAM102にバックアップデータが記憶されている場合（ステップS4；Yes）、CPU103は、バックアップしたデータのデータチェックを行い（誤り検出符号を用いて行われる）、データが正常か否かを判定する（ステップS5）。ステップS5では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM102のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM102のデータが正常であると判定する。

【0133】

RAM102のデータが正常でないと判定された場合（ステップS5；No）、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化处理（ステップS8）を実行する。

【0134】

RAM102のデータが正常であると判定された場合（ステップS5；Yes）、CPU103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理（ステップS6）を行う。復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容（バックアップしたデータの内容）に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

【0135】

そして、CPU103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS7）。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

【0136】

復旧処理または初期化处理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後には、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS10）。そして、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込みがかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い（ステップS11）、割込みを許可する（ステップS12）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば2ms）ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0137】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップS21）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップS22）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報（大当たりの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となつ

10

20

30

40

50

た回数等を示す情報)などのデータを出力する(ステップS23)。

【0138】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する(ステップS24)。この後、CPU103は、特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25)。CPU103がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される(詳しくは後述)。

【0139】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される(ステップS26)。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく(通過ゲート41に遊技球が通過したことに基づく)普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

【0140】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する(ステップS27)。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS27のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

【0141】

図5は、特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、始動入賞判定処理を実行する(ステップS101)。

【0142】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果(大当り種別を含む)や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

【0143】

S101にて始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110~S120の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理(ステップS110~S120)では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

【0144】

ステップS110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”(初期値)のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かや「大当り」とする場合の大当り種別を、その表示結果が

10

20

30

40

50

導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図 2 優先消化ともいう）。また、第 1 始動入賞口及び第 2 始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

#### 【 0 1 4 5 】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM 1 0 1 に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板 1 1 における他の決定、演出制御基板 1 2 における各種の決定についても同じである。演出制御基板 1 2 においては、各種のテーブルが ROM 1 2 1 に格納されている。

#### 【 0 1 4 6 】

ステップ S 1 1 1 の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

#### 【 0 1 4 7 】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

#### 【 0 1 4 8 】

ステップ S 1 1 2 の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してから経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してから経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

#### 【 0 1 4 9 】

ステップ S 1 1 3 の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B にて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される。その一方で、大当りフラグがオフであり、表示結果が「小当り」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。表示結果が「小当り」又は「ハズレ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

#### 【 0 1 5 0 】

ステップ S 1 1 4 の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間

10

20

30

40

50

や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新され、大当り開放前処理は終了する。

【 0 1 5 1 】

ステップ S 1 1 5 の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としての経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新し、大当り開放中処理を終了する。

10

【 0 1 5 2 】

ステップ S 1 1 6 の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当り解放後処理は終了する。

【 0 1 5 3 】

20

ステップ S 1 1 7 の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、大当り終了処理は終了する。

【 0 1 5 4 】

ステップ S 1 1 8 の小当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 8 ”のときに実行される。この小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基づき、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”に更新され、小当り開放前処理は終了する。

30

【 0 1 5 5 】

ステップ S 1 1 9 の小当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 9 ”のときに実行される。この小当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としての経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当り遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“ 1 0 ”に更新され、小当り開放中処理は終了する。

【 0 1 5 6 】

40

ステップ S 1 2 0 の小当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 0 ”のときに実行される。この小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機 1 における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、小当り終了処理は終了する。

【 0 1 5 7 】

( 演出制御基板 1 2 の主要な動作 )

次に、演出制御基板 1 2 における主要な動作を説明する。演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 C P U 1 2 0 が起動して、図 6 のフロ

50

ーチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 6 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 CPU 120 は、まず、所定の初期化処理を実行して（ステップ S 7 1）、RAM 122 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 12 に搭載された CTC（カウンタ/タイマ回路）のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する（ステップ S 7 2）。初期動作制御処理では、可動体 32 を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体 32 の初期動作を行う制御が実行される。

【0158】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップ S 7 3）。タイマ割込みフラグは、例えば CTC のレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば 2 ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップ S 7 3；No）、ステップ S 7 3 の処理を繰り返し実行して待機する。

10

【0159】

また、演出制御基板 12 の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板 11 からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板 11 からの演出制御 INT 信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御 INT 信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用 CPU 120 は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならない CPU を用いている場合には、割込み禁止命令（DI 命令）を発行することが望ましい。演出制御用 CPU 120 は、演出制御 INT 信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O 125 に含まれる入力ポートのうちで、中継基板 15 を介して主基板 11 から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えば RAM 122 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用 CPU 120 は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

20

【0160】

ステップ S 7 3 にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップ S 7 3；Yes）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップ S 7 4）、コマンド解析処理を実行する（ステップ S 7 5）。コマンド解析処理では、例えば主基板 11 の遊技制御用マイクロコンピュータ 100 から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドを RAM 122 の所定領域に格納したり、RAM 122 に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部 123 に指示してもよい。

30

【0161】

ステップ S 7 5 にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップ S 7 6）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力動作、遊技効果ランプ 9 及び装飾用 LED といった装飾発光体における点灯動作、可動体 32 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 11 から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

40

【0162】

ステップ S 7 6 の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップ S 7 7）、演出制御基板 12 の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップ S 7 3 の処理に戻る。ステップ S 7 3 の処

50

理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【 0 1 6 3 】

図 7 は、演出制御プロセス処理として、図 6 のステップ S 7 6 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 7 に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップ S 1 6 1）。先読予告設定処理では、例えば、主基板 1 1 から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【 0 1 6 4 】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば RAM 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ~ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

【 0 1 6 5 】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 0 ”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を “ 1 ” に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【 0 1 6 6 】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が “ 1 ” のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を “ 2 ” に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

【 0 1 6 7 】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が “ 2 ” のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8 L、8 R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED を点灯 / 消灯 / 点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 1 1 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

【 0 1 6 8 】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、主基板 1 1 から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始す

10

20

30

40

50



ることを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“ 6 ”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“ 4 ”に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

【 0 1 6 9 】

ステップ S 1 7 4 の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“ 5 ”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

10

【 0 1 7 0 】

ステップ S 1 7 5 の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

20

【 0 1 7 1 】

ステップ S 1 7 6 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“ 7 ”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

30

【 0 1 7 2 】

ステップ S 1 7 7 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【 0 1 7 3 】

( 基本説明の変形例 )

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機 1 に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

40

【 0 1 7 4 】

上記基本説明のパチンコ遊技機 1 は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【 0 1 7 5 】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは 1 種類の図柄 ( 例えば、「 - 」を示す記号 ) だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい ( 表示結果としては「 - 」を示す記号が表示されなくてもよい ) 。

50

## 【 0 1 7 6 】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機 1 を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、R T、A T、A R T、C Z（以下、ボーナス等）のうち 1 以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

## 【 0 1 7 7 】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機 1 に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

10

## 【 0 1 7 8 】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

20

## 【 0 1 7 9 】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0 %」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0 %」の割合で、他方が「1 0 0 %」の割合又は「1 0 0 %」未満の割合であることも含む。

## 【 0 1 8 0 】

（特徴部 1 1 1 F に関する説明）

〔特徴部 1 1 1 F の制御の概要〕

30

次に、本実施の形態の特徴部 1 1 1 F について説明する。特徴部 1 1 1 F については、次のように大当りの当選確率のような遊技者にとって有利度が異なる設定値を設定手段により設定可能なパチンコ遊技機を対象とした技術を説明する。遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0（C P U 1 0 3）は、大当りの当選確率の設定値として、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段としての機能も有する。

## 【 0 1 8 1 】

まず、設定値について説明する。本例で説明するパチンコ遊技機 1 は、遊技場側の者（遊技場の店員等）による所定のスイッチ等の操作手段等を用いた設定変更操作により設定値に応じた大当りの当選確率が変わる構成とされている。

40

## 【 0 1 8 2 】

例えば遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0（C P U 1 0 3）において、設定変更操作に応じてパチンコ遊技機 1 に設定する大当りの当選確率を変更可能とする設定変更処理が実行される。これにより、特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブルを用いることにより、大当りの当選確率を変更可能とする設定変更処理が実行される。設定値は例えば 1 ～ 6 の 3 段階（複数段階）からなり、大当りの当選確率が設定値 1 < 設定値 2 < 設定値 3 < 設定値 4 < 設定値 5 < 設定値 6 の順に高くなる。すなわち、設定値として設定値 1 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が低く、設定値 2 < 設定値 3 < 設定値 4 < 設定値 5 < 設定値 6 の順番で有利度が段階的に高くなる。なお、設定値は、複数段階設けられていればよく、6 段階に限定される

50

ものではない。このように大当りの当選確率を変更可能とすることに応じて出球率（単位時間あたりの出球数（賞球数））が変化するため、設定値を変更することは出玉率を変更するとも言える。

#### 【 0 1 8 3 】

例えば、本実施の形態のパチンコ遊技機は、電源投入時の設定変更操作による設定値の選択に応じて大当りの当選確率が変わる。6段階の設定値のうち、例えば設定値6は、大当りの当選確率が高い高設定と呼ばれ、例えば設定値1は、大当りの当選確率が低い低設定と呼ばれる場合がある。

#### 【 0 1 8 4 】

また、大当りの種別の選択確率も、大当りの当選確率と同様に、設定値1～設定値6の設定により変更可能としてもよい。変動パターン種別の選択確率も、大当りの当選確率と同様に、設定値1～設定値6の設定により変更可能としてもよい。変動パターンの選択確率も、大当りの当選確率と同様に、設定値1～設定値6の設定により変更可能としてもよい。

10

#### 【 0 1 8 5 】

特徴部111Fについては、複数の設定値のうちのいずれかの設定値を設定可能なパチンコ遊技機において、設定手段に関する示唆をする設定示唆演出として、設定値がいずれの設定値であるかを示唆する設定値示唆に関する演出（以下、設定値示唆演出と呼ぶ）を実行する制御例を説明する。なお、設定示唆演出としては、設定値が変更された（起動時に設定変更処理が実行された）ことを示唆する設定変更示唆に関する演出（以下、設定変更示唆演出と呼ぶ）を実行するようにしてもよい。

20

#### 【 0 1 8 6 】

特徴部111Fについては、飾り図柄の可変表示中において、飾り図柄の表示領域において、回転数カウンタ（電源投入時または前回の当り遊技状態の終了時から新たに大当りが発生するまでの可変表示回数を計数するカウンタ）の画像等の特定表示を実行可能であって、大当り遊技状態に制御されることを示唆する予告としての大当り予告等の予告演出に対応する特定態様で当該特定表示を表示可能であるとともに、設定示唆演出に対応する特別態様で当該特定表示を表示可能あり、飾り図柄の表示とは異なる表示の優先度により、当該特定表示を表示可能である例を説明する。

#### 【 0 1 8 7 】

30

〔特徴部111Fのコマンドの構成〕

図8-1は、特徴部111F、103Fで用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば2バイト構成であり、1バイト目はMODE（コマンドの分類）を示し、2バイト目はEXT（コマンドの種類）を表す。MODEデータの先頭ビット（ビット7）は必ず「1」とされ、EXTデータの先頭ビットは「0」とされる。なお、図8-2に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが2つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1であってもよいし、3以上の複数であってもよい。

#### 【 0 1 8 8 】

40

図8-1に示す例において、コマンド8001Hは、第1特別図柄表示装置207SG004Aにおける第1特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第1変動開始コマンドである。コマンド8002Hは、第2特別図柄表示装置207SG004Bにおける第2特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第2変動開始コマンドである。コマンド81XXHは、特図ゲームにおける特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L, 5C, 5Rで変動表示される飾り図柄等の変動パターン（変動時間）を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXHは不特定の16進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。なお、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターン等に応じて、異なるEXTデータが設定される。

50

## 【 0 1 8 9 】

コマンド 8 C X X H は、変動表示結果通知コマンドであり、特別図柄や飾り図柄等の変動表示結果を指定する演出制御コマンドである。変動表示結果通知コマンドでは、例えば図 8 - 8 ( B ) に示すように、変動表示結果が「ハズレ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果（事前決定結果）や、変動表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当たり種別決定結果）に応じて、異なる E X T データが設定される。

## 【 0 1 9 0 】

コマンド 8 F 0 0 H は、画像表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L , 5 C , 5 R で飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンドである。コマンド 9 5 X X H は、図 8 - 1 のパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えば図 8 - 1 のパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる E X T データが設定される。具体的な一例として、コマンド 9 5 0 0 H を時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第 1 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9 5 0 1 H を時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第 2 遊技状態指定コマンドとする。

## 【 0 1 9 1 】

コマンド 9 6 X X H は、図 8 - 1 のパチンコ遊技機 1 においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応する E X T データが設定されることにより、演出制御基板 1 2 側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、後述するエラー報知処理によって報知される。

## 【 0 1 9 2 】

コマンド A 0 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

## 【 0 1 9 3 】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば変動表示結果通知コマンドと同様の E X T データが設定されること等により、事前決定結果や大当たり種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当たり種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、変動表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「 1 」～「 1 5 」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

## 【 0 1 9 4 】

コマンド B 1 0 0 H は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基づき、第 1 特別図柄表示装置 2 0 7 S G 0 0 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基づき、第 2 特別図柄表示装置 2 0 7 S G 0 0 4 B における第

10

20

30

40

50

２特図を用いた特図ゲームを実行するための第２始動条件が成立したことを通知する第２始動口入賞指定コマンドである。

【０１９５】

コマンドＣ１××Ｈは、画像表示装置５等にて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第１特図保留記憶数を通知する第１保留記憶数通知コマンドである。コマンドＣ２××Ｈは、画像表示装置５等にて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第２特図保留記憶数を通知する第２保留記憶数通知コマンドである。第１保留記憶数通知コマンドは、例えば第１始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第１始動条件が成立したことに基

づいて、第１始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板１１から演出制御基板１２に対して送信される。第２保留記憶数通知コマンドは、例えば第２始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第２始動条件が成立したことに基

づいて、第２始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板１１から演出制御基板１２に対して送信される。また、第１保留記憶数通知コマンドや第２保留記憶数通知コマンドは、第１開始条件と第２開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されること等に対応して送信されるようにしてもよい。

10

【０１９６】

第１保留記憶数通知コマンドや第２保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられ

20

【０１９７】

コマンドＤ０××Ｈは、新たに設定された設定値を主基板１１から演出制御基板１２（演出制御用ＣＰＵ１２０）に指定するための設定値指定コマンドである。演出制御用ＣＰＵ１２０は、設定値指定コマンドにより指定された設定値をＲＡＭ１２２に記憶する。ＲＡＭ１２２は、その一部または全部がパチンコ遊技機１に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップＲＡＭであり、ＲＡＭ１２２において、記憶された設定値は、電源供給が停止してもバックアップ記憶される。ＲＡＭ１２２において記憶された設定値のデータは、演出制御用ＣＰＵ１２０側が設定値指定コマンドを受信したときに更新される。これにより、演出制御用ＣＰＵ１２０側では、ＲＡＭ１２２の記憶データに基づいて、現在の設定値を常時認識可能である。コマンドＥ１０１Ｈは、図８－１のパチンコ遊技機１がＲＡＭ１０２の内容をクリアせずに起動したこと（電断復旧したこと、ホットスタートとも言う）を通知するホットスタート通知コマンドである。コマンドＥ１０２Ｈは、パチンコ遊技機１がＲＡＭ１０２の内容をクリアして起動したこと（コールドスタート）を通知するコールドスタート通知コマンドである。コマンドＥ１０３Ｈは、パチンコ遊技機１において設定値の変更操作が開始されたこと（パチンコ遊技機１が設定値変更状態で起動したこと）を通知する設定値変更開始通知コマンドである。コマンドＥ１０４Ｈは、パチンコ遊技機１において設定値の変更操作が終了したことを通知する設定値変更終了通知コマンドである。コマンドＥ１０５Ｈは、パチンコ遊技機１において設定値の確認操作が開始されたこと（パチンコ遊技機１が設定値確認状態で起動したこと）を通知する設定値確認開始通知コマンドである。コマンドＥ１０６Ｈは、パチンコ遊技機１の設定値の確認操作が終了したことを通知する設定値変更終了通知コマンドである。

30

40

【０１９８】

コマンドＦ１××ＨおよびコマンドＦ２××Ｈである。これらのコマンドは、第１始動入賞口、または、第２始動入賞口への始動入賞時における大当り種別判定、変動パターン種別判定等の入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンドである。このうち、コマンドＦ１××Ｈは、入賞時判定結果のうち、大当りとなるか否か、および、大当りの種別の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンドＦ２××Ｈは、入賞時判定結果のうち、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかの判定結果（変動パターン種別の判定結果）を示す変動種別コマンドである。

【０１９９】

50

コマンド F 1 X X H は、入賞時判定結果のうち、大当たりとなるか否か、および、大当たりの種別の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンド F 2 X X H は、入賞時判定結果のうち、変動パターン種別判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかの判定結果（変動パターン種別の判定結果）を示す変動種別コマンドである。

【 0 2 0 0 】

〔変動パターン指定コマンドに基づく処理〕

演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置 5 を動作させることにより、表示される飾り図柄の変動表示を行う。また、特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置 5 に飾り図柄を縮小した態様の常時小図柄を設けてもよい。このような場合に、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置 5 を動作させることにより、表示される常時小図柄の変動表示を行う。

10

【 0 2 0 1 】

〔演出制御メイン処理〕

次に、特徴部 1 1 1 F において実行される演出制御メイン処理について説明する。図 8 - 2 は、特徴部 1 1 1 F における演出制御メイン処理を示すフローチャートである。図 8 - 2 において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して（2 0 7 S G S 4 0 1）、RAM 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された CTC（カウンタ/タイマ回路）のレジスタ設定等を行う。

【 0 2 0 2 】

20

また、演出制御用 CPU 1 2 0 は、主基板 1 1 から送信されるコマンドの受信待ち期間に応じたコマンド受信待ちタイマをセットする（2 0 7 S G S 4 0 3）。そして、コマンド受信待ちタイマの値を - 1 し（2 0 7 S G S 4 0 4）、該コマンド受信待ちタイマがタイマアウトしたか否かを判定する（2 0 7 S G S 4 0 5）。コマンド受信待ちタイマがタイマアウトした場合（2 0 7 S G S 4 0 5 ; N）は、2 0 7 S G S 4 0 4 及び 2 0 7 S G S 4 0 5 の処理を繰り返し実行し、コマンド受信待ちタイマがタイマアウトするまで待機する。

【 0 2 0 3 】

そして、コマンド受信待ちタイマがタイマアウトした場合（2 0 7 S G S 4 0 5 ; Y）、演出制御用 CPU 1 2 0 は、ホットスタート通知コマンドの受信が有るか否かを判定する（2 0 7 S G S 4 0 6）。ホットスタート通知コマンドの受信が有る場合（2 0 7 S G S 4 0 6 ; Y）、即ち、パチンコ遊技機 1 が電断復旧した場合は、RAM 1 2 2 に記憶されている遊技者情報（後述する遊技者情報入力処理において該遊技者情報の入力を受け付けてから RAM 1 2 2 に記憶される変動回数、大当たり回数、スーパーリーチ回数等を含む情報）をクリアし（2 0 7 S G S 4 0 7）、2 0 7 S G S 4 2 7 に進む。

30

【 0 2 0 4 】

ホットスタート通知コマンドの受信が無い場合（2 0 7 S G S 4 0 6 ; N）、演出制御用 CPU 1 2 0 は、コールド通知コマンドの受信が有るか否かを判定する（2 0 7 S G S 4 0 8）。コールド通知コマンドの受信が有る場合（2 0 7 S G S 4 0 8 ; Y）は、RAM 1 2 2 に記憶されている遊技者情報と演出用情報（前回のパチンコ遊技機 1 の起動時から RAM 1 2 2 に記憶される変動回数、大当たり回数、スーパーリーチ回数等を含む情報）をクリアするとともに（2 0 7 S G S 4 0 9）、RAM 1 0 2 に記憶されていた情報がクリアされたことや、RAM 1 2 2 に記憶されていた遊技者情報と演出用情報がクリアされたことを報知（RAM クリア報知を実行）するための RAM クリア報知処理を実行する（2 0 7 S G S 4 1 0）。なお、RAM クリア報知処理では、画像表示装置 5 における画像の表示、遊技効果ランプ 9 の発光、スピーカ 8 L , 8 R からの音出力等を所定期間（例えば、1 0 秒間）し、パチンコ遊技機 1 を起動した遊技場の店員等に RAM 1 2 2 に記憶されていた遊技者情報と演出用情報とがクリアされたことを報知できればよい。そして、RAM クリア報知処理の実行後は、2 0 7 S G S 4 2 7 に進む。

40

【 0 2 0 5 】

50

また、コールドスタート通知コマンドの受信が無い場合（207SGS408；N）、演出制御用CPU120は、設定値変更開始通知コマンドまたは設定値確認開始通知コマンドの受信が有るか否かを判定する（207SGS411）。設定値変更開始通知コマンドまたは設定値確認開始通知コマンドの受信が有る場合（207SGS411；Y）、即ち、パチンコ遊技機1が設定値変更状態や設定値確認状態で起動した場合は、設定値の変更操作中であることの報知（設定値変更中報知）や設定値の確認中であることの報知（設定値確認中報知）を実行するための設定値関連報知処理を実行する（207SGS412）。設定値関連報知処理においては、設定変値の更中であることを示す報知画像や設定値の確認中であることを示す報知画像が表示される。

#### 【0206】

207SGS412において設定値関連報知処理を実行した後は、サブ側遊技停止処理を実行する（40FS001）。サブ側遊技停止処理においては、設定変更状態中や設定確認状態中に主基板11から演出制御基板12に対して演出制御コマンドが送信された場合に演出制御用CPU120によって、遊技を停止するための処理が実行される。サブ側遊技停止処理の詳細は、図8-3において説明する。

#### 【0207】

40FS001においてサブ側遊技停止処理が実行された後は、設定値変更終了通知コマンドまたは設定値確認終了通知コマンドの受信があるか否かを判定する（207SGS416）。設定値変更終了通知コマンドまたは設定値確認終了通知コマンドの受信がない場合（207SGS416；N）は207SGS412に進み、設定値変更終了通知コマンド及び設定値確認終了通知コマンドの受信がある場合（207SGS416；Y）は207SGS427に進む。

#### 【0208】

207SGS411において設定値変更開始通知コマンド及び設定値確認開始通知コマンドの受信が無い場合（207SGS411；N）、演出制御用CPU120は、エラー指定コマンドの受信が有るか否かを判定する（207SGS425）。エラー指定コマンドの受信が有る場合（207SGS425；Y）は、エラー指定コマンドが示すエラー報知を行うためのエラー報知処理（207SGS426）を実行し、エラー指定コマンドの受信が無い場合（207SGS425；N）は、207SGS403に進む。

#### 【0209】

207SGS427に進んだ場合、演出制御用CPU120は、ホットスタート通知コマンド、コールドスタート通知コマンド、設定値変更終了通知コマンド、設定値確認終了通知コマンドのいずれを受信したかを特定し、画像表示装置5において該受信したコマンドに応じた初期図柄の表示を開始する。例えば、受信したコマンドがホットスタート通知コマンドや設定値確認終了通知コマンド、コールドスタート通知コマンドである場合、つまり、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定されていない場合には、画像表示装置5に初期図柄として左から「1」、「2」、「3」の組み合わせで飾り図柄の表示を開始する。また、受信したコマンドが設定値変更終了通知コマンドである場合、つまり、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定された可能性のある場合には、画像表示装置5に初期図柄として左から「4」、「5」、「6」の組み合わせで飾り図柄の表示を開始する。

#### 【0210】

なお、図パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定された可能性のある場合には、遊技者にとって有利な設定値（例えば、「6」）が設定された場合は、遊技者にとって不利な設定値が（例えば「1」）が設定された場合よりも高い割合で初期図柄として飾り図柄を「4」、「5」、「6」の組み合わせで表示してもよい。このようにすることで、パチンコ遊技機1に遊技者にとって有利な設定値が設定されていることを示唆することでき、遊技興趣を向上できる。

#### 【0211】

また、パチンコ遊技機1に新たな設定値が設定された可能性のある場合には、遊技者にとって有利な設定値（例えば、「6」）が設定された場合と、遊技者にとって不利な設定

10

20

30

40

50

値が（例えば「１」）が設定された場合とで、画像表示装置５に表示する初期図柄を異ならせてもよい。また、遊技者にとって有利な設定値（例えば、「６」）が設定された場合と、遊技者にとって不利な設定値が（例えば「１」）が設定された場合とで、スピーカ８Ｌ，８Ｒから出力される音の音量や、遊技効果ランプ９の光量等を異ならせるようにしてもよい。

#### 【０２１２】

次に、最初の４変動において先読予告演出の実行を規制するために、先読規制カウンタに「４」をセットする（２０７ＳＧＳ４２８）。その後、演出制御用ＣＰＵ１２０は、タイマ割込フラグの監視（２０７ＳＧＳ４２９）を行うループ処理に移行する。タイマ割込が発生すると、演出制御用ＣＰＵ１２０は、タイマ割込処理においてタイマ割込フラグを

10

#### 【０２１３】

演出制御用ＣＰＵ１２０は、まず、パチンコ遊技機１が起動したことを報知するための起動報知処理を実行する（２０７ＳＧＳ４３１）。起動報知処理においては、例えば、該割込がパチンコ遊技機１の起動から最初の割込であるか否かを判定する。パチンコ遊技機１の起動から最初の割込である場合は、ホットスタート通知コマンド、コールドスタート通知コマンド、設定値変更終了通知コマンド、設定値確認終了通知コマンドのいずれを受信したかを特定し、該受信したコマンドに対応する起動報知用プロセステーブルを選択するとともに、該受信したコマンドに対応する起動報知用プロセスタイマをスタートさせる

20

#### 【０２１４】

なお、本実施の形態における特徴部２０７ＳＧでは、パチンコ遊技機１の起動時に受信したコマンドがホットスタート通知コマンド、コールドスタート通知コマンド、設定値変更終了通知コマンド、設定値確認終了通知コマンドのいずれかであるかに応じて、パチンコ遊技機１の起動報知の態様が異なっている。例えば、のパチンコ遊技機１を起動する際にホットスタート通知コマンドや設定値確認終了通知コマンドを受信している場合、つまり、パチンコ遊技機１に新たな設定値が設定されていない場合には、遊技効果ランプ９の

30

#### 【０２１５】

また、パチンコ遊技機１を起動する際にコールドスタート通知コマンドを受信している場合、つまり、パチンコ遊技機１に新たな設定値が設定されておらず、且つＲＡＭ１０２におけるデータがクリアされている場合には、遊技効果ランプ９の６０秒間の発光とスピーカ８Ｌ，８Ｒから３０秒間の出力音Ｂの出力を実行する。なお、これら遊技効果ランプ

40

#### 【０２１６】

本発明における特定制御とは、パチンコ遊技機１がホットスタートや設定確認状態で起動した場合に、演出制御用ＣＰＵ１２０が、遊技効果ランプ９の６０秒間の発光とスピーカ８Ｌ，８Ｒから３０秒間の出力音Ａの出力を実行することと、パチンコ遊技機１がコールドスタートで起動した場合に、演出制御用ＣＰＵ１２０が遊技効果ランプ９の６０秒間の発光とスピーカ８Ｌ，８Ｒから３０秒間の出力音Ｂの出力を実行することの両方を含ん

50



でいる。

【0217】

また、パチンコ遊技機1を起動する際に設定値変更終了通知コマンドまたは設定値変更終了通知コマンドを受信している場合には、遊技効果ランプ9の40秒間の発光とスピーカ8L, 8Rから20秒間の出力音Cの出力、そして画像表示装置5において40秒間のメッセージ画像(例えば、設定値の変更が終了した旨のメッセージ画像)の表示を実行する。なお、これら遊技効果ランプ9の40秒間の発光開始タイミングとスピーカ8L, 8Rからの20秒間の出力音Cの出力開始タイミング、画像表示装置5でのメッセージ画像の表示開始タイミングは同一であるが、これら遊技効果ランプ9の40秒間の発光開始タイミングとスピーカ8L, 8Rからの20秒間の出力音Cの出力開始タイミング、画像表示装置5でのメッセージ画像の表示開始タイミングは異なってもよい。

10

【0218】

特に、パチンコ遊技機1を起動する際に設定値変更終了通知コマンドを受信している場合は、パチンコ遊技機1を起動する際にホットスタート通知コマンドやコールドスタート通知コマンドを受信している場合とは異なり、画像表示装置5においてメッセージ画像の表示を行うため、パチンコ遊技機1の設定値が変更されたことが認識され易いようになっている。

【0219】

なお、パチンコ遊技機1が起動した際の起動報知を遊技効果ランプ9、スピーカ8L, 8R、画像表示装置5を用いて実行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に遊技場の管理コンピュータや各台計数機等の管理装置に信号を出力可能な外部出力端子を設け、パチンコ遊技機1が起動した際の起動報知として、該外部出力端子から管理装置にパチンコ遊技機1が起動したことを特定可能な信号を出力するようにしてもよい。

20

【0220】

また、パチンコ遊技機1がホットスタート、コールドスタート、設定変更状態、設定確認状態のいずれで起動した場合であっても起動報知を実行する装置が一部共通である(いずれにおいても遊技効果ランプ9の発光とスピーカ8L, 8Rからの音出力を実行する)形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1がホットスタート、コールドスタート、設定変更状態、設定確認状態のいずれで起動したかに応じて起動報知を実行する装置が異なる(例えば、パチンコ遊技機1がコールドスタートで起動した場合には、画像表示装置5にてメッセージ画像を表示し、パチンコ遊技機1が設定変更状態で起動した場合には、前述した外部出力端子から管理装置に信号を出力する等)ようにしてもよい。

30

【0221】

また、パチンコ遊技機1がホットスタート、コールドスタート、設定変更状態、設定確認状態のいずれで起動したかに応じて起動報知を実行する各装置での報知態様を異ならせてもよい。具体的には、パチンコ遊技機1がコールドスタートで起動した場合は、パチンコ遊技機1に設けられている全ての遊技効果ランプ9を発光させる一方で、パチンコ遊技機1が設定変更状態で起動した場合には、パチンコ遊技機1に設けられている遊技効果ランプ9のうち一部のみを発光させてもよい。

40

【0222】

さらに、パチンコ遊技機1が設定変更状態で起動した場合は、遊技機用枠が開放されている状態であるので、スピーカ8L, 8Rのうち一方のみから音出力を行い(パチンコ遊技機1に3個以上のスピーカが設けられている場合は、一部のスピーカからのみ音出力を行う)、パチンコ遊技機1がコールドスタートで起動した場合は、遊技機用枠が閉鎖されている状態であることが多いので、全てのスピーカ8L, 8Rからの音出力を行うようにしてもよい。更に、パチンコ遊技機1が設定変更状態で起動した場合は、画像表示装置5において「設定変更中」等の設定変更中である旨を示すメッセージ画像を表示する一方で、パチンコ遊技機1がコールドスタートで起動した場合は、画像表示装置5において「R

50

ＡＭがクリアされました」等のＲＡＭ１０２やＲＡＭ１２２がクリアされた旨を示すメッセージ画像を表示してもよい。

【０２２３】

さらに、パチンコ遊技機１に外部出力端子を複数設ける場合は、各報知に応じて管理装置に信号を出力する端子を異ならせてもよい。例えば、パチンコ遊技機１が設定変更状態で起動した場合は、設定値変更中報知として、設定値の変更が終了するまでの期間（設定値変更終了通知コマンドや設定値指定コマンドを受信するまでの期間）にわたって設定変更に対応する端子から管理装置に信号を出力し、設定値の変更が終了した後は、ＲＡＭクリア報知として、エラーやＲＡＭクリアに対応する端子から管理装置に信号を出力する。なお、パチンコ遊技機１がコールドスタートで起動した場合は、ＲＡＭクリア報知として、エラーやＲＡＭクリアに対応する端子から管理装置に信号を出力するのみでよい。

10

【０２２４】

なお、外部出力端子を各報知において共通して用いる場合には、各報知に応じて管理装置に対して信号を出力するタイミングを異ならせるようにしてもよい。

【０２２５】

以上のように起動報知処理では、受信したコマンドに応じてパチンコ遊技機１の起動報知態様が異なる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらパチンコ遊技機１の起動報知は、受信したコマンドにかかわらず１の報知態様にて実行してもよい。また、パチンコ遊技機１の起動報知は、ホットスタート通知コマンド、コールドスタート通知コマンド、設定値確認終了通知コマンド、設定値変更終了通知コマンドのいずれを受信した場合でも実行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらホットスタート通知コマンド、コールドスタート通知コマンド、設定値確認終了通知コマンド、設定値変更終了通知コマンドのうちで、受信してもパチンコ遊技機１の起動報知を実行しないコマンドを設けてもよい。

20

【０２２６】

また、初期化演出として、パチンコ遊技機１を起動した際に受信したコマンドに応じて異なる態様の起動報知を実行したり、パチンコ遊技機１を起動した際に受信したコマンドに応じて異なる組み合わせの飾り図柄を画像表示装置５に表示してもよく、これら初期化演出としての起動報知の態様や飾り図柄の組み合わせは、パチンコ遊技機１を起動した際に受信したコマンドに応じて全て異なってもよいし、一部のみが同一であってもよい。

30

【０２２７】

また、パチンコ遊技機１がホットスタートで起動した場合、コールドスタートで起動した場合、設定変更状態で起動した場合、設定確認状態で起動した場合のいずれにおいても起動報知を実行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機１がホットスタートで起動した場合や設定確認状態で起動した場合は、これら起動報知を実行しないようにしてもよい。

【０２２８】

次に演出制御用ＣＰＵ１２０は、電源断検出処理を実行する（２０７ＳＧＳ４３２）。電源断検出処理では、演出制御用ＣＰＵ１２０は、まず、電源基板（図示略）からの電源電圧が所定値以下に低下したことを示す電源断信号の入力が有るか否かを判定する。電源断信号の入力が無い場合は、処理を終了し、電源断信号の入力が有る場合は、ＲＡＭ１２２に記憶されている設定値情報や遊技者情報等を含むバックアップデータを特定し、該特定したバックアップデータをＲＡＭ１２２に設けられたバックアップデータ記憶領域に格納する。そして、バックアップデータを復旧させるときに用いるチェックデータを作成し、バックアップデータ記憶領域に格納した後、パチンコ遊技機１が電断するまでいずれの処理も実行しないループ処理に移行する。

40

【０２２９】

次に演出制御用ＣＰＵ１２０は、受信した演出制御コマンドを解析し、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする処理等を行う（コマンド解析処理：２０７ＳＧＳ４３３）。このコマンド解析処理において演出制御用ＣＰＵ１２０は、受信コマンドバッ

50

ファに格納されている主基板 1 1 から送信されてきたコマンドの内容を確認する。尚、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から送信された演出制御コマンドは、演出制御 I N T 信号にもとづく割込処理で受信され、R A M 1 2 2 に形成されているバッファ領域に保存されている。コマンド解析処理では、バッファ領域に保存されている演出制御コマンドがどのコマンド（図 8 - 1 参照）であるのか解析する。

#### 【 0 2 3 0 】

次いで、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御プロセス処理を行う（ 2 0 7 S G S 4 3 4 ）。演出制御プロセス処理では、制御状態に応じた各プロセスのうち、現在の制御状態（演出制御プロセスフラグ）に対応した処理を選択して画像表示装置 5 の表示制御を実行する。

10

#### 【 0 2 3 1 】

次いで、大当り図柄判定用乱数などの演出用乱数を生成するためのカウンタのカウンタ値を更新する演出用乱数更新処理（ 2 0 7 S G S 4 3 5 ）、遊技者情報の入力を受け付ける遊技者情報入力処理（ 2 0 7 S G S 4 3 6 ）、遊技者情報を出力する遊技者情報出力処理（ 2 0 7 S G S 4 3 7 ）、演出用情報を集計する演出用情報集計処理（ 2 0 7 S G S 4 3 8 ）を実行する。その後、S 5 2 に移行する。

#### 【 0 2 3 2 】

なお、遊技者情報入力処理では、演出制御用 C P U 1 2 0 は、遊技者のスティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B の操作によってパスワード（予め遊技者の遊技情報が記憶されている外部のサーバにて生成されたパスワード。遊技者は、スマートフォン等の通信端末を使用することで該サーバにアクセスし、生成されたパスワードを受信可能）の入力を受け付け、該パスワードから特定した遊技者情報を R A M 1 2 2 に記憶する。更に、演出制御用 C P U 1 2 0 は、変動表示、大当り遊技、スーパーリーチが実行される毎に記憶している遊技者情報としての変動回数、大当り回数、スーパーリーチ回数等を更新記憶する。

20

#### 【 0 2 3 3 】

遊技者情報出力処理では、演出制御用 C P U 1 2 0 は、遊技者のスティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B の操作によって、R A M 1 2 2 に記憶されている遊技者情報にもとづいて 2 次元コードを生成し、該 2 次元コードを画像表示装置 5 に表示する。そして、該 2 次元コードの表示終了後は、R A M 1 2 2 に記憶される遊技者情報をクリアする。尚、遊技者は、画像表示装置 5 に表示された 2 次元コードをスマートフォン等の携帯端末にて読み込むことによって今回の遊技にて集計した遊技者情報を外部サーバに送信することによって、パチンコ遊技機 1 における累計の遊技者情報を該サーバに記憶させておくことができる。

30

#### 【 0 2 3 4 】

演出用情報集計処理では、演出制御用 C P U 1 2 0 は、変動表示、大当り遊技、スーパーリーチが実行される毎に演出用情報として R A M 1 2 2 に記憶されている変動回数、大当り回数、スーパーリーチ回数等を更新記憶する。

#### 【 0 2 3 5 】

##### 〔 サブ側遊技停止処理 〕

40

図 8 - 2 は、4 0 F S 0 0 1 において実行されるサブ側遊技停止処理を示すフローチャートである。演出制御用 C P U 1 2 0 は、C P U 1 0 3 によって主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信された演出制御コマンドを R A M 1 2 2 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。そして、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御コマンド受信用バッファに格納されたコマンドを解析する。

#### 【 0 2 3 6 】

サブ側遊技停止処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、第 1 変動開始コマンドを受信したか否かを判定する（ 4 0 F S 0 1 0 ）。第 1 変動開始コマンドを受信していないと判定された場合には、4 0 F S 0 1 1 の処理へ移行する。第 1 変動開始コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンド

50

を破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において第1変動開始コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる第1特別図柄に対応する第4図柄の変動表示を行う制御を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

【0237】

40FS011において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、第2変動開始コマンドを受信したか否かを判定する。第2変動開始コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS012の処理へ移行する。第2変動開始コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において第2変動開始コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる第2特別図柄に対応する第4図柄の変動表示を行う制御を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

10

【0238】

40FS012において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、変動パターン指定コマンドを受信したか否かを判定する。変動パターン指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS013の処理へ移行する。変動パターン指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において変動パターン指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる飾り図柄の変動表示や常時小図柄の変動表示を行う制御を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

20

【0239】

40FS013において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、大入賞口開放中指定コマンドを受信したか否かを判定する。大入賞口開放中指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS014の処理へ移行する。大入賞口開放中指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において大入賞口開放中指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる大当たり遊技状態中のラウンド数の表示の更新を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

30

【0240】

40FS014において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、第1始動入賞口指定コマンドを受信したか否かを判定する。第1始動入賞口指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS015の処理へ移行する。第1始動入賞口指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において第1始動入賞口指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる第1保留情報の保留表示を表示しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

40

【0241】

40FS015において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、第2始動入賞口指定コマンドを受信したか否かを判定する。第2始動入賞口指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS016の処理へ移行する。第2始動入賞口指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において第2始動入賞口指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる第2保留情報の保留表示を表示しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

【0242】

50

40FS016において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、図柄指定コマンドを受信したか否かを判定する。図柄指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS016の処理へ移行する。図柄指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において図柄指定コマンドを破棄することにより、ランプを発光させる制御による入賞時フラッシュ演出を実行しないようにすることができる。また、演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において図柄指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる入賞時保留変化演出を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

10

#### 【0243】

40FS017において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、変動種別指定コマンドを受信したか否かを判定する。変動種別指定コマンドを受信していないと判定された場合には、40FS018の処理へ移行する。変動種別指定コマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において変動種別指定コマンドを破棄することにより、ランプを発光させる制御による入賞時フラッシュ演出を実行しないようにすることができる。また、演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において変動種別指定コマンドを破棄することにより、画像表示装置5を動作させることによる入賞時保留変化演出を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

20

#### 【0244】

40FS018において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、テストコマンドを受信したか否かを判定する。ここで、テストコマンドとは、工場出荷時等に遊技機に設けられている画面の状態や役物の状態を確認するためのコマンドを送る装置から演出制御基板12に直接送信されるコマンドである。テストコマンドを送信する場合には、テストコマンド送信専用の送信装置を演出制御基板12につなげた状態で各種のテストコマンドが送信される。

#### 【0245】

40FS018において、テストコマンドを受信していないと判定された場合には、40FS019の処理へ移行する。テストコマンドを受信したと判定された場合には、設定変更状態中や設定確認状態中であってもテストコマンドに応じた制御を実行する(40FS020)。例えば、演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中において画像表示装置5の液晶をチェックするためのテストコマンドを受信したに基づいて、画像表示装置5を動作させることにより所定のチェック画面を表示させる。このように、設定変更状態中や設定確認状態中であってもテストコマンドの受信に基づいた処理が実行されることとなる。その後、処理を終了する。

30

#### 【0246】

40FS019において、演出制御用CPU120は、演出制御コマンド受信用バッファを確認し、設定変更終了通知コマンドまたは設定確認終了通知コマンド以外のその他のコマンドを受信したか否かを判定する(40FS019)。これらのコマンドは、例えば、図8-1に示すようなコマンドである。これらのコマンドを受信していないと判定された場合には、処理を終了する。これらのコマンドを受信したと判定された場合には、受信したコマンドを破棄する(40FS021)。演出制御用CPU120は、設定変更状態中や設定確認状態中においてこれらのコマンドを破棄することにより、画像表示装置5等の所定の演出手段が演出を実行しないようにすることができる。その後、処理を終了する。

40

#### 【0247】

〔サブ側遊技停止処理により得られる効果〕

図8-3に示すように、演出制御用CPU120は、設定変更状態に制御されているときに、変動パターン指定コマンドを受信したとしても変動パターン指定コマンドを破棄す

50

るため、当該変動パターン指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定変更状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 4 8 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定確認状態に制御されているときに、変動パターン指定コマンドを受信したとしても変動パターン指定コマンドを破棄するため、当該変動パターン指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定確認状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 4 9 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定変更状態に制御されているときに、第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドを受信したとしても第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドを破棄するため、当該第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定変更状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 0 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定確認状態に制御されているときに、第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドを受信したとしても第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドを破棄するため、当該第 1 変動開始コマンド、第 2 変動開始コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定確認状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 1 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定変更状態に制御されているときに、大入賞口開放中指定コマンドを受信したとしても大入賞口開放中指定コマンドを破棄するため、当該大入賞口開放中指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定変更状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 2 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定確認状態に制御されているときに、大入賞口開放中指定コマンドを受信したとしても大入賞口開放中指定コマンドを破棄するため、当該大入賞口開放中指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定確認状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 3 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定変更状態に制御されているときに、第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドを受信したとしても第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドを破棄するため、当該第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定変更状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 4 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、設定確認状態に制御されているときに、第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドを受信したとしても第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドを破棄するため、当該第 1 始動入賞口指定コマンド、第 2 始動入賞口指定コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定確認状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 5 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、設定変更状態に制御されているときに、図柄指定コマンド、変動種別コマンドを破棄するため、当該図柄指定コマンド、変動種別コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定変更状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても入賞時ランプや画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

【 0 2 5 6 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、設定確認状態に制御されているときに、図柄指定コマンド、変動種別コマンドを破棄するため、当該図柄指定コマンド、変動種別コマンドの受信に基づく制御を実行しない。このようにすれば、設定確認状態中においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても入賞時ランプや画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

10

【 0 2 5 7 】

図 8 - 3 に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、CPU 1 0 3 からのコマンドの解析をするが、その後、4 0 F S 0 2 1 のように受信したコマンドを破棄する。このようにすれば、設定変更状態や設定確認状態においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。また、受信したコマンドが破棄されることで情報が残らないため設定変更状態や設定確認状態が終了したとしても誤ったコマンドが残らず、誤動作が実行されることがない。

【 0 2 5 8 】

図 8 - 3 に示すように、設定値変更開始通知コマンドを受信したことに基づいて、設定変更状態であることを報知する画像を表示する設定をし、設定値確認開始通知コマンドを受信したことに基づいて、設定確認状態であることを報知する画像を表示する設定をする。このようにすれば、設定変更状態や設定確認状態に制御されていることを示すことができるとともに、設定変更状態や設定確認状態においてイレギュラーなコマンドの受信があったとしても画像表示装置 5 等の所定の演出手段が誤動作することを防止できる。

20

【 0 2 5 9 】

図 8 - 3 の 4 0 F S 0 2 0 に示すように、設定変更状態や設定確認状態に制御されているときであっても、テストコマンドに応じた制御を実行する。このようにすれば、設定変更状態または設定確認状態に制御されているときであっても、テストコマンドに基づいた画像表示装置 5 等の所定の演出手段の動作を実行することができる。

30

【 0 2 6 0 】

〔段階的な表示態様が変化する示唆表示の演出例〕

次に、特徴部 1 1 1 F について、段階的な表示態様（数値表示およびレベル表示等の段階的な表示態様）の変化により、大当り遊技状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示を実行する演出例を説明する。なお、特許請求の範囲においては、示唆表示のことを予告表示としているが示唆表示と予告表示は同じ意味合いである。以下に予告表示のことを示唆表示と称する。この演出例では、示唆表示の一例として、所謂メータ表示を用いる例を示す。メータ表示は、大当り遊技状態に制御される期待度を数値およびレベルゲージ表示により示す期待度の大きさのレベルを表示する画像であり、数値が多く、レベル表示が高い程、大当り遊技状態に制御される期待度が高いことを示唆する表示である。

40

【 0 2 6 1 】

図 8 - 4 は、段階的に表示態様が変化可能な示唆表示の演出例を示す画像表示装置 5 の表示画面図である。図 8 - 4 ( A ) ~ ( P ) においては、飾り図柄の可変表示の変動開始時から 1 回目の示唆表示の実行を経て、一旦消去した示唆表示が再度表示されるまでの演出等が示されている。

【 0 2 6 2 】

図 8 - 4 ( A ) ~ ( F ) には、飾り図柄（特別図柄）の可変表示の変動開始後において、示唆表示が実行され、演出状態が第 1 S P 演出に発展して第 1 S P 演出が実行されている状態が示されている。図 8 - 4 ( G ) , ( H ) には、第 1 S P 演出でのミッション成功（課題達成）により、演出状態が第 3 S P 演出に発展した状態が示されている。図 8 - 4

50

( I ) ~ ( P ) には、第 1 S P 演出でのミッション失敗 ( 課題不達成 ) により、一旦可変表示結果がはずれ表示結果となった後、示唆表示が再度表示される場合の演出状態と、示唆表示が再度表示されない場合との演出状態が示されている。

【 0 2 6 3 】

図 8 - 4 ( A ) に示すように、画像表示装置 5 の表示領域の中央部では、第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の可変表示に対応して、左、中、右の飾り図柄表示エリア 5 L , 5 C , 5 R での左、中、右の飾り図柄の可変表示の変動が開始される。図中における下向き矢印は、飾り図柄が変動中であることを示している。

【 0 2 6 4 】

当該可変表示において示唆表示の演出を実行することが決定されているときには、図 8 - 4 ( B ) に示すように、可変表示の変動開始後、所定期間が経過したときに、飾り図柄表示エリア 5 L , 5 C , 5 R に左側の領域において、メータ表示形式で大当り遊技状態となる期待度を示唆可能な画像よりなる示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の表示が開始される。

10

【 0 2 6 5 】

示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、数値表示 ( % 表示 ) によりメータ表示をする数値表示部 1 1 1 F 0 0 2 と、レベルゲージ表示 ( 5 分割されたゲージブロックの着色表示 ) によりメータ表示 ( 2 0 % 刻みで 1 0 0 % まで表示可能 ) をするレベル表示部 1 1 1 F 0 0 3 とを含み、数値表示部 1 1 1 F 0 0 2 およびレベル表示部 1 1 1 F 0 0 3 の両方で同じ期待度レベルを表示する。なお、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、数値表示部 1 1 1 F 0 0 2 のみで構成されてもよく、レベル表示部 1 1 1 F 0 0 3 のみで構成されてもよい。

20

【 0 2 6 6 】

示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度をメータ表示により示唆する画像であり、0 % ~ 1 0 0 % の表示をすることが可能であるが、0 % が表示されても大当り遊技状態に制御される場合はあり、1 0 0 % が表示されても大当り遊技状態に制御される場合はあり得る。このように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度の大体の大きさの目安を表示するものである。

【 0 2 6 7 】

なお、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 としては、1 0 0 % が表示されたときに、大当り遊技状態に制御されることが確定するような演出をしてもよい。また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度に加えて、演出制御状態が、大当り遊技状態に制御される期待度が高い状態に進行するか否か ( 例えば、大当り期待度が高い S P 演出への移行等 ) の期待度を示すものであってもよい。また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度に加えて、リーチ状態となるか否かの期待度を示すものであってもよい。また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度に加えて、リーチ状態のうち、スーパーリーチ状態となるか否かの期待度を示すものであってもよい。また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、大当り遊技状態に制御される期待度に加えて、演出状態が段階的にステップアップすることに応じて、大当りとなる期待度が高くなる、所謂ステップアップ演出について、ステップアップするか否かの期待度を示すものであってもよい。

30

【 0 2 6 8 】

例えば、第 1 S P 演出に発展する変動パターンの可変表示においては、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 の上をキャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が登っていく表示がされ、「登りきったら大チャンス」というような文字によりミッション ( 課題 ) を説明するミッション説明画像 1 1 1 F 0 0 6 が表示される。そのときには、第 1 S P 演出に発展したことを示す「 S P 1 発展」という文字が表示される。このような画像表示により、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上をキャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が登りきることにより、遊技者にとって大当り遊技状態となる期待度が高いことが示唆される。

40

【 0 2 6 9 】

例えば、第 1 S P 演出において、図 8 - 4 ( D ) に示すように、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上の第 1 区間を登ると、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 にお

50



いて、メータ表示（数値表示部 1 1 1 F 0 0 2 の数値およびレベル表示部 1 1 1 F 0 0 3 のレベルゲージ）が 2 0 % まで上昇するチャンスアップ演出が実行される。

【 0 2 7 0 】

そして、図 8 - 4 ( E ) に示すように、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 がさらに坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上の第 2 区間を登ると、「CHANCE UP + 2 0」というような文字よりなるチャンスアップ画像 1 1 1 F 0 0 7 が表示されるとともに、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 下部に星型画像 1 1 1 F 0 0 8 が表示されるチャンスアップ演出が実行され、それに応じて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 においてメータ表示（数値およびレベルゲージ）が 4 0 % まで上昇する表示がされる。

【 0 2 7 1 】

さらに、図 8 - 4 ( F ) に示すように、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 がさらに坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上の第 3 区間を登ると、「CHANCE UP + 2 0」というような文字よりなるチャンスアップ画像 1 1 1 F 0 0 7 が表示されるとともに、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 下部に星型画像 1 1 1 F 0 0 8 が追加表示されるチャンスアップ演出が実行され、それに応じて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 においてメータ表示（数値およびレベルゲージ）が 6 0 % まで上昇する表示がされる。

【 0 2 7 2 】

このように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 においては、チャンスアップ演出が実行されることに対応して、メータ表示（数値およびレベルゲージ）について、期待度の大きさのレベル表示が増加する演出が実行される。

【 0 2 7 3 】

その後、図 8 - 4 ( G ) に示すように、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上を登りきったときには、それに応じて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 においてメータ表示（数値およびレベルゲージ）が 1 0 0 % まで上昇する表示がされる。そして、「成功！！」という文字の画像が表示され、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 の上をキャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が登りきったことを報知する演出がされる。次に、第 1 S P 演出から第 3 S P 演出に発展する変動パターンのときには、図 8 - 4 ( H ) に示すように、「発展！！

S P 3」というような文字画像が表示され、演出状態が第 3 S P 演出に発展したことが報知され、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 がバトル演出をする第 3 S P 演出が開始される。

【 0 2 7 4 】

一方、図 8 - 4 ( I ) に示すように、キャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 上を登りきれずに途中で転落するときには、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 においてメータ表示（数値およびレベルゲージ）が 6 0 % を超えて上昇する表示がされない。そして、「失敗！」という文字の画像が表示され、坂道画像 1 1 1 F 0 0 4 の上をキャラクタ画像 1 1 1 F 0 0 5 が登りきれなかったことを報知する演出がされる。

【 0 2 7 5 】

そして、図 8 - 4 ( J ) に示すように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を含むそれまでに表示されていた画像がすべて消去され、飾り図柄が中央部に移動して拡大表示され、はずれ表示結果で仮停止する。しかし、その後、図 8 - 4 ( K ) に示すように、はずれ表示結果となった飾り図柄が縮小されて右上隅部に移動表示され、表示領域の中央部において、「ルーレットチャンス！」という文字画像、および、「指先に S P が止まれば S P 発展」という文字画像が表示されるとともに、「×」、「S P 2」、「S P 3」という演出の選択肢が表示されたルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 と、指先を示す指先画像 1 1 1 F 0 1 0 とが表示され、特別演出として、ルーレットゲームのゲーム結果に応じて演出の進行パターンが選択されるルーレット演出の実行が開始される。

【 0 2 7 6 】

ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 において「×」は、演出が発展せずに可変表示が終了するという意味を示している。ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 において「S P 2」は、第 2 S P 演出に発展するという意味を示している。ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 において「S P 3」は、第 3 S P 演出に発展するという意味を示している。

10

20

30

40

50

## 【 0 2 7 7 】

その後、ルーレット演出においては、図 8 - 4 ( L ) に示すように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が回転する状態が表示され、3 秒間程の特定時間が経過すると、図 8 - 4 ( M ) または図 8 - 4 ( O ) に示すように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が停止する画像が表示される。そして、図 8 - 4 ( N ) または図 8 - 4 ( P ) に示すように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が停止した状態で、「×」、「S P 2」、「S P 3」のうち、指先画像 1 1 1 F 0 1 0 の位置で止まった選択肢に対応する演出が、その後実行される。

## 【 0 2 7 8 】

例えば、図 8 - 4 ( M ) のように指先画像 1 1 1 F 0 1 0 の位置に、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 における「S P 3」等の S P 演出を示す部分が止まったときには、選択された S P 演出に発展することが決定され、例えば「S P 3 発展!」という文字画像を表示する等、選択された S P 演出に発展することが表示され、第 3 S P 演出等の選択された S P 演出に発展する演出が実行されることが報知される。

10

## 【 0 2 7 9 】

そして、図 8 - 4 ( M ) に示すように、図 8 - 4 ( J ) で一旦消去されていた示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が、複数種類のタイミングのうち、大当たり遊技状態となる期待度に対応したタイミングで、再度表示される。図 8 - 4 ( M ) のように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるときには、一旦消去される前 ( 6 0 % 以下 ) よりもメータ表示 ( 数値およびレベルゲージ ) が高い段階 ( 8 0 % 以上 ) を示した画像が表示される。その後、図 8 - 4 ( N ) に示すように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が消去され、発展先の S P 演出 ( この例では第 3 S P 演出の実行が開始される。その場合において、縮小表示された飾り図柄は、仮停止状態からリーチ状態に変更される態様で再変動を開始する。発展先の S P 演出が実行されるときにおいて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は消去される。なお、発展先の S P 演出が実行されるときにおいても、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は消去せずに継続的に表示してもよい。

20

## 【 0 2 8 0 】

このように、ルーレット演出で S P 演出に発展することが決定された演出 ( ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 S P 演出区分が指先画像 1 1 1 F 0 1 0 の位置で停止した演出 ) が実行されたときには、一旦消去されていた示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示可能とされるので、ルーレット演出で S P 演出に発展することが決定された演出は、「示唆表示の再表示決定演出」と呼ばれる。

30

## 【 0 2 8 1 】

また、図 8 - 4 ( L ) に示すルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 の回転状態から、図 8 - 4 ( O ) のように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が停止した状態で指先画像 1 1 1 F 0 1 0 の位置に「×」が止まったときには、図 8 - 4 ( P ) のように、ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 が消去され、はずれ表示結果で停止した飾り図柄が中央部に移動して拡大表示され、表示結果が確定する。

## 【 0 2 8 2 】

なお、例えば図 8 - 4 ( G ) , ( M ) のように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 のメータ表示 ( 数値およびレベルゲージ ) が 1 0 0 % になったときには、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を大きくする等、メータ表示の画像が目立つような演出を実行してもよい。

40

## 【 0 2 8 3 】

また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去した後の再度の表示は、図 8 - 4 ( M ) のようなルーレット演出の後半のタイミングではなく、図 8 - 4 ( K ) のようなルーレット演出の前半のタイミングで実行してもよい。その場合においては、図 8 - 4 ( K ) のようなルーレット演出の選択肢が表示されている段階で、全ての選択肢が S P 演出を示すことにより、必ず S P 演出に発展する表示をする表示パターンがあるようにしてもよい。

## 【 0 2 8 4 】

また、前述したルーレット演出は、飾り図柄がはずれ表示結果で仮停止したタイミング以外に、例えば、リーチ状態の開始タイミング、リーチ状態実行中のタイミング、擬似連

50

の仮停止図柄を示す図柄が停止したタイミング、および、リーチ状態となる前のタイミング等のその他のタイミングで実行されるようにしてもよい。

【0285】

以上に説明したような演出のうち、示唆表示111F001の演出は、示唆表示111F001を一旦消去した後に、再度表示することが可能であり、示唆表示111F001を再度表示するときに、一旦消去する前よりも大当り遊技状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示111F001をすることが可能であるので、示唆表示111F001が変化するタイミングに意外性があり、遊技において興趣を盛上げることができる。

【0286】

また、示唆表示111F001は、図8-4(J)のように、飾り図柄がはずれ表示結果で仮停止することにより大当り遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後、異端消去された後に、図8-4(M)のように再度表示することが可能である。これにより、大当り遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後においても、遊技者の大当り遊技状態への期待感を持続させることができる。

10

【0287】

また、示唆表示111F001は、図8-4(J)のように、飾り図柄がはずれ表示結果で仮停止することにより大当り遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後、図8-4(K)~(M)のように、ルーレット演出のような特別演出の実行に関連して、再度表示することが可能である。これにより、大当り遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後に、特別演出の実行に関連して示唆表示111F001の再度表示が可能であることにより、特別演出が実行された場合に、示唆表示111F001が再度表示されることに対する期待感を遊技者に持たせることができる。

20

【0288】

〔可変表示で示唆表示111F001の実行有無を判定するデータテーブル例〕

次に、図8-4に示したような一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001をどのように実行可能とするかを、示唆表示111F001の演出を実行するために用いるデータテーブルである各種データテーブルを用いて説明する。以下に説明する各種データは、ROM121に記憶されている。

【0289】

図8-5(A)は、示唆表示有無判定テーブルを示す図である。示唆表示有無判定テーブルは、示唆表示111F001の演出実行の有無を判定するためのテーブルである。

30

【0290】

示唆表示有無判定テーブルでは、「非リーチ」、「ノーマルリーチ」、「第1スーパーリーチ」、「第2スーパーリーチ」および「第3スーパーリーチ」のそれぞれの変動パターンについて、演出制御用CPU120が更新する演出用乱数のうち、示唆表示111F001の演出実行の有無を判定するために用いる示唆表示演出有無判定用乱数SR2(0~0299数値範囲)の抽出値と、「示唆表示演出実行有」および「示唆表示演出実行無」のそれぞれとの選択関係が示されている。図8-5(A)については、SR2の示唆表示演出実行有無への割振りについて、0~0299の300個の数値データのうち、何個のデータが割振られているかが示されている。図8-5(A)では、可変表示が実行されるときに、今回実行される変動パターンに対応するテーブルデータを用いて、SR2の抽出値に基づいて、図8-4に示す示唆表示111F001の実行の有無が決定される。

40

【0291】

図8-5(A)では、示唆表示111F001を実行することを選択する割合が「第3スーパーリーチ>第2スーパーリーチ>第1スーパーリーチ>ノーマルリーチ>非リーチ>」という関係でデータ設定されている。これらの変動パターンのうち、「非リーチ」はリーチとならない可変表示の変動パターンである。

【0292】

これらの変動パターンについて、はずれ表示結果となるときに対して大当り表示結果となるときに選択される割合が高い順番は、「第3スーパーリーチ>第2スーパーリーチ>

50

第1スーパーリーチ>ノーマルリーチ>非リーチ>」である。したがって、示唆表示111F001は、可変表示がはずれ表示結果となるときに表示を実行する割合よりも、大当り表示結果となるときに表示を実行する割合の方が高い。これにより、示唆表示111F001が実行されたときには、示唆表示111F001が実行されないときと比べて、大当り遊技状態に制御される期待度が高いので、遊技者の期待感を高めることができる。

【0293】

このように、示唆表示111F001は、図8-4(J)のように、一旦消去した後に再度表示することが可能であり、図8-4(M)のように、示唆表示111F001を再度表示するときに、一旦消去する前よりも大当り遊技状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示111F001をすることが可能である。

10

【0294】

〔可変表示で示唆表示演出を実行するときの演出種類を選択するデータテーブル例〕

【0295】

図8-5(B)は、示唆表示演出種類選択テーブルを示す図である。示唆表示演出種類選択テーブルは、示唆表示111F001の演出を実行するときの演出の種類を選択するためのテーブルである。

【0296】

示唆表示演出種類選択テーブルでは、「非リーチ」、「ノーマルリーチ」、第1スーパーリーチ」、「第2スーパーリーチ」および「第3スーパーリーチ」のそれぞれの変動パターンについて、演出制御用CPU120が更新する演出用乱数のうち、示唆表示111F001の演出実行の有無を判定するために用いる示唆表示演出種類選択用乱数SR3(0~0209数値範囲)の抽出値と、各種示唆表示演出種類との選択関係の割振りがSR3の個数で示されている。

20

【0297】

示唆表示演出種類としては、(1)非リーチははずれの仮停止状態からSP演出に発展しない演出、(2)ノーマルリーチははずれの仮停止状態からSP演出に発展しない演出、(3)第1SPリーチははずれの仮停止状態からSP演出に発展しない演出、(4)非リーチははずれの仮停止状態から第2SP演出(SP2)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「80%」のメータ表示をする演出、(5)ノーマルリーチははずれの仮停止状態から第2SP演出(SP2)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「80%」のメータ表示をする演出、(6)第1SPリーチははずれの仮停止状態から第2SP演出(SP2)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「80%」のメータ表示をする演出、(7)非リーチははずれの仮停止状態から第3SP演出(SP3)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「100%」のメータ表示をする演出、(8)ノーマルリーチははずれの仮停止状態から第3SP演出(SP3)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「100%」のメータ表示をする演出、(9)第1SPリーチははずれの仮停止状態から第3SP演出(SP3)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「100%」のメータ表示をする演出、および、(10)第2SPリーチははずれの仮停止状態から第3SP演出(SP3)に発展する演出であって一旦消去した後に再度表示する示唆表示111F001で「100%」のメータ表示をする演出が選択可能である。

30

40

【0298】

示唆表示演出種類の説明における主な用語の意味は次のとおりである。非リーチははずれは、リーチ状態とならずにはずれ図柄の組合せとなることである。ノーマルリーチははずれは、リーチの演出状態からはずれ図柄の組合せとなることである。第1SPリーチははずれは、第1SP演出のリーチの演出状態からはずれ図柄の組合せとなることである。第2SPリーチははずれは、第2SP演出のリーチの演出状態からはずれ図柄の組合せとなることである。第3SPリーチははずれは、第3SP演出のリーチの演出状態からはずれ図柄の組

50

合せとなることである。

【 0 2 9 9 】

第 1 S P 演出は、基本的に第 1 スーパーリーチの変動パターンで実行される S P 演出であるが、第 2 S P 演出または第 3 S P 演出に発展する前に実行するリーチ演出としても実行される場合がある。第 2 S P 演出は、基本的に第 2 スーパーリーチの変動パターンで実行される S P 演出であるが、第 3 S P 演出に発展する前に実行するリーチ演出としても実行される場合がある。第 3 S P 演出は、基本的に第 3 スーパーリーチの変動パターンで実行される S P 演出であり、他の S P 演出と比べて大当たり表示結果となるときに選択される割合が高い変動パターンで基本的に実行される演出であるので、他の演出に発展する前演出に実行するリーチ演出としては用いられない。

10

【 0 3 0 0 】

図 8 - 5 ( B ) に示すように、「非リーチ」、「ノーマルリーチ」および「第 1 スーパーリーチ」の変動パターンでは、S P 演出に発展しない演出のみが選択される。図 8 - 5 ( B ) に示すように、「第 2 スーパーリーチ」は、第 2 S P 演出に発展する演出が選択可能であり、一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときに「80 %」のメータ表示をする演出を選択可能である。図 8 - 5 ( B ) に示すように、「第 3 スーパーリーチ」は、第 3 S P 演出に発展する演出が選択可能であり、一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときに「100 %」のメータ表示をする演出を選択可能である。このように、「第 3 スーパーリーチ」は、「第 2 スーパーリーチ」と比べて、大当たりとなる期待度が高いスーパーリーチであるため、一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときのメータ表示のレベルを、「第 2 スーパーリーチ」のときのメータ表示のレベルよりも高くしているので、遊技者の大当たりに対する期待感をさらに高めることができる。

20

【 0 3 0 1 】

図 8 - 5 ( B ) に示す各演出には、実行する示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 でのチャンスアップ演出の実行回数および実行タイミング等の示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 に関する演出態様として、変動パターンコマンドにより指定された変動パターンに対応するような演出態様が予め定められている。

【 0 3 0 2 】

また、図 8 - 5 ( B ) に示すように、例えば、第 1 S P リーチはずれ表示の段階および第 2 S P リーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合は、ノーマルリーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合と比べて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるときに、80 % の示唆表示と 100 % の示唆表示とのどの段階に変化するかの割合が異なる。

30

【 0 3 0 3 】

前述したように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去する前はメータ表示が「60 %」以下であり、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときに、「80 %」、「100 %」というような、一旦消去する前よりも大当たり遊技状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 をすることにより、遊技において興趣を盛上げることができる。

【 0 3 0 4 】

なお、図 8 - 5 ( B ) では、第 1 S P リーチはずれ、および、第 2 S P リーチはずれのそれぞれの状態で「80 %」や「100 %」のメータ表示をする演出から S P 演出が発展する示唆表示演出に加えて、80 % 未満の % 値のメータ表示をする演出から S P 演出が発展可能な種類の示唆表示演出を設けてもよい。また、第 1 S P リーチはずれ、および、第 2 S P リーチはずれのような、飾り図柄の仮停止状態からメータ表示値に応じて S P 演出が発展する場合において、例えば、第 2 S P リーチはずれの状態でのメータ表示値が「80 %」のときよりも「100 %」のときの方が大当たりとなる期待度を高くする等、S P 演出が発展するときのメータ表示値に応じて大当たりとなる期待度が異なるようにしてもよい。

40

【 0 3 0 5 】

〔示唆表示を一旦消去後再表示するときのタイミングを選択するデータテーブル例〕

50

## 【 0 3 0 6 】

図 8 - 5 ( C ) は、示唆表示再開始タイミング選択テーブルを示す図である。示唆表示再開始タイミング選択テーブルは、図 8 - 4 ( M ) のように、一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときのタイミングを選択決定するために用いられるデータテーブルである。

## 【 0 3 0 7 】

示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルでは、「大当たり時」と「はずれ時」とのそれぞれについて、一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときのタイミングとして、示唆表示の「再表示決定演出後 1 秒経過時」、示唆表示の「再表示決定演出後 3 秒経過時」、示唆表示の「再表示決定演出後 5 秒経過時」が選択可能である。示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルでは、演出制御用 CPU 1 2 0 が更新する演出用乱数のうち、示唆表示再表示開始タイミングを選択するために用いる示唆表示再表示開始タイミング選択用乱数 S R 4 ( 0 ~ 0 3 9 9 の数値範囲 ) の抽出値と、これら一旦消去した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するときのタイミングの種類との選択関係が示されている。

10

## 【 0 3 0 8 】

示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルでは、示唆表示再表示開始タイミングとしては、例えば図 8 - 4 ( M ) に示されたようなルーレット演出中において、S P 演出が選択された再表示決定演出 ( ルーレット画像 1 1 1 F 0 0 9 S P 演出区分が指先画像 1 1 1 F 0 1 0 の位置で停止したとき ) の実行時からの経過時間が 1 秒、3 秒、5 秒のように複数種類設けられている。

20

## 【 0 3 0 9 】

示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルでは、「大当たり時」の方が「はずれ時」よりも長い経過時間が選択される割合が高くなるように、S R 4 の抽出値と、示唆表示再表示開始タイミングとの選択関係の割振りが S R 4 の個数で示されている。これにより、例えば図 8 - 4 ( M ) に示されたような S P 演出が選択された再表示決定演出後、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるまでの時間が長くなる程、大当たり遊技状態に制御される期待度が高くなる。

## 【 0 3 1 0 】

なお、示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルでは、「大当たり時」の方が「はずれ時」よりも長い経過時間が選択される割合が高くなるようにデータを設定したが、その逆に、「大当たり時」の方が「はずれ時」よりも短い経過時間が選択される割合が高くなるようにデータを設定してもよい。その場合には、例えば図 8 - 4 ( M ) に示されたような S P 演出が選択された再表示決定演出後、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるまでの時間が長くなる程、大当たり遊技状態に制御される期待度が高くなる。

30

## 【 0 3 1 1 】

なお、示唆表示再表示を開始するタイミングとしては、再表示決定演出が実行されてから所定の時間経過時のタイミングのみではなく、再表示決定演出の実行タイミングに合せたタイミングであってもよく、また、特定の予告演出の発生タイミングに合せたタイミングであってもよい。

## 【 0 3 1 2 】

〔 示唆表示の演出設定例および演出実行例 〕

次に、図 8 - 5 に示した示唆表示有無判定テーブル、示唆表示演出種類選択テーブル、および、示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルを用いて、どのように示唆表示の演出を設定し、どのように示唆表示の演出を実行するかを説明する。

40

## 【 0 3 1 3 】

演出制御用 CPU 1 2 0 では、変動パターンコマンドを受信したことに応じて、飾り図柄の可変表示を実行する場合において、図 7 の S 1 7 1 の可変表示開始設定処理において、演出制御コマンド受信用パッファに格納された変動パターンコマンドのデータを確認することにより、実行する変動パターンの種類を確認するとともに、S R 2 を抽出し、図 8 - 5 ( A ) の示唆表示有無判定テーブルを用いて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出の実行

50

の有無を判定する。

【 0 3 1 4 】

そして、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行しない判定がされたときには、図 7 の S 1 7 1 の可変表示開始設定処理において、各変動パターンについて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行しない演出として予め定められた演出を実行するためのデータを選択して設定する。

【 0 3 1 5 】

一方、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行する判定がされたときには、図 7 の S 1 7 1 の可変表示開始設定処理において、各変動パターンについて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行する演出として予め定められた演出を実行するためのデータを選択する。次に、今回実行する可変表示の変動パターンの種類を確認するとともに、S R 3 を抽出し、図 8 - 5 ( B ) の示唆表示演出種類選択テーブルを用いて、今回の可変表示で実行する示唆表示演出の種類を選択決定する。さらに、図 7 の S 1 7 1 の可変表示開始設定処理において、演出制御コマンド受信用バッファに格納された変動表示結果通知コマンド（変動パターンが可変表示結果も特定可能な場合には変動パターンコマンドでもよい）のデータを確認することにより、実行する可変表示の表示結果（大当り、はずれ）を確認するとともに、S R 4 を抽出し、図 8 - 5 ( C ) の示唆表示再表示開始タイミング選択テーブルを用いて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の再表示を実行するときの開始タイミングを選択決定する。

【 0 3 1 6 】

このような示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出に関する各種決定事項に基づいて、演出制御用 C P U 1 2 0 は、どのような演出パターンで示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行するかを確定し、確定した演出パターンで示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行するための演出制御データを R A M 1 2 2 の所定領域に記憶させる。そして、演出制御用 C P U 1 2 0 は、可変表示が開始された後、そのように記憶された演出制御データに基づいて、図 7 の S 1 7 2 の可変表示中演出処理により、設定された演出内容にしたがって、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出を実行する。これにより、例えば図 8 - 4 に示すような示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を用いた演出が実行可能となる。

【 0 3 1 7 】

〔示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出タイミング例〕

次に、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出タイミングの代表例をタイミングチャートを用いて説明する。図 8 - 6 は、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出タイミングの代表例を示すタイミングチャートである。図 8 - 6 ( A ) ~ ( C ) のそれぞれにおいては、飾り図柄の可変表示状態と、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 のメータ表示状態とが時間経過にしたがって示されている。

【 0 3 1 8 】

図 8 - 6 ( A ) は、示唆表示演出第 1 タイミング例を示しており、具体的に、図 8 - 5 ( B ) の非リーチはずれから S P 2 演出または S P 3 演出のような S P 演出に発展する演出制御パターンを示すものである。

【 0 3 1 9 】

図 8 - 6 ( A ) では、リーチ状態とならない可変表示の実行中に示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が実行されていたが、非リーチはずれ図柄が仮停止して、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去される。その後、前述のルーレット演出の実行が開始され、ルーレット演出の結果として S P 演出に発展することが決定され、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 について、ルーレット演出の演出結果決定後の 1 秒後に再度表示が開始されている。そして、ルーレット演出の演出結果にしたがって、S P 演出の実行が開始されている。

【 0 3 2 0 】

図 8 - 6 ( B ) は、示唆表示演出第 2 タイミング例を示しており、具体的に、図 8 - 5 ( B ) のノーマルリーチはずれから S P 2 演出または S P 3 演出のような S P 演出に発展する演出制御パターンを示すものである。

【 0 3 2 1 】

図 8 - 6 ( B ) では、リーチ状態とならない可変表示の実行中からノーマルリーチ状態での可変の実行中に示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が実行されていたが、リーチはずれ図柄が仮停止して、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去される。その後、前述のルーレット演出の実行が開始され、ルーレット演出の結果として S P 演出に発展することが決定され、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 について、ルーレット演出の演出結果決定後の 3 秒後に再度表示が開始されている。そして、ルーレット演出の演出結果にしたがって、S P 演出の実行が開始されている。

【 0 3 2 2 】

図 8 - 6 ( C ) は、示唆表示演出第 3 タイミング例を示しており、具体的に、図 8 - 5 ( B ) の第 1 S P リーチはずれから S P 2 演出に発展する演出制御パターンを示すものである。

10

【 0 3 2 3 】

図 8 - 6 ( C ) では、リーチ状態とならない可変表示の実行中からノーマルリーチ状態および第 1 S P 演出での可変の実行中に示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が実行されていたが、リーチはずれ図柄が仮停止して、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去される。その後、前述のルーレット演出の実行が開始され、ルーレット演出の結果として第 2 S P 演出に発展することが決定され、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 について、ルーレット演出の演出結果決定後の 5 秒後に再度表示が開始されている。そして、ルーレット演出の演出結果にしたがって、第 2 S P 演出の実行が開始されている。

【 0 3 2 4 】

20

図 8 - 6 ( A ) ~ ( C ) に示されるように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去した後に再度表示させる演出は、一旦消去タイミングおよび再度表示タイミングが複数種類設けられている。そして、飾り図柄の仮停止後にルーレット演出が実行されたときに、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示させる演出の開始タイミングも複数種類設けられている。このように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去した後に再度表示させる演出は、演出制御タイミングがバリエーションに富んでおり、演出の面白みを向上させることができる。

【 0 3 2 5 】

また、図 8 - 6 の ( A ) ~ ( C ) の第 1 タイミング ~ 第 3 タイミングに示す、非リーチはずれ表示時、ノーマルリーチリーチはずれ表示時、スーパーリーチはずれ表示時等のように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を複数種類のタイミングで一旦消去することが可能である。そして、図 8 - 5 ( B ) に示すように、例えば、第 1 S P リーチはずれ表示の段階および第 2 S P リーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合は、ノーマルリーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合と比べて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるときに、80%の示唆表示と100%の示唆表示とのどの段階に変化するかの割合が異なる。これにより、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去されたタイミングに応じて、再度表示された、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が示唆するメータ表示による期待度がどの段階に変化するかの割合が異なるので、示唆表示が一旦消去されるタイミングに遊技者を注目させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

30

【 0 3 2 6 】

40

〔示唆表示再度実行時に一旦消去前に実行された演出を再度実行する演出例〕

次に、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去する前に実行されたチャンスアップ演出を、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度したときに再度実行することが可能であり、当該チャンスアップ演出が実行されたことに応じて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 におけるメータ表示の段階を変化させることが可能である演出制御例を説明する。

【 0 3 2 7 】

具体的には、可変表示中において、スーパーリーチの S P 演出の実行中において実行したチャンスアップ演出をすべて記憶しておき、図 8 - 4 ( M ) のような示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の再度表示のときにおいて、記憶しておいたチャンスアップ演出を再度実行することにより、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 のメータ表示を変化させて、そのメータ表示のレベル

50



を一旦消去前よりも高いレベルにする演出を、演出制御用CPU120が実行してもよい。

【0328】

このような演出を実行すれば、示唆表示111F001を一旦消去する前に実行されたチャンスアップ演出を、示唆表示111F001を再度したときに再度実行することが可能であり、当該所定演出が実行されたことに応じて、示唆表示111F001における表示態様の段階が変化可能であることにより、一度チャンスアップ演出が実行されて大当たり遊技状態に制御されなかったときであっても、遊技者の残念感を払拭することができる。

【0329】

なお、このような演出を実行する場合において、チャンスアップ演出として、通常のチャンスアップ演出（弱チャンスアップ演出：第1所定演出）と、通常のチャンスアップ演出よりも、大当たりとなる期待度が高い強チャンスアップ演出（第2所定演出）とを選択して実行可能な場合においては、示唆表示111F001を一旦消去する前に実行されたチャンスアップ演出として実行した通常のチャンスアップ演出を、示唆表示111F001を再度するときにおいて、強チャンスアップ演出に格上げして実行する演出をすることにより、遊技者の期待感を高めるようにしてもよい。

【0330】

〔設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示が示唆する期待度が最上の段階に変化する割合が高い演出例〕

次に、当りの当選確率のような遊技者にとって有利度が異なる設定値を設定手段により設定可能なパチンコ遊技機において、設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示111F001が示唆する期待度（大当たり遊技状態に制御される期待度）が最上の段階に変化する割合が高くなるようにする演出例を説明する。

【0331】

例えば図8-5(B)のような示唆表示演出種類選択テーブルとして、図8-1～図8-3等を用いて説明した大当たり確率等の設定値を変更可能なパチンコ遊技機に対応して、設定値1～6のそれぞれに対応して、再度表示された示唆表示111F001が示唆するメータ表示の選択割合が異なるように、示唆表示演出種類を設定したテーブルを設けてもよい。そのテーブルでは、設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示111F001が表示するメータ表示として高レベルのメータ表示を選択する割合を高くする。このようにすれば、設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示111F001が示唆する期待度が最上の段階に変化する割合が高くなるようにする演出を実行することが可能となるので、示唆表示111F001の再度表示に遊技者を注目させて興趣を盛上げることができる。

【0332】

〔示唆表示111F001のようなメータ表示のその他の制御例〕

次に、示唆表示111F001のメータ表示のその他の制御例について説明する。例えばプッシュボタン31B、プッシュセンサ35B等のような遊技者の動作（操作）を検出可能な検出手段による動作検出に基づいて特定演出を実行する制御に関する説明をする。

【0333】

演出制御用CPU120においては、遊技者の自力による連続動作としてプッシュボタン31Bの連続操作（以下、連打という）が検出されたことに応じて、画像で示されるメータ表示の表示態様を変化させるメータ演出に加え、例えばプッシュボタン31Bの長押し操作のような、連打とは異なる遊技者の所定動作が検出されたことに基づいて、プッシュボタン31Bの連打が所定間隔で実行されたとみなすオート連打の判定がされたことに基づいて、当該メータ表示の表示態様を変化させるメータ演出が実行される。

【0334】

メータ演出においては、以下に説明するような各種演出制御が実行される。特定の変動パターンとして予め定められた特別リーチ（例えば後述の第3スーパーリーチおよび第4スーパーリーチ）の変動パターンでの変動表示が実行されるときに、メータ演出が実行される。

10

20

30

40

50

## 【 0 3 3 5 】

特別リーチの開始時には、画像表示装置 5 において、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R で可変表示される「左」、「中」、「右」の飾り図柄が、画像表示装置 5 の表示領域の中央部から表示領域の隅部に移動して表示される。それらの飾り図柄は、「左」、「右」の飾り図柄が同じ図柄で停止して「中」の図柄が可変表示中しているリーチ図柄を形成している。

## 【 0 3 3 6 】

画像表示装置 5 の表示領域の左側には、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 に対応するメータ画像が表示される。メータ画像は、縦方向に複数段階の目盛（1 1 の目盛）を有し、所謂メータ値を表示する画像である。メータ画像の目盛は、1 0 個の「通常目盛」の段階上に 1 個の特別段階の「MAX 目盛」が設けられた構成である。メータ画像では、プッシュボタン 3 1 B の操作が有効となる操作有効期間内において、遊技者によるプッシュボタン 1 2 0 の操作が検出されることに応じて、目盛が一部ずつ第 1 色（図中空白部）から第 2 色（図柄斜線部）に変化することにより、メータ値が第 2 色で表示される。メータ値は、図中の破線矢印に示すように、下から上の方向に変化（増加）していく。

10

## 【 0 3 3 7 】

メータ画像の右側（画像表示装置 5 の表示領域の中央部）には、所定のキャラクタ画像が表示される。キャラクタ画像の下方には、プッシュボタン 3 1 B を模した画像と「連打！」という文字画像とよりなるボタン画像が表示される。ボタン画像の表示により、遊技者に対して、プッシュボタン 3 1 B を操作（連打）する遊技者の動作が促進される。

20

## 【 0 3 3 8 】

ボタン画像下方には、横棒態様の棒グラフ形式のメータ表示によりプッシュボタン 3 1 B の操作有効期間を示す操作有効期間画像が表示される。操作有効期間画像では、操作有効期間が図中の破線矢印方向に減少表示される横方向のメータ値により示される。

## 【 0 3 3 9 】

特別リーチの演出について、第 1 発展演出に移行することが決定されている場合には、特別リーチの演出の開始後、操作有効期間内での遊技者の動作によるプッシュボタン 3 1 B の自力連打またはオート連打により、メータ画像のメータ表示がレベル L 5 の段階に到達したときに、第 1 発展演出に移行する。

## 【 0 3 4 0 】

また、特別リーチの演出について、第 2 発展演出に移行することが決定されている場合には、特別リーチの演出の開始後、操作有効期間内での遊技者の動作によるプッシュボタン 3 1 B の自力連打またはオート連打により、メータ画像のメータ表示がレベル L 1 0 の段階に到達したときに、第 2 発展演出に移行する。

30

## 【 0 3 4 1 】

また、特別リーチの演出について、特別発展演出に移行することが決定されている場合には、特別リーチの演出の開始後、操作有効期間内での遊技者の動作によるプッシュボタン 3 1 B の自力連打またはオート連打により、メータ画像のメータ表示が特別段階のレベル MAX に到達したときに、特別発展演出に移行する。

## 【 0 3 4 2 】

次に、自力連打とオート連打とのそれぞれについて、検出判定と、メータ画像のメータ表示の変化との関係を説明する。まず、自力連打について説明する。操作有効期間内において、のように、プッシュボタン 3 1 B の短押し動作が検出されるごとに、演出制御用 CPU 1 2 0 により自力連打がされたと判定される。自力連打が検出されて判定されるごとに、のように、メータ画像のメータ値の表示レベル（第 2 色の表示数）が 1 段階ずつ上昇していく表示が行なわれる。

40

## 【 0 3 4 3 】

特別発展演出に移行しない決定がされた特別発展演出非選択時には、操作有効期間内において、自力連打の検出および判定がされると、メータ値が最大限レベル L 1 0 まで到達可能となるがレベル MAX までは到達不可能となるように、メータ値の上昇を制限する制

50

御が行われる。

【 0 3 4 4 】

特別発展演出に移行する決定がされた特別発展演出選択時には、操作有効期間内において、自力連打の検出および判定がされると、メータ値が最大限レベル L 1 0 まで到達可能となり、その後、自力連打とは関係なく自動的にメータ値がレベル L 1 0 を超えてレベル M A X まで到達するように制御される。

【 0 3 4 5 】

このように、この実施の形態では、自力連打が実行されるときには、メータ画像のメータ表示が、自力連打の検出に応じて最大限レベル L 1 0 の段階まで到達可能である。そして、特別発展演出に移行しない決定がされているときは自力連打によるメータ表示の変化が最大限レベル L 1 0 で停止し、特別発展演出に移行する決定がされているときはメータ表示が自動的にレベル L 1 0 を超えてレベル M A X まで到達する制御が実行される。

10

【 0 3 4 6 】

次に、オート連打について説明する。操作有効期間内において、のように、プッシュボタン 3 1 B の特定期間（例えば 1 秒間）以上の長押し動作が検出されると、所定時間間隔で連打が実行されたとみなすオート連打判定がされる。

【 0 3 4 7 】

オート連打判定によりオート連打と判定されると、所定時間間隔で連打が実行されたとみなす判定がされ、その判定がされるごとに、メータ画像のメータ値の表示レベル（第 2 色の表示数）が 1 段階ずつ上昇していく表示が行なわれる。オート連打により連打が実行されたとみなす判定がされる所定時間間隔は、自力連打が実行されたと判定される時間間隔よりも長い。これにより、オート連打に応じたメータ値の表示レベルの変化速度は、自力連打に応じたメータ値の表示レベルの変化速度よりも遅くなるように制御される。

20

【 0 3 4 8 】

特別発展演出に移行しない決定がされた特別発展演出非選択時には、操作有効期間内において、オート連打の検出および判定がされると、メータ値が最大限レベル L 5 まで到達可能となるがレベル M A X までは到達不可能となるように、メータ値の上昇を制限する制御が行われる。

【 0 3 4 9 】

特別発展演出に移行する決定がされた特別発展演出選択時には、操作有効期間内において、オート連打の検出および判定がされると、メータ値が最大限レベル L 5 まで到達可能となり、その後、オート連打とは関係なく自動的にメータ値がレベル L 5 を超えてレベル M A X まで到達するように制御される。

30

【 0 3 5 0 】

このように、この実施の形態では、オート連打が実行されるときには、メータ画像のメータ表示が、自力連打の検出に応じて最大限レベル L 5 の段階まで到達可能である。そして、特別発展演出に移行しない決定がされているときはオート連打によるメータ表示の変化が最大限レベル L 5 で停止し、特別発展演出に移行する決定がされているときはメータ表示が自動的にレベル L 5 を超えてレベル M A X まで到達する制御が実行される。

【 0 3 5 1 】

40

このように、自力連打が実行されたとときと、オート連打が実行されたとときとを比較すると、オート連打の連打の判定時間間隔よりも短い時間間隔で自力連打の検出および判定がされる。そして、メータ値がレベル M A X まで到達不可能なメータ演出が実行されるときには、自力連打での最大限変化可能なメータ値がレベル L 1 0 であり、オート連打での最大限変化可能なメータ値がレベル L 5 である。メータ値がレベル M A X まで到達可能なメータ演出が実行されるときには、自力連打での最大限変化可能なメータ値がレベル L 1 0 であり、オート連打での最大限変化可能なメータ値がレベル L 5 であり、その後、所定タイミングで、自力連打とオート連打とのそれぞれについて、操作とは関係なく、メータ値が現状のレベルからレベル M A X まで自動的に到達する表示が行なわれる。

【 0 3 5 2 】

50

このような演出制御により、以下のような効果を得ることができる。

( 1 ) 自力連打の検出および判定がされたことに基づいて特定演出としてのメータ演出を実行するとき、オート連打の検出および判定がされたことに基づいてメータ演出を実行するときのメータ演出の演出態様が最大限変化可能なメータ値であるレベル L 5 と比べて、メータ演出の演出態様が最大限変化可能なメータ値の特定段階をレベル L 1 0 のように高くすることにより、自力連打をする意義を遊技者に感じさせることができる。

【 0 3 5 3 】

( 2 ) 操作有効期間内において、メータ演出の演出態様が所定段階であるレベル L 5 に到達した場合に第 1 発展演出に移行可能となり、メータ演出の演出態様が特定段階であるレベル L 1 0 に到達した場合に第 2 発展演出移行可能となる。これにより、メータ演出の演出態様が所定段階に到達した場合と特定段階に到達した場合とで、メータ演出での演出態様の発展先の演出態様の種類が異なることにより、遊技者が自力で連続動作をすることを促進させることができる。

【 0 3 5 4 】

( 3 ) メータ演出において特別発展演出に移行しないことが決定されているときには、メータ演出の特別段階であるレベル M A X が、自力連打を実行するときには到達不可能な演出態様の段階である。これにより、特別発展演出に移行しないことが決定されているときには、遊技者が自力であまりに高速で自力連打をした場合であっても、レベル M A X に到達不可能なように、パチンコ遊技機 1 側で到達可能な演出態様の段階を決定することができる。

【 0 3 5 5 】

( 4 ) 例えば可変表示が大当たり表示結果に決定されているとき等で特別発展演出に移行することが決定されている場合のような所定条件が成立したことに基づいて、オート連打と判定されると、操作有効期間内において、メータ値がレベル L 5 を超えて、M A X まで到達可能となるように制御されるので、オート連打をする遊技者の興趣が低下してしまうのを防ぐことができる。

【 0 3 5 6 】

〔 特徴部 1 1 1 F により得られる主な効果 〕

〔 1 〕 図 8 - 4 に示すように、示唆表示の演出は、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去した後に、再度表示することが可能であり、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度表示するとき、一旦消去する前よりも大当たり遊技状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 をすることが可能であるので、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が変化するタイミングに意外性があり、遊技において興趣を盛上げることができる。

【 0 3 5 7 】

〔 2 〕 示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、図 8 - 4 ( J ) のように、飾り図柄がはずれ表示結果で仮停止することにより大当たり遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後、異端消去された後に、図 8 - 4 ( M ) のように再度表示することが可能である。これにより、大当たり遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後においても、遊技者の大当たり遊技状態への期待感を持続させることができる。

【 0 3 5 8 】

〔 3 〕 示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、図 8 - 4 ( J ) のように、飾り図柄がはずれ表示結果で仮停止することにより大当たり遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後、図 8 - 4 ( K ) ~ ( M ) のように、ルーレット演出のような特別演出の実行に関連して、再度表示することが可能である。これにより、大当たり遊技状態に制御されない旨の所定報知がされた後に、特別演出の実行に関連して示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の再度表示が可能であることにより、特別演出が実行された場合に、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されることに対する期待感を遊技者に持たせることができる。

【 0 3 5 9 】

〔 4 〕 〔 示唆表示再度実行時に一旦消去前に実行された演出を再度実行する演出例 〕に示したように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去する前に実行されたチャンスアップ

10

20

30

40

50

演出を、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を再度したときに再度実行することが可能であり、当該所定演出が実行されたことに応じて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 における表示態様の段階が変化可能であることにより、一度チャンスアップ演出が実行されて大当たり遊技状態に制御されなかったときであっても、遊技者の残念感を払拭することができる。

【 0 3 6 0 】

〔 5 〕 図 8 - 6 の ( A ) ~ ( C ) の第 1 タイミング ~ 第 3 タイミングに示す、非リーチはずれ表示時、ノーマルリーチリーチはずれ表示時、スーパーリーチはずれ表示時等のように、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を複数種類のタイミングで一旦消去することが可能である。そして、図 8 - 5 ( B ) に示すように、例えば、第 1 S P リーチはずれ表示の段階および第 2 S P リーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合は、ノーマルリーチはずれ表示の段階で示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去された場合と比べて、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が再度表示されるときに、80%の示唆表示と100%の示唆表示とのどの段階に変化するかの割合が異なる。これにより、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が一旦消去されたタイミングに応じて、再度表示された、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が示唆するメータ表示による期待度がどの段階に変化するかの割合が異なるので、示唆表示が一旦消去されるタイミングに遊技者を注目させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【 0 3 6 1 】

〔 6 〕 〔設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示が示唆する期待度が最上の段階に変化する割合が高い演出例〕で説明したように、設定値が遊技者にとって有利である程、再度表示された示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 が示唆する期待度が最上の段階に変化する割合が高くなるようにする演出を実行することが可能となるので、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の再度表示に遊技者を注目させて興趣を盛上げることができる。

20

【 0 3 6 2 】

〔特徴部 1 1 1 F のその他の変形例〕

〔 1 〕 図 8 - 4 に示したチャンスアップ演出の実行タイミングは、可変表示の変動パターンの種類に関係なく固定的なタイミングに設定されてもよい。また、図 8 - 4 に示したチャンスアップ演出の実行タイミングは、可変表示の変動パターンの種類により異なるタイミングに設定されてもよい。

【 0 3 6 3 】

30

〔 2 〕 図 8 - 4 に示したチャンスアップ演出の実行タイミングは、可変表示の変動パターンの種類が同じであっても、異なるタイミングとなり得るように複数種類の実行タイミング種類のうちから選択可能としてもよい。

【 0 3 6 4 】

〔 3 〕 図 8 - 4 では、チャンスアップ演出として、チャンスアップを示唆する文字と数字との組合せ画像を一例として示したが、これに限らず、チャンスアップ演出は、タイトルロゴの色、セリフの色、カットイン画像の色、可動体の色、または、背景画像の色等、その他の演出を用いてもよい。

【 0 3 6 5 】

〔 4 〕 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 は、%を示す表示の代わりに、レベル数値を表示する画像、ポイント数値を表示する画像等、段階的に表示態様が変わるものであれば、どのようなものであってもよい。

40

【 0 3 6 6 】

〔 5 〕 図 8 - 4 に示したチャンスアップ演出は、大当たり予告演出等の予告演出の一種であるともいえるので、「チャンスアップ予告」と呼ばれてもよい。

【 0 3 6 7 】

〔 6 〕 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の一旦消去後の再度表示演出が実行されたときのメータ表示は、一旦消去前よりも高い段階に変化する演出と、一旦消去前よりも高い段階に変化しない演出とがあり、抽選によりどちらの演出を実行するかを選択してもよい。例えば大当たりとなるときは、はずれとなるときと比べて、一旦消去前よりも高

50

い段階に変化する演出が実行される割合が高くなるようにしてもよい。

【 0 3 6 8 】

[ 7 ] 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の一旦消去後の再度表示時のメータ表示は、すべて「 1 0 0 % 」となるようにする演出をしてもよい。

【 0 3 6 9 】

[ 8 ] 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去後に再度表示させる演出は、アクティブ表示を対象として実行してもよい。例えば、アクティブ表示を一旦消去した後、再度表示するアクティブ表示を、一旦消去前よりも、大当りの期待度が高い表示態様(色等)で表示する演出をしてもよい。

【 0 3 7 0 】

[ 9 ] 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 を一旦消去後に再度表示させる演出は、保留表示を対象として実行してもよい。例えば、保留表示を一旦消去した後、再度表示する保留表示を、一旦消去前よりも、大当りの期待度が高い表示態様(色等)で表示する演出をしてもよい。

【 0 3 7 1 】

[ 1 0 ] 図 8 - 4 に示した段階的に表示態様が変化可能な示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 の演出は、段階的に演出態様(表示態様)が変化する、所謂ステップアップ演出に適用してもよい。

【 0 3 7 2 】

[ 1 1 ] 図 8 - 4 に示した示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 では、メータ表示を複数の表示部で表示可能としたが、1つの表示部で表示可能としてもよい。また、示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 のメータ表示は、20%刻みで段階的に変化するものとしたが、これに限らず、5%ごとに段階的に変化するもの、30%刻みで段階的に変化するもの等のその他の段階的な変化態様で変化するものを対象としてもよい。

【 0 3 7 3 】

[ 1 2 ] 遊技者にとって有利な有利状態としては、前述した大当り遊技状態の他に、高確率状態(確変状態)、時短状態、および、高ベース状態等のその他の有利状態が含まれる。また、遊技者にとって有利な有利状態としては、所謂小当りラッシュ状態のような小当りが頻繁に発生可能で小当りにより出球を得ることが可能な状態が含まれてもよい。

【 0 3 7 4 】

[ 1 3 ] 前述した実施の形態における設定値としては、設定値 1 ~ 設定値 6 の 6 種類の設定段階がある例を一例として示した。しかし、これに限らず、たとえば、設定値 1 ~ 設定値 3 の 3 種類の設定段階等のように、設定値 1 ~ 設定値 6 の 6 種類よりも多い設定値の設定段階があるようにしてもよい。

( 特徴部の関連づけに係る説明 )

特徴部に関する各構成は、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。このように組み合わせられた特徴部、あるいは、組み合わせられていない個別の特徴部について、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組み合わせられてもよい。

【 0 3 7 5 】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【 0 3 7 6 】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【 0 3 7 7 】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示

10

20

30

40

50

した構成のうち、全部または一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

【 0 3 7 8 】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内での全ての変更が含まれることが意図される。

【 0 3 7 9 】

本発明の遊技機としては、他にも、遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態等）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機 1 等）であって、

段階的な表示態様（数値表示およびレベル表示等の段階的な表示態様）の変化により、前記有利状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示（図 8 - 4 等の示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 等）を表示する示唆表示手段を備え、

前記示唆表示手段は、前記示唆表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に再度表示する（図 8 - 4（N）等）ことが可能であり、前記示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前（図 8 - 4（I）のような 8 0 % 等）よりも前記有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した前記示唆表示（図 8 - 4（N）のような 1 0 0 % 等）を表示することが可能であり（図 8 - 4（N）のような 1 0 0 % 等）、

前記有利状態に制御されない旨の所定報知（図 8 - 4（J）等）のようなはずれ表示結果の報知等）がされた後に、前記示唆表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に、再度表示することが可能であり（図 8 - 4（N）等）、

さらに、

設定変更操作（例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A K 0 0 2 などへの操作）に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値（例えば、「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段（例えば、主基板 1 1）と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出（例えば、設定示唆演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御基板 1 2）と、

可変表示に関連した特定演出（例えば、セリフ予告）を実行可能な特定演出実行手段（例えば、演出制御基板 1 2）と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり（例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能）、

前記特定演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出を前記示唆演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である（例えば、セリフ予告の画像に重ねてモヤ画像を表示したり、セリフ予告をフリーズさせたりする）遊技機が挙げられる。

【 0 3 8 0 】

本発明の遊技機としては、他にも、遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態等）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機 1 等）であって、

段階的な表示態様（数値表示およびレベル表示等の段階的な表示態様）の変化により、前記有利状態に制御される期待度を示唆可能な示唆表示（図 8 - 4 等の示唆表示 1 1 1 F 0 0 1 等）を表示する示唆表示手段を備え、

前記示唆表示手段は、前記示唆表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に再度表示する（図 8 - 4（N）等）ことが可能であり、前記示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前（図 8 - 4（I）のような 8 0 % 等）よりも前記有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した前記示唆表示（図 8 - 4（N）のような 1 0 0 % 等）を表示することが可能であり（図 8 - 4（N）のような 1 0 0 % 等）、

前記有利状態に制御されない旨の所定報知（図 8 - 4（J）等）のようなはずれ表示結果の報知等）がされた後に、前記示唆表示を一旦消去した（図 8 - 4（J）等）後に、再度表示することが可能であり（図 8 - 4（N）等）、

さらに、

設定変更操作（例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A K 0 0 2 などへの操作）に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値（例えば、「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段（例えば、主基板 1 1）と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出（例えば、設定示唆演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御基板 1 2）と、

可変表示に関連した特定演出（例えば、セリフ予告、飾り図柄の可変表示）を実行可能な特定演出実行手段（例えば、演出制御基板 1 2）と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり（例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能）、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出を前記特定演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である（例えば、図 9 - 1 4 などのように設定示唆演出の画像を強調表示する）遊技機が挙げられる。。

#### 【0381】

このような構成によれば、示唆表示を一旦消去した後に再度表示することが可能であり、前記示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示を表示することが可能であるので、示唆表示が変化するタイミングに意外性があり、示唆表示を再度表示するときに、一旦消去する前よりも有利状態に制御される期待度が高い段階に変化した示唆表示を表示することにより、遊技において興趣を盛上げることができる。さらに、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、示唆演出の態様を特定演出の実行状況に応じて変更可能なので、遊技の興趣が向上する。

#### 【0382】

また、設定値と示唆演出とを関連付けてもよい。例えば、設定値が高い場合(例えば 4 ~ 6)が設定されている場合は、設定値が低い場合よりも(例えば、1 ~ 3)示唆演出の実行割合を高くしてもよい。そうすることで、遊技者は示唆演出の実行頻度から設定を示唆することが可能となり興趣が向上する。

#### 【0383】

また、消去する時間を複数設け設定値に応じて消去時間を変更してもよい。例えば、設定値が高い場合(例えば 4 ~ 6)が設定されている場合は、設定値が低い場合よりも(例えば、1 ~ 3)消去時間を長くしてもよい。そうすることで、遊技者は消去時間の長さから設定を示唆することが可能となり興趣が向上する。

#### 【0384】

また、有利状態に制御される期待度を示唆する示唆表示を消去している期間中に、設定値の設定に関連した示唆演出を実行するようにしてもよい。そのようにすれば、示唆表示が消去されている期間において、遊技者は、示唆表示が再度表示される際に期待度が高い段階に変化することを期待しながら設定値に係る情報を知ることができるので、興趣が向上する。

また、設定値の示唆を複数の要素（例えば示唆演出の実行割合と示唆表示の消去時間の長さ等との 2 つの要素）により行うようにすれば、複数の要素で遊技者に有利な設定値が示唆された場合には、遊技者は遊技者に有利な設定値であることをより確信することができ、或る要素で遊技者に有利な設定値が示唆されなかった場合でも、他の要素で有利な設定値が示唆されれば、遊技者は遊技者に有利な設定値であることへの期待感を持続できるので、遊技興趣を向上させることができる。

#### 【0385】

さらに、興趣を向上させることができる遊技機として、可変表示（例えば、特図ゲーム）を実行し、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（例えば、特徴部 6 1 A K を有するパチンコ遊技機 1）であって、

設定変更操作（例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A

10

20

30

40

50



K 0 0 2 などへの操作 ) に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値 ( 例えば、「 1 」 ~ 「 6 」 ) のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段 ( 例えば、主基板 1 1 ) と、

前記設定値の設定に関連した示唆演出 ( 例えば、設定示唆演出 ) を実行可能な示唆演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、

可変表示に関連した特定演出 ( 例えば、セリフ予告 ) を実行可能な特定演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり ( 例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能 ) 、

前記特定演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記特定演出を前記示唆演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である ( 例えば、セリフ予告の画像に重ねてモヤ画像を表示したり、セリフ予告をフリーズさせたりする ) 遊技機が挙げられる。以下に、この遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

10

#### 【 0 3 8 6 】

さらに、興趣を向上させることができる遊技機として、

可変表示 ( 例えば、特図ゲーム ) を実行し、遊技者にとって有利な有利状態 ( 例えば、大当たり遊技状態 ) に制御可能な遊技機 ( 例えば、特徴部 6 1 A K を有するパチンコ遊技機 1 ) であって、

設定変更操作 ( 例えば、設定値を変更するための操作であり、設定切替スイッチ 6 1 A K 0 0 2 などへの操作 ) に基づいて、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値 ( 例えば、「 1 」 ~ 「 6 」 ) のうちのいずれかの設定値を設定可能な設定手段 ( 例えば、主基板 1 1 ) と、

20

前記設定値の設定に関連した示唆演出 ( 例えば、設定示唆演出 ) を実行可能な示唆演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、

可変表示に関連した特定演出 ( 例えば、セリフ予告、飾り図柄の可変表示 ) を実行可能な特定演出実行手段 ( 例えば、演出制御基板 1 2 ) と、を備え、

前記示唆演出と前記特定演出とは、同一期間中に実行可能であり ( 例えば、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行可能 ) 、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出と前記特定演出とが同一期間中に実行される場合、前記示唆演出を前記特定演出が実行されないときとは異なる態様で実行可能である ( 例えば、図 9 - 1 4 などのように設定示唆演出の画像を強調表示する ) 遊技機が挙げられる。以下に、この遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

30

#### 【 0 3 8 7 】

( 他の形態例 )

次に、パチンコ遊技機 1 が備える特徴的部分である、特徴部 6 1 A K について説明する。

#### 【 0 3 8 8 】

( 設定値 )

特徴部 6 1 A K では、パチンコ遊技機 1 に、遊技者にとって有利度が異なる複数種類の設定値 ( 例えば、設定値に応じて大当たりの当選確率が異なる ) が用意され、そのうちの 1 つが当該パチンコ遊技機 1 に設定される。ここでは、設定値として、「 1 」 ~ 「 6 」 が用意されている。

40

#### 【 0 3 8 9 】

このような設定値を設定 ( 変更 ) するための構成として、特徴部 6 1 A K では、図 9 - 1 に示すように、錠スイッチ 6 1 A K 0 0 1 と、設定切替スイッチ 6 1 A K 0 0 2 と、表示モニタ 6 1 A K 0 0 3 と、が設けられている。これらは、主基板 1 1 と電氣的に接続されている。

#### 【 0 3 9 0 】

錠スイッチ 6 1 A K 0 0 1 は、パチンコ遊技機 1 の状態を、設定値を変更可能な設定値変更状態に切り替える際に操作される。錠スイッチ 6 1 A K 0 0 1 は、遊技場 ( 遊技店を

50

含む)の店員等(以下、単に店員等ともいう。)が所持する設定キー(鍵)が挿入される鍵穴を備える。錠スイッチ61AK001は、鍵穴に挿入した設定キーを回転させることができる構造を有する。錠スイッチ61AK001は、設定キーを鍵穴に抜き差しできる状態でオフであり、店員等が設定キーを鍵穴に挿入して回転させることでオンとなる。従って、設定キーをオンの回転位置に回転させた場合、当該設定キーを再度オフの回転位置に戻さないと、当該設定キーを錠スイッチ61AK001から抜くことができない。錠スイッチ61AK001がオンに基づき、パチンコ遊技機1は、設定値変更状態に移行する。

#### 【0391】

設定切替スイッチ61AK002は、押しボタンなどから構成されており、設定値を変更する際に操作される。設定切替スイッチは、各設定値に対して異なる回転位置が設定されたロータリスイッチなどにより構成されてもよい。

10

#### 【0392】

表示モニタ61AK003は、例えば、8の字に配置された7つのセグメントにより数字を表示可能な液晶表示装置から構成されており、設定値などを表示する。

#### 【0393】

錠スイッチ61AK001と、設定切替スイッチ61AK002と、表示モニタ61AK003と、は、パチンコ遊技機1の背面側に、主基板11、クリアスイッチ(RAMクリアスイッチ)、電源スイッチなどとともに配置されている。パチンコ遊技機1は、パチンコ遊技機1が設置される遊技場の島(パチンコ遊技機1が取り付けられる構造物)に対して、左右いずれかの端部に設けられた上下方向に延びる軸を中心に回動可能(開放可能)となっている。当該回動により、パチンコ遊技機1の背面が視認可能となり、錠スイッチ61AK001、設定切替スイッチ61AK002、表示モニタ61AK003、クリアスイッチなどが視認可能(スイッチに関しては操作可能)となる。パチンコ遊技機1を回動させるには、店員等が所持するキー(前記の設定キーと同じであってもよいし、当該設定キーとは別であってもよい)が必要である。従って、パチンコ遊技機1を回動させること、換言すると、前記錠スイッチ61AK001などを視認したり操作したりすることができる者は、通常、遊技者ではなく、店員等である。

20

#### 【0394】

例えば、錠スイッチ61AK001をオンにした状態(設定キーを鍵穴に挿入し、回転させた状態)で、クリアスイッチを押しながら電源スイッチをオンして電源を投入した場合、パチンコ遊技機1は、設定値を変更可能な設定値変更状態に移行する。パチンコ遊技機1は、設定値変更状態に移行すると、表示モニタ61AK003に現在設定されている設定値を表示する。店員等は、当該設定値を変更するために、設定切替スイッチ61AK002を操作する。設定切替スイッチ61AK002が操作されるたび、表示モニタ61AK003が表示する設定値は変更される。具体的に、設定切替スイッチ61AK002が操作されるたびに、「1」「2」・・・「5」「6」「1」「2」・・・と、設定値が順次増加し、「6」の次は「1」に変更される。なお、設定切替スイッチ61AK002が、ロータリスイッチなどである場合には、操作により指定された設定値が表示される。店員等は、表示モニタ61AK003に表示されている設定値が所望の値になったときに、錠スイッチ61AK001をオフする(設定キーをオフに回す)。これにより、そのときに表示モニタ61AK003に表示されていた設定値が新たにパチンコ遊技機1に設定される(設定値が変更される)。設定値の設定後、パチンコ遊技機1は、通常の動作のための処理(初期設定等)を開始し、その後、通常の動作状態(遊技が可能な状態)に移行する。

30

40

#### 【0395】

上記設定値の変更を実現するための処理は、主基板11にて行われる。例えば、主基板11のCPU103は、図3に示す遊技制御メイン処理において、電源投入時、クリアスイッチからオンの出力信号が出力されている場合(ステップS3;Yes)に、錠スイッチ61AK001がオン状態であるかを判定し、オン状態であるとき(錠スイッチ61AK001からオンの出力信号が出力されている場合)に、設定値変更処理を実行する。設

50

定値変更処理は、図 3 に示す遊技制御メイン処理の初期化処理（ステップ S 8）の前に実行される。設定値変更処理の実行により、設定値変更状態が実現される。

【 0 3 9 6 】

設定値変更処理では、CPU 103 は、まず、現在設定されている設定値を表示モニタ 61AK003 に表示する。現在設定されている設定値は、RAM 102 の第 1 所定領域に格納されているものとする。当該第 1 所定領域は、パチンコ遊技機 1 の電源がオフとなっても記憶内容が保持されるバックアップ RAM の領域である。その後、店員等により設定切替スイッチ 61AK002 が操作されるたび（設定切替スイッチ 61AK002 からオンの出力信号が供給されるたび）に、CPU 103 は、表示モニタ 61AK003 を制御して、表示モニタ 61AK003 が表示している設定値を変更していく。当該表示モニタ 61AK003 に表示中の設定値は、仮の設定値として、RAM 102 の第 2 所定領域に格納される。

10

【 0 3 9 7 】

設定値変更処理の実行中において、錠スイッチ 61AK001 がオフされたとき、例えば、錠スイッチ 61AK001 からのオンの出力信号の供給が停止したとき、又は、錠スイッチ 61AK001 からオフの出力信号の供給があったとき、CPU 103 は、前記第 2 所定領域に格納されている設定値を新たに設定される設定値として、前記第 1 所定領域に格納する（すでに第 1 所定領域に格納されている設定値に上書きされる）。このようにして、店員等による設定変更操作（設定切替スイッチ 61AK002 への操作等）に基づいて、新たな設定値がパチンコ遊技機 1 に設定される（設定値が変更される）。設定値変更処理のあとは、図 3 に示す遊技制御メイン処理の初期化処理（ステップ S 8）が実行される。この初期化処理（ステップ S 8）では、上記設定値についてはクリアされない（ステップ S 4 又は S 5 で No と判定されたあとのステップ S 8 も同様。なお、このときには、設定値が後述の初期値にクリアされてもよい）。

20

【 0 3 9 8 】

前記初期化処理のあとに設定値変更処理を実行してもよく（ステップ S 4 又は S 5 で No の場合などには設定値変更処理を実行しない）、その場合には、RAM 102 の第 1 所定領域に格納された設定値を、当該初期化処理にて、初期値（例えば、「1」）にクリアしてもよい（この場合には第 1 所定領域は、バックアップ RAM の記憶領域でなくてもよい）。この場合、当該クリアにより、初期値が新たな設定値として設定されことになり（設定値が初期値に変更されたことになり）、設定値変更処理の最初では、表示モニタ 61AK003 に初期値が現在の設定値として表示される。

30

【 0 3 9 9 】

また、電源投入時に限らず、任意のタイミングで、錠スイッチ 61AK001 がオンになったことに基づいて、設定値変更状態に移行してもよい。また、錠スイッチ 61AK001 を設けず、設定切替スイッチ 61AK002 への操作がなされるたびに、順次設定値が変更されてもよい。設定切替スイッチ 61AK002 などは、パチンコ遊技機 1 の前面側に設けられてもよい。

【 0 4 0 0 】

特徴部 61AK では、設定されている設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わる。具体的に、図 5 の特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理（ステップ S 110）において決定される、「大当り」または「小当り」とするか否かの決定割合のうち、「大当り」と決定する決定割合である「大当り」の当選確率が、設定値に応じて異なる。この点を、図 9 - 2 に示す表示結果判定テーブルを参照して説明する。

40

【 0 4 0 1 】

表示結果判定テーブルは、「大当り」または「小当り」とするか否かの決定（表示結果の決定）で CPU 103 により参照される。表示結果判定テーブルは、ROM 101 に記憶されているデータの集まりであって、前記表示結果の決定の際に表示結果決定用の乱数値 MR1 と比較される当り判定値が可変表示の表示結果に割り当てられているテーブルである。図 9 - 2（A）は、第 1 特図ゲームの実行時に参照される表示結果判定テーブルの

50

例を示す。図 9 - 2 ( B ) は、第 2 特図ゲームの実行時に参照される表示結果判定テーブルの例を示す。各テーブルでは、当り判定値が、遊技状態（確変状態であるか否か）や設定値に応じて、異なる範囲で、可変表示の表示結果に割り当てられている。例えば、第 1 特図ゲーム実行時において、遊技状態が通常状態または時短状態（つまり、非確変状態）である場合、設定値が 1 であれば、当り判定値 0 ~ 6 5 5 3 5（乱数値 M R 1 の数値範囲と同じ範囲）のうち、1 0 2 0 ~ 1 2 3 7 が「大当り」に割り当てられ、3 2 7 6 7 ~ 3 3 0 9 4 が「小当り」に割り当てられ、その他の数値が「はずれ」に割り当てられたテーブルが参照される（図 9 - 2 ( A ) ）。なお、第 1 特図ゲーム及び第 2 特図ゲームで、同じテーブルが参照されてもよい（つまり、各表示結果に割り当てられている当り判定値の範囲は第 1 特図ゲームと第 2 特図ゲームとで同じであってもよい）。

10

**【 0 4 0 2 】**

上記「大当り」または「小当り」とするか否かの決定では、表示結果判定テーブルにおいて、当該決定時に抽出された乱数値 M R 1 に遊技状態や設定値に応じて合致する当り判定値に割り当てられている表示結果（決定結果）、つまり、大当り、小当り、ハズレのいずれかが、その後に実行される可変表示の可変表示結果（特図ゲームの表示結果）として決定される。

**【 0 4 0 3 】**

図 9 - 2 に示すように、「大当り」に割り当てられた当り判定値の数値範囲は、同じ特図ゲーム及び遊技状態において、設定値が大きいほど広い。具体的に、当該数値範囲は、連続した数値の範囲であって、下限値が共通で上限値が設定値が増えるほど、大きな値となっている範囲となっている。つまり、設定値 1 ~ 6 のうち 6 が最も大当りの当選確率（出玉率）が高く、6、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど当該当選確率が低くなる。すなわち、設定値として 6 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。換言すれば、設定値とは、最も大きい値である 6 が最も遊技場側にとって不利な値であり、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど遊技場側にとって有利な値となる。

20

**【 0 4 0 4 】**

なお、第 1 特図ゲーム及び第 2 特図ゲームの両者において、「大当り」に割り当てられた当り判定値の範囲は、遊技状態が通常状態又は時短状態（非確変状態）のときよりも確変状態のときの方が広い。つまり、確変状態の方が、大当りの当選確率が高い。また、各設定値に応じて、通常状態や時短状態（非確変状態）における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率がそれぞれ異なる（例えば、設定値 1 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は 1 . 5 倍であり、設定値 2 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は約 1 . 5 6 倍であり、設定値 3 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は 1 . 6 2 5 倍である）。当該倍率は、設定値によらず一定であってもよい（例えば、5 倍で一定）。

30

**【 0 4 0 5 】**

また、第 2 特図ゲームの方が、第 1 特図ゲームよりも、「小当り」に割り当てられた当り判定値の範囲が広い（つまり、小当りの当選確率が高い）。特図表示結果を「小当り」と決定する割合は、図 9 - 2 では各特図ゲームで一定だが、設定値に応じて異ならせてもよい。図 9 - 2 では共通であるが、第 1 特図ゲームと第 2 特図ゲームとで、「大当り」に割り当てられた当り判定値の範囲を異ならせてもよい。

40

**【 0 4 0 6 】**

なお、図 9 - 2 に示すように、設定値「6」において「大当り」に割り当てられた当り判定値の数値範囲（設定値「1」~「6」のうち、最も広い数値範囲であって、設定値「1」~「5」における各数値範囲を包含する数値範囲）が、「小当り」に割り当てられている当り判定値の数値範囲と重複しない数値範囲となっている（特に、同じ特図ゲームかつ遊技状態のとき）。これにより、例えば、パチンコ遊技機 1 の設計段階などにおいて、「大当り」に割り当てられた当り判定値の数値範囲のうち、設定値「1」~「5」の当り

50

判定値の数値範囲を、「小当り」に割り当てられた当り判定値の数値範囲を変更せずに調整できる。

【0407】

上記大当りの当選確率を設定値に応じて異ならせる構成に加えて又は代えて、図5の特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理（ステップS110）において決定される大当り種別の決定割合を、設定値に応じて異ならせてもよい。例えば、大当り種別として、大当りA～Cを用意する。

【0408】

大当りAは、大当り遊技状態のラウンド数（大入賞口を開放回数）が5回で、大当り遊技状態後、確変状態に制御されないが時短状態に制御される（低確高ベースに制御される）大当り種別である。時短状態は、可変表示が100回実行されるまで継続する（ただし、次の大当りが発生した場合は、その時点で終了する）。

10

【0409】

大当りBは、大当り遊技状態のラウンド数が10回で、大当り遊技状態後、確変状態及び時短状態に制御される（高確高ベースに制御される）大当り種別である。確変状態及び時短状態は、次回の大当りまで継続する。

【0410】

大当りCは、大当り遊技状態のラウンド数が15回で、大当り遊技状態後、確変状態及び時短状態に制御される（高確高ベースに制御される）大当り種別である。確変状態及び時短状態は、次回の大当りまで継続する。

20

【0411】

大当り種別の決定では、例えば、図9-3に示す大当り種別判定テーブルが参照される。当該テーブルは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、大当り種別の決定の際に大当り種別決定用の乱数値MR2と比較される種別判定値が大当り種別に割り当てられているテーブルである。図9-3(A)は、第1特図ゲームを実行するとき（第1特図ゲームの表示結果が「大当り」となるとき）に参照される大当り種別判定テーブルであり、図9-3(B)は、第2特図ゲームを実行するとき（第2特図ゲームの表示結果が「大当り」となるとき）に参照される大当り種別判定テーブルである。大当り種別の決定では、大当り種別判定テーブルにおいて、当該決定時に抽出された乱数値MR2に合致する種別判定値に割り当てられている大当り種別（決定結果）が、その後実行される可変表示の大当りの大当り種別として決定される。

30

【0412】

図9-3に示すように、第1特図ゲーム、第2特図ゲームのいずれについても、大当りAを決定する割合が同一（種別判定値が0～99で共通）である一方で、大当りBと大当りCのうち、大当りCを決定する割合が設定値6、5、4、3、2、1の順に低くなる。これにより、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が6である場合が最も出玉率が高く、設定値が5、4、3、2、1の順に小さくなるほど出玉率が低くなっている（大当りCの方がラウンド回数が多いため）。なお、第2特図ゲームを実行するときの大当り種別の決定では、設定値が6である場合に大当り種別を大当りBに決定しない。つまり、設定値に応じて大当り種別の決定割合が異なることには、いずれかの大当り種別を決定しないこと（決定割合が0%である）を含む。

40

【0413】

特徴部61AKでは、設定値に応じて、大当り確率や大当り種別の決定割合（総称すると出玉率）が異なっているので、遊技興趣を向上している。

【0414】

（設定値の演出制御基板12への通知）

上記のようにして、新たな設定値が設定されたとき、つまり、設定値が変更されたときには、主基板11から演出制御基板12に、新たに設定された設定値（変更後の設定値）を通知する。

【0415】

50

例えば、主基板 1 1 (CPU 1 0 3) は、上記の演出制御コマンドとして、設定中の設定値 (特に、変更があった場合の変更後の設定値) を指定する設定値指定コマンドを演出制御基板 1 2 (演出制御用 CPU 1 2 0) に送信することで、新たに設定された設定値を通知する。演出制御用 CPU 1 2 0 は、設定値指定コマンドを受信すると、当該コマンドが指定する設定値のデータを現在設定されている設定値として RAM 1 2 2 に保持する。このようにすることで、主基板 1 1 と演出制御基板 1 2 とで、現在の設定値として、同じ値を共有することができる。

#### 【0416】

設定値指定コマンドは、電源投入時の設定値変更処理 (設定値の変更時) に送信される。ここで、演出制御基板 1 2 の RAM 1 2 2 の記憶内容がパチンコ遊技機 1 の電源オフにより失われる場合、電源投入後、何らかの通知がない限り演出制御基板 1 2 は設定値を認識できない。そこで、設定値指定コマンドは、電源投入時において、設定値変更処理の実行の有無によらず、送信されてもよい。設定値が電源投入時以外でも変更可能なとき、設定値指定コマンドは、設定値変更後の任意のタイミングで送信されるとよい。さらに、設定値指定コマンドは、電源投入時に限らず、定期的に演出制御基板 1 2 に送信されてもよい。例えば、図 4 の遊技制御用タイマ割込み処理を実行するたびに、CPU 1 0 3 が、RAM 1 0 2 の第 1 所定領域に格納された設定値を読み出し、当該読み出した設定値を指定する設定値指定コマンドを演出制御基板 1 2 に送信してもよい。

#### 【0417】

(変動パターン)

特徴部 6 1 A K では、図 9 - 4 に示すように、可変表示結果が「非リーチはずれ」の変動パターン PA 1 - 1 ~ PA 1 - 4 が用意されている。また、ノーマルリーチ、スーパーリーチ、又は、スーパーリーチの実行を指定する、可変表示結果が「リーチはずれ」の変動パターン PA 2 - 1 ~ PA 2 - 3 及び可変表示結果が「大当たり」の変動パターン PB 1 - 1 ~ PB 1 - 3 が用意されている。また、可変表示結果が「小当たり」の変動パターン PC 1 - 1 が用意されている。

#### 【0418】

変動パターン PA 1 - 2 ~ PA 1 - 3 は、合計保留記憶数 (第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計) が 1 つのときには決定 (選択) されず、複数のときに決定 (選択) され得る。変動パターン PA 1 - 4 は、時短制御でない非時短制御のとき (通常状態のとき) には、決定 (選択) されず、時短制御のとき (時短状態又は確変状態のとき) に決定 (選択) され得る。変動パターン PA 1 - 2 ~ PA 1 - 4 は、可変表示の実行時間 (特図変動時間) が変動パターン PA 1 - 1 よりも短く設定されており (以下、これらを短縮の変動パターンともいう)、これにより、合計保留記憶数 (第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数のうち、実行される方の特図ゲームの保留記憶数であってもよい。以下、合計保留記憶数について同じ) が複数のときや、時短制御のときの特図変動時間の平均が、合計保留記憶数が 1 つのときかつ非時短制御のとき (通常状態のとき) よりも、短くなっている。なお、短縮の変動パターンは、合計保留記憶数が多くなるほど (第 1 保留記憶数又は第 2 保留記憶数が多くなるほど) 選択 (決定) されやすくしてもよい。なお、「小当たり」の変動パターン PC 1 - 1 の特図変動時間も比較的短くなっている (「小当たり」のときは、リーチと

#### 【0419】

ノーマルリーチ、スーパーリーチ、又は、スーパーリーチの変動パターンは、各リーチ演出を実行できるよう、比較的長い特図変動時間が設定されている。ここでは、スーパーリーチ、スーパーリーチ、ノーマルリーチの順に可変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されており、特図変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。

#### 【0420】

(特徴部 6 1 A K で実行される主な演出)

(セリフ予告)

特徴部 6 1 A K では、可変表示に関連して実行され、可変表示結果が「大当たり」となることを示唆する、ないし、可変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度を予告する予告演出の一種として、セリフ予告が実行される。セリフ予告の演出画面例を図 9 - 5 に示す。

【 0 4 2 1 】

図 9 - 5 ( A ) は、セリフ予告実行前の演出画面である。図 9 - 5 ( A ) では、画面中央の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R それぞれで、飾り図柄が変動（ここでは、スクロール表示）しており（下向き矢印で当該変動を表している）している。また、可変表示対応表示として、保留表示 H（例えば、通常状態では、保留中の第 1 特図ゲームを示し、時短状態では、保留中の第 2 特図ゲームを示す表示など）が表示されている。さらに、画面の隅（右下隅）の表示領域 6 1 A K 1 0 1 において、飾り図柄を縮小させた小図柄が、  
「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に対応する「左」、「中」、「右」（飾り図柄の可変表示と同じ数である 3 つの領域それぞれ）において可変表示される。小図柄の可変表示は、飾り図柄の可変表示と同期して実行される（例えば、「左」、「中」、「右」での図柄の停止タイミングなどが同期している）。小図柄の可変表示は、飾り図柄の可変表示と並行して実行される。セリフ予告は、「左」、「中」、「右」それぞれで、飾り図柄及び小図柄が変動しているときに実行される。

10

【 0 4 2 2 】

セリフ予告では、まず、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 が登場して（画像表示装置 5 に表示され）、「チャンスかな？」とのセリフをしゃべる（図 9 - 5 ( B ) ）。なお、セリフをしゃべるとは、当該セリフが画像表示装置 5 に吹き出しで表示されるとともに音声出力（  
スピーカ 8 L、8 R からの出力。以下、音声出力について同じ）されることを含み、セリフの表示は、セリフの音声出力期間よりも長く、セリフの音声出力後、所定期間継続される（以下、セリフについて同じ）。

20

【 0 4 2 3 】

その後、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 が登場して（第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 のセリフは消去される）、セリフ予告の種類に応じたセリフをしゃべる（図 9 - 5 ( C ) ）。ここでは、セリフ予告として、セリフ予告 A ~ C が用意されており、セリフ予告 A のセリフは例えば「チャンスかも」であり、セリフ予告 B のセリフは例えば「チャンスだ！」であり、セリフ予告 C のセリフは例えば「激熱だ！！」（図 9 - 5 ( C ) ）である。なお、大当たり期待度は、セリフ予告 C > セリフ予告 B > セリフ予告 A の順に高い。

30

【 0 4 2 4 】

その後、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3、及び、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 のセリフが消去され、セリフ予告は終了する。

【 0 4 2 5 】

セリフ予告で表示される、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3、及び、各キャラのセリフ（吹き出し）は、例えば上下に揺れるなどのループ動作を行う。

【 0 4 2 6 】

なお、セリフ予告のうち、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 が登場してから（セリフ予告の開始から）、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 が登場するまでの演出（第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 の表示 セリフの表示及び音声出力 セリフの消去の演出）を第 1 セリフ演出ともいう。  
第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 が登場してから、セリフ予告が終了するまでの演出（第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 の表示 セリフの表示及び音声出力 第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3 などの消去）を第 2 セリフ演出ともいう。

40

【 0 4 2 7 】

（設定示唆演出）

特徴部 6 1 A K では、上記セリフ予告の加え、設定値の設定に関連した設定示唆演出も実行される。設定示唆演出は、ここでは、現在設定されている設定値を示唆する。設定示唆演出の演出画面例を図 9 - 6 に示す。

【 0 4 2 8 】

図 9 - 6 ( A ) は、設定示唆演出実行前の演出画面である。設定示唆演出は、セリフ予

50

告と同様に、「左」、「中」、「右」それぞれで、飾り図柄及び小図柄が変動しているときに実行される。

【0429】

設定示唆演出では、まず、当該設定示唆演出の種類に応じて異なるミニキャラ61AK105が登場して（画像表示装置5に表示され）、登場したミニキャラ61AK105に応じたセリフをしゃべる（表示及び音声出力される）（図9-6（B））。

【0430】

ここでは、設定示唆演出として、設定示唆演出A～Dが用意されている。

【0431】

設定示唆演出Aでは、ミニキャラ61AK105としてミニキャラAが登場し、当該ミニキャラAが「低いかも」とのセリフをしゃべる。設定示唆演出Aは、現在の設定値が低いことを示唆する。

10

【0432】

設定示唆演出Bでは、ミニキャラ61AK105としてミニキャラBが登場し、当該ミニキャラBが「高いかも」とのセリフをしゃべる。設定示唆演出Bは、現在の設定値が高いことを示唆する。

【0433】

設定示唆演出Cでは、ミニキャラ61AK105としてミニキャラCが登場し、当該ミニキャラCが「4以上だね」とのセリフをしゃべる。設定示唆演出Cは、現在の設定値が4以上であることを示唆しており、当該設定示唆演出Cの実行により現在の設定値が4以上で確定であることを示す。

20

【0434】

設定示唆演出Dでは、ミニキャラ61AK105としてミニキャラDが登場し、当該ミニキャラDが「6だね」とのセリフをしゃべる（図9-6（B））。設定示唆演出Dは、現在の設定値が6であることを示唆しており、当該設定示唆演出Dの実行により現在の設定値が6以上で確定であることを示す。

【0435】

設定示唆演出で表示されるミニキャラ61AK105は、設定示唆演出A～Dで共通のキャラであってもよい（セリフにより設定示唆演出を種類分けしてもよい）。また、セリフはなくてもよく、ミニキャラの種類のみで設定値を示唆してもよい。

30

【0436】

（セリフ予告及び設定示唆演出の実行について）

セリフ予告と設定示唆演出とは、後述のように別々にその実行の有無が決定されるので、セリフ予告と設定示唆演出とが1回の可変表示にて実行されることもある。セリフ予告と設定示唆演出とは、上述のように、「左」、「中」、「右」それぞれで、飾り図柄及び小図柄が変動しているときに実行され、両者が実行される場合には、その実行期間が重複する。特徴部61AKでは、セリフ予告と設定示唆演出との両者が実行される場合、セリフ予告が、設定示唆演出が実行されないときとは異なる態様で実行される。以下、この点を図9-7を参照して説明する。

【0437】

40

設定示唆演出は、セリフ予告における第1セリフ演出の実行中（図9-7（A））に実行される。具体的に、設定示唆演出は、セリフ予告の第1セリフ演出のセリフの音声出力が終了したあと、セリフの表示が継続しているときに実行される。このときは、まず、ミニキャラ61AK105（設定示唆演出の種類に応じたキャラ）が登場し（表示され）、「モヤ（靄）」を表すモヤ画像が画像表示装置5全体に表示されるとともにセリフ予告及び変動している飾り図柄がフリーズ（一時停止）し（図9-7（B））、その後、ミニキャラ61AK105がセリフをしゃべる（図9-7（C））。

【0438】

モヤ画像は、セリフ予告や飾り図柄に「モヤ」がかかったような視覚効果を与える半透明の画像（図9-7（B）及び（C）では、ハッチングで表現されている）である。ここ

50



で、特徴部 6 1 A K では、演出画像は、所定の順序で重ねられた、それぞれが画像を表示する複数のレイヤーにより構成されている（図 9 - 8）。複数のレイヤーは、後側（遊技者側とは反対側であって、表示の優先度が低い側）から前側（遊技者側であって、表示の優先度が高い側）に向かって順に配置された、背景画像や保留表示を表示する第 1 レイヤー（画像の非表示時は透明であり、画像表示時であっても画像（特に言及がない限り非透明）が表示されていない領域は透明である。以下、レイヤーについて同じ）、飾り図柄を表示する第 2 レイヤー、セリフ予告の画像を表示する第 3 レイヤー、モヤ画像を表示する第 4 レイヤー、設定示唆演出の画像を表示する第 5 レイヤー、小図柄（表示領域 6 1 A K 1 0 1）を表示する第 6 レイヤーを含む（図 9 - 8）。このようなレイヤーの順序により、モヤ画像は、背景画像、保留表示、飾り図柄、セリフ予告の画像よりも前面側（遊技者側）に配置され、これら各画像に重ねられて表示されている（各画像を覆っている）。このようなモヤ画像により、背景画像、保留表示、飾り図柄、セリフ予告の画像（第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 及びセリフ）にモヤがかかったような視覚効果（視認性を低下させる視覚効果）が得られる。なお、設定示唆演出の画像や小図柄は、モヤ画像よりも前面側に配置され、これらには、モヤがかかっていない（図 9 - 7（B）及び（C））。従って、設定示唆演出の画像（ミニキャラ 6 1 A K 1 0 5 やセリフ）や小図柄については、モヤ画像が表示されても、視認性が低下しない。

【 0 4 3 9 】

設定示唆演出の実行に伴って行われる上記フリーズでは、セリフ予告が、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 がセリフとともに表示された状態でフリーズする。具体的には、第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 及びセリフのループ動作（上下の揺れなど）が一時停止する。

【 0 4 4 0 】

さらに、上記フリーズにより、変動中の飾り図柄も一時停止するが、一時停止した飾り図柄は、確定飾り図柄と誤認されないように、確定飾り図柄のように左右方向に一列に表示されるのではなく、上下方向においてずらして表示される。なお、フリーズがあっても、小図柄の変動は一時停止しない。これにより、フリーズ中でも可変表示が継続していることを遊技者は容易に認識できる。

【 0 4 4 1 】

その後、設定示唆演出の終了（ミニキャラ 6 1 A K 1 0 5 やセリフの消去）と同時に、フリーズしているセリフ予告及び飾り図柄の変動が再開し、第 2 セリフ演出が実行される（図 9 - 7（D））。

【 0 4 4 2 】

設定示唆演出の画像は、セリフ予告の画像（第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2、第 2 キャラ 6 1 A K 1 0 3、それぞれのセリフ（吹き出しを含む））が表示される第 1 表示領域に比べて小さく、かつ、第 1 表示領域とは重複しない第 2 表示領域にて表示される。

【 0 4 4 3 】

（セリフ予告及び設定示唆演出の実行タイミングなど）

セリフ予告及び設定示唆演出の実行タイミング（開始タイミング、終了タイミング、実行期間など）を、図 9 - 9 を参照しながら説明する。図 9 - 9（A）に示すように、セリフ予告では、第 1 セリフ演出の実行後に第 2 セリフ演出が実行される。図 9 - 9（B）に示すように、設定示唆演出では、ミニキャラ 6 1 A K 1 0 5 が登場したあと、一定時間経過後にセリフが表示される（音声も出力される）。第 1 セリフ演出の実行後に第 2 セリフ演出が実行される。

【 0 4 4 4 】

セリフ予告及び設定示唆演出は、上述のように、「左」、「中」、「右」それぞれで、飾り図柄及び小図柄が変動しているとき（つまり、可変表示の開始から、飾り図柄のいずれかが停止する前まで）に実行される。これら 2 つの演出の実行タイミングは、変動パターンとの関係で予め決まっている。同じ変動パターンであれば、セリフ予告及び設定示唆演出が実行される場合（図 9 - 9（C））の実行タイミングは、セリフ予告及び設定示唆演出がそれぞれ単独で実行される場合（図 9 - 9（A）及び（B））と同じである。

10

20

30

40

50

## 【 0 4 4 5 】

設定示唆演出は、セリフ演出とともに実行される場合、第 1 セリフ演出の実行中に実行される（実行態様は、セリフ予告が実行されていないときと同じである）。モヤ画像の表示や、セリフ予告及び飾り図柄のフリーズは、設定示唆演出においてミニキャラ登場後、セリフが表示されるまでの前記一定期間中に開始される。なお、同タイミングで、モヤ画像の表示及びフリーズを開始する他、いずれか一方を先に開始してもよい。

## 【 0 4 4 6 】

設定示唆演出の実行に伴ってセリフ予告の上記フリーズが生じても、セリフ予告の終了タイミングは変化しない。具体的に、フリーズがあっても、第 1 セリフ演出の終了タイミングは変化しない（フリーズ分、第 1 セリフ演出の演出画像（第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 など）の動作が短くなるが、第 1 セリフ演出の演出画像を、動作しないかループ動作する態様とすることで、フリーズが生じた際の終了タイミングにおける演出の違和感などを軽減できる）。前記フリーズは、第 1 セリフ演出におけるセリフの音声出力が終了したあとに発生し、一時停止されるのは第 1 キャラ 6 1 A K 1 0 2 などの表示のみとするといよい。これにより、演出をスムーズに実行、一時停止できる。

10

## 【 0 4 4 7 】

設定示唆演出の実行に伴って飾り図柄の可変表示の上記フリーズが生じても、可変表示における飾り図柄、小図柄の停止開始タイミング（「左」の図柄の停止タイミング）、可変表示の終了タイミング（可変表示結果の導出タイミング）も変化しない。

## 【 0 4 4 8 】

上記フリーズにより飾り図柄が一時停止されても、小図柄の変動は一時停止しない。これにより、フリーズ中でも可変表示が継続していることを遊技者は容易に認識できる。

20

## 【 0 4 4 9 】

設定示唆演出の終了に同期して、モヤ画像は消去され、フリーズも解除される（セリフ予告や飾り図柄の変動が再開する）。フリーズ解除後、一定期間が経過すると、第 1 セリフ演出が終了し（設定示唆演出が実行されない場合と同じタイミングで終了し）、第 2 セリフ演出が開始される。

## 【 0 4 5 0 】

（特徴部 5 5 A K で実行される処理）

以下、特徴部 5 5 A K で実行される処理（上記各演出の実行を実現するための処理）を説明する。なお、以下の処理で行われる各種決定は、例えば抽選により決定される。抽選による決定は、ランダムな決定であればよく、例えば、「大当り」または「小当り」とするか否かの決定や、大当り種別の決定（これらも抽選による決定である）などと同様に、各種の演出用乱数（複数種類のいずれかの乱数）に基づき、ROM 1 2 1 に格納されているテーブル（乱数値と比較される判定値が決定結果に割り当てられているテーブル）を参照して行う。

30

## 【 0 4 5 1 】

（可変表示開始設定処理（ステップ S 1 7 1））

特徴部 6 1 A K で実行される可変表示開始設定処理（ステップ S 1 7 1）の一例を図 9 - 4 に示す。当該処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、今回実行される飾り図柄の可変表示の変動パターン（以下、今回の変動パターンともいう。）が、短縮の変動パターン P A 1 - 2 ~ P A 1 - 4、小当り用の変動パターン P C 1 - 1 のいずれであるかを判定する（ステップ 6 1 A K S 0 0 1）。今回の変動パターンは、特図ゲームの開始時に主基板 1 1 から送信されてくる演出制御コマンドのうちの変動パターン指定コマンド（変動パターンを指定するコマンド）により特定される。

40

## 【 0 4 5 2 】

今回の変動パターンが、前記変動パターン P A 1 - 2 ~ P A 1 - 4、P C 1 - 1 のいずれでもなければ（ステップ 6 1 A K S 0 0 1 ; N O）、特図変動時間がある程度長く、セリフ予告や設定示唆演出を実行する期間を確保できるので、これら演出の実行の有無などを決定する。具体的に、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、今回実行される可変表示の可

50

変表示結果（以下、今回の可変表示結果ともいう。）が「はずれ」であるか「大当たり」であるかに応じて異なる割合で、セリフ予告の実行の有無などを決定する（ステップ61AKS002）。今回の可変表示結果は、特図ゲームの開始時に主基板11から送信されてくる演出制御コマンドのうちの表示結果指定コマンド（可変表示結果（「大当たり」、「小当たり」、「はずれ」のいずれであるか、「大当たり」の場合の大当たり種別など）を指定するコマンド）により特定される。

#### 【0453】

セリフ予告の実行の有無などの決定例を図9-11に示す。図9-11に示すように、今回の可変表示結果が「はずれ」のときは、セリフ予告を実行しない>セリフ予告Aを実行する>セリフ予告Bを実行する>セリフ予告Cを実行する、の順で決定割合が高い。一方、大当たりのときの決定割合の順序は、「はずれ」のときと逆になっている。従って、セリフ予告C（「激熱だ！！」）の大当たり期待度が最も高く、セリフ予告B（「チャンスだ！」）の大当たり期待度が次に高く、セリフ予告A（「チャンスかも」）の大当たり期待度が次に高く、セリフ予告が実行されないときに最も大当たり期待度が低い。

#### 【0454】

ステップ61AKS002のあと、演出制御用CPU120は、設定示唆演出の実行の有無を決定する（ステップ61AKS003）。当該決定例を図9-12に示す。図9-12に示すように、演出制御用CPU120は、可変表示結果等によらず一定割合で、設定示唆演出を実行する/実行しないと決定する。ここでは、1/100の割合で、設定示唆演出が実行される。

#### 【0455】

ステップ61AKS003のあと、演出制御用CPU120は、設定示唆演出を実行すると決定したかを判定し（ステップ61AKS004）、実行する場合（ステップ61AKS004;YES）、今回実行する設定示唆演出の種類を決定する（ステップ61AKS005）。当該種類の決定割合は、現在設定されている設定値に応じて異なる。設定値は、上述のように、主基板11から伝送される設定値指定コマンドに基づき特定され、RAM122の所定領域に格納されており、今回の決定のときに参照される。

#### 【0456】

設定示唆演出の種類の決定例を図9-13に示す。図9-13に示すように、設定値「1」～「6」全てのときにおいて、設定示唆演出A及びBを今回実行する設定示唆演出の種類として決定可能である。設定示唆演出A（ミニキャラA+「低いかも」のセリフ）は、設定値の値が低いほど（「1」に近いほど）、今回実行する設定示唆演出の種類として決定されやすい。従って、設定示唆演出Aが実行される場合は、設定値が低い可能性が高く、当該設定示唆演出Aは、現在設定されている設定値が低いことを示唆する。設定示唆演出B（ミニキャラB+「高いかも」のセリフ）は、設定値の値が高いほど（「6」に近いほど）、今回実行する設定示唆演出の種類として決定されやすい。従って、設定示唆演出Bが実行される場合は、設定値が高い可能性が高く、当該設定示唆演出Bは、現在設定されている設定値が高いことを示唆する。

#### 【0457】

設定示唆演出C（ミニキャラC+「4以上だね」のセリフ）は、設定値の値が「4」以上のときに今回実行する設定示唆演出の種類として決定される。従って、設定示唆演出Cが実行される場合は、設定値が「4」以上で確定し、当該設定示唆演出Cは、現在設定されている設定値が「4」以上であることを示唆する。また、設定示唆演出Cは、設定値が「4」に近いほど、決定割合が高い（設定値「4」のときの35%、設定値「5」のときの30%、設定値「6」のときの25%）。従って、設定示唆演出Cが実行されたときには、設定値は「4」である可能性が最も高く、次に「5」である可能性が高く、「6」である可能性が最も低い。

#### 【0458】

設定示唆演出D（ミニキャラD+「6だね」のセリフ）は、設定値の値が「6」のときにのみ、今回実行する設定示唆演出の種類として決定される。従って、設定示唆演出Dが

10

20

30

40

50

実行される場合は、設定値が「6」で確定し、当該設定示唆演出Dは、現在設定されている設定値が6であることを示唆する。

【0459】

ステップ61AKS005のあと、演出制御用CPU120は、今回、セリフ予告と設定示唆演出との両者を実行すると決定したかを判定し（ステップ61AKS006）、両者を実行すると決定している場合（ステップ61AKS006；YES）、上記のモヤ画像の表示及びセリフ予告や飾り図柄の変動のフリーズを実行することを決定する（ステップ61AKS007）。

【0460】

ステップステップ61AKS007のあと、ステップステップ61AKS001、S004、S006で「NO」と判定された場合、演出制御用CPU120は、今回の変動パターン及び表示結果に基づいてリーチ演出等の他の演出の実行の決定、飾り図柄の確定飾り図柄の決定などを行う（ステップ61AKS008）。

【0461】

その後、演出制御用CPU120は、飾り図柄の可変表示の実行指示及び上記で決定した内容の演出の実行の指示を表示制御部123に指示する（ステップ61AKS008）。

【0462】

具体的に、演出制御用CPU120は、今回の変動パターンや今回の表示結果に応じた飾り図柄の可変表示の開始を表示制御部123に指示する。表示制御部123は、当該指示を受け、飾り図柄の可変表示を開始する。

【0463】

演出制御用CPU120は、セリフ予告又は設定示唆演出を実行すると決定している場合、当該セリフ予告又は設定示唆演出を、今回の変動パターンとの関係で予め定められたタイミングで実行するよう表示制御部123に指示する。このような指示を受けた表示制御部123は、飾り図柄の可変表示の開始後の所定タイミングから、セリフ予告又は設定示唆演出を実行開始する。演出制御用CPU120は、セリフ予告及び設定示唆演出の両者を実行すると決定している場合、セリフ予告及び設定示唆演出の実行の指示に合わせて、モヤ画像の表示やフリーズを実行することも表示制御部123に指示する。このような指示を受けた表示制御部123は、飾り図柄の可変表示の開始後の所定タイミングからセリフ予告を開始し、その後、図9-5に示すような、設定示唆演出、モヤ画像の表示、セリフ予告及び飾り図柄の変動のフリーズなどを今回の変動パターンとの関係で予め定められた各タイミングで実行する。

【0464】

演出制御用CPU120は、リーチ演出等、他の演出を実行すると決定している場合には、実行すると決定している演出を、今回の変動パターンとの関係で予め定められたタイミングで実行するよう表示制御部123に指示する。表示制御部123は、当該指示を受け、前記のタイミングで前記の各種演出を実行する。さらに、演出制御用CPU120は、適宜、保留表示Hの更新表示を表示制御部123に指示する。

【0465】

ステップ61AKS009において、演出制御用CPU120は、表示制御部123に実行させる各演出（上記で実行すると決定した各演出）に関する演出制御パターンを設定し、可変表示中演出処理（ステップS172）において、当該演出制御パターンに従って、各演出の開始タイミング時に、各演出の実行を指示してもよい。

【0466】

その後、演出制御用CPU120は、演出プロセスフラグを「2」に更新し（ステップ61AKS009）、可変表示開始設定処理を終了する。

【0467】

（特徴部61AKの作用効果）

特徴部61AKでは、セリフ予告の態様を、同時期に実行される設定示唆演出が実行されるときと、設定示唆演出が実行されないときとで異ならせる。特に、モヤ画像やフリー

10

20

30

40

50

ズにより、設定示唆演出が目立つようになっており、視認ないし確認が容易となっている。これにより、設定示唆演出を見逃すことなどが防止され、遊技の興趣が向上する。

【0468】

設定示唆演出は、上記のように、実行割合が1/100であるので、出現率が低い。遊技者は、このような設定示唆演出をスマートフォンなどで撮影して、SNS（Social Networking Service）などにアップロードして共有することが想定される。しかし、設定示唆演出の画像はセリフ予告の画像よりも小さく表示される（これにより、飾り図柄の可変表示を邪魔せず、さりげないものとする）ことができる（図9-7など）、当該設定示唆演出を見逃してしまう（例えば撮影チャンスを逃してしまう）おそれがある。そこで、モヤ画像の表示やフリーズにより、設定示唆演出を目立たせることで、当該見逃しを防止し、見逃しによる遊技の興趣の低下を防止できる。

10

【0469】

セリフ予告や、飾り図柄の可変表示をフリーズさせ、各演出の演出表示（第1キャラ61AK102やセリフ、変動中の飾り図柄）の動作（ループ動作、変動）を一時停止させる一方、設定示唆演出については、演出表示の動作（ミニキャラ61AK105がセリフという動作）が停止しないので、設定示唆演出を強調でき、設定示唆演出を見逃すことなどが防止され、遊技の興趣が向上する。

【0470】

また、セリフ予告や飾り図柄の可変表示にモヤ画像を重畳表示することで、これら各演出をモヤがかかった状態にすることができ、これらの視認性を低下させる。当該視認性の低下により、設定示唆演出が強調されるので、設定示唆演出の演出効果を高めることができ、遊技の興趣が向上する。

20

【0471】

また、設定示唆演出の画像（ミニキャラ61AK105及びセリフ）は、セリフ予告の画像（第1キャラ61AK102、第2キャラ61AK103、及び、各キャラのセリフ（吹き出し））よりも小さく表示され、設定示唆演出の画像（ミニキャラ61AK105及びセリフ）とセリフ予告の画像とが、互いに被らないよう異なる表示領域で表示されるので、設定示唆演出とセリフ予告とのうち一方が他方を妨げないので、遊技の興趣の低下を防止できる（特に、両画像が互いに被らないことによりこの効果がいえる）。

【0472】

また、設定示唆演出の終了により、フリーズが解除され、セリフ予告の演出動作（ループ動作など）及び飾り図柄の変動が再開し、モヤ画像の表示も終了する。これにより、セリフ予告や飾り図柄の変動が途中で終わることなく、視認性が確保された状態で最後まで実行されるので、セリフ予告の実行が確保され、遊技の興趣の低下を防止できる。

30

【0473】

特徴部61AKでは、小図柄の変動は、飾り図柄の変動の一時停止の有無にかかわらず継続されるので、遊技者は、小図柄により可変表示が継続していることを認識できる。従って、フリーズにより可変表示が終了したとの誤解が生じることを防止できる。さらに、小図柄（表示領域61AK101）を表示するレイヤーは、各種演出の画像を表示するレイヤーよりも遊技者側にあるので、例えば、画像が小図柄の表示領域61AK101に進出するような状態の演出（特にセリフ予告や設定示唆演出）を採用したとしても、小図柄の視認性が確保される。さらに、モヤ画像が表示されても、小図柄の視認性が確保される。これらにより、演出の進行を認識できるので、遊技の進行（特に可変表示の進行）を確認できずに遊技の興趣が低下するといった不都合は生じ難くなる。

40

【0474】

上記フリーズにより一時停止する飾り図柄は、確定飾り図柄のように左右方向に一列に表示されるのではなく、上下方向においてずらして表示される。これにより、飾り図柄の可変表示結果が導出されたとの誤認を防止できる。なお、一時停止する飾り図柄は、一列に表示されてもよい。

【0475】

50

一時停止する飾り図柄は、「大当り」や「小当り」時の確定飾り図柄（一列の揃った飾り図柄（有利状態である大当り遊技状態に移行する出目）やチャンス目の飾り図柄）や、擬似連などにおけるチャンス目や、異なる演出状態に移行することを示す出目、などとは異なる組み合わせとするとよい。これにより、「大当り」などが発生したとの遊技者の誤認を防止できる。

【0476】

（変形例）

この発明は、上記構成に限られない。特徴部61AKについて種々の変形が可能である。以下、変形例を例示する。

【0477】

（変形例1）

上記では、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行する場合に、設定示唆演出が実行されないときに対して、セリフ予告や飾り図柄の可変表示の態様を変更する（フリーズやモヤによる変更）ことで、設定示唆演出の視認性を向上させているが（モヤやフリーズにより、設定示唆演出が目立つようになり、視認性が向上している。）、セリフ予告や飾り図柄の可変表示の態様を変更せずに、設定示唆演出の画像をセリフ予告が実行されていない場合に比べて強調表示するようにしてもよい。例えば、図9-14のように、ミニキャラ61AK105及び又はセリフの吹き出しを強調表示（図では、太線表示及び吹き出し内の白黒の反転）して、これらの視認性を向上させる（セリフ予告が実行されないときは、このような強調表示は行われない）。強調表示は、例えば、ミニキャラ61AK105やセリフの点滅表示、ミニキャラ61AK105やセリフにエフェクトを掛けた表示（例えば、雷や電流等が走ったような画像）、ミニキャラ61AK105やセリフを発光させるなどであってもよい。

【0478】

（変形例2）

設定示唆演出の画像（ミニキャラ61AK105やセリフ）は、セリフ予告の画像（第1キャラ61AK102、第2キャラ61AK103、及び、各キャラのセリフ（吹き出し））が表示される領域と少なくとも一部が重複する領域で表示されてもよい。このような場合、両画像が同時に表示されても（両者が被る場合であっても）、設定示唆演出の画像を表示するレイヤーが、セリフ予告の画像を表示するレイヤーよりも前面にあるので、設定示唆演出の画像が、セリフ予告の画像に隠れることなく、設定示唆演出の視認性を確保できる。設定示唆演出の画像を、セリフ予告の画像が表示され得る領域に、当該画像が表示されていないときに表示するようにしてもよい（例えば、図9-14のように、第2キャラ61AK103のセリフが将来表示される領域に、ミニキャラ61AK105やセリフを表示する）。これにより、設定示唆演出の画像とセリフ予告の画像との視認性を効果的に確保できる。

【0479】

（変形例3）

セリフ予告の画像を表示するレイヤーを、大当り期待度が低いセリフ予告A及びBの画像を表示する第1レイヤーと、大当り期待度が高いセリフ予告Cの画像を表示する第2レイヤーとに分けてもよい。この場合、第2レイヤーを、第1レイヤー及び設定示唆演出の画像を表示するレイヤーよりも前面側（遊技者側）に配置するとよい。これにより、基本的には、設定示唆演出の表示をセリフ予告の表示よりも優先しつつ、大当り期待度が高いセリフ予告Cについては設定示唆演出よりも優先することができ、セリフ予告Cについて視認性を確保できる（特に、設定示唆演出の画像と、セリフ予告Cの画像とが被る位置に表示される場合、設定示唆演出の画像によりセリフ予告Cの画像が隠れてしまうことを防止できる）。また、第2レイヤーをモヤ画像を表示するレイヤーの前に配置してもよい。これにより、セリフ予告Cについては、モヤがかからず、視認性を確保できる。

【0480】

（変形例4）

特徴部 6 1 A K では、演出制御基板 1 2 が、例えば、設定示唆演出と、可変表示に関連する特定演出（上記ではセリフ予告。セリフ予告は、以下で説明される特定演出に拡張して考えることができる）と、が同一期間中に実行される場合、特定演出を、設定示唆演出が同一期間中に実行されないときとは異なる態様で実行可能であればよい。

【 0 4 8 1 】

設定示唆演出の態様は、他の態様であってもよい。例えば、設定示唆演出の態様は、ミニキャラ以外の他の画像を表示する態様であってもよい。設定示唆演出は、設定値が変更されたこと、設定値が変更されていないこと（例えば、初期値から変更されていないこと）などを示唆するものであってもよい。

【 0 4 8 2 】

特定演出は、上記ではセリフ予告であるが、飾り図柄の可変表示（特図ゲームという可変表示に関連する演出）を含んでもよい。例えば、セリフ予告などの、設定示唆演出と同時期に実行される可変表示以外の演出とともに、飾り図柄の可変表示についてもモヤを表示したり、フリーズさせたりして態様を変更することで、設定示唆演出をより目立たせることができる。特定演出の態様は、他の態様であってもよい。特定演出は、リーチ演出やリーチ後の予告演出などであってもよい（この場合、設定示唆演出の実行タイミングは、リーチ後などである）。特定演出は、実行中の可変表示に関する有利度を示唆する演出（セリフ予告、リーチ演出、予告演出など）であるとよい。特定演出は、大当たり（小当たりでもよい。以下同じ）遊技状態中に実行される大当たり中演出（このような演出も特図ゲームの可変表示結果に基づいて実行される演出であり、可変表示に関連しているといえる）であってよい（この場合、設定示唆演出の実行タイミングは、大当たり遊技状態中などである）。特定演出は、先読み判定に基づいて実行される先読み予告などであってもよい。

【 0 4 8 3 】

前記の同一期間中とは、特定演出の実行期間（第 1 期間）の少なくとも一部と、設定示唆演出の実行期間（第 2 期間）の少なくとも一部とが、重複すればよい表現である。例えば、第 1 期間と第 2 期間とが一致する態様、第 1 期間内において第 2 期間が開始及び終了する態様、第 1 期間内に第 2 期間が開始するが、第 1 期間終了後に第 2 期間が終了する態様、又は、第 2 期間内において第 1 期間が開始及び終了する態様も、同一期間中に含まれる。設定示唆演出と特定演出それぞれの実行タイミングを抽選で決定し、両者が同一期間中に実行される場合に、特定演出の態様を変化させてもよい。

【 0 4 8 4 】

上記の異なる態様とは、例えば、モヤを表示した態様の他、特定演出の画像を一時消去した態様、半透明にした態様、暗くした態様、縮小した態様、モザイクを掛けた態様など、特定演出の視認性を低下させる態様などであるとよい。これにより、特定演出が、異なる態様となっているときに実行される設定示唆演出を目立たせることができる。また、異なる態様とは、特定演出の画像の動作の停止（フリーズ）の他、動作をスローにするなどの態様であってもよい。これによっても、動作スピードの比較により、設定示唆演出を目立たせることができる。異なる態様として、上記では、モヤの表示及びフリーズを例示しているが、どちらか一方を行わないようにしてもよい。なお、飾り図柄の可変表示についても特定演出と同じ手法で態様を異ならせることで、より設定示唆演出を目立たせることができる。なお、異なる態様は、特定演出の画像を強調表示するなどして、特定演出の視認性を向上させる態様であってもよい（特に、特定演出の大当たり期待度が高いときにこのようにすることで遊技の興趣が向上する）。異なる態様は、上記モヤの表示やフリーズのように、特定演出の一部の態様が異なる場合（特定演出の一部を変化させる場合）の他、特定演出全体が異なる態様となっている場合（特定演出自体が異なる場合）も含む。

【 0 4 8 5 】

変形例 4 のような構成によれば、設定示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、特定演出の態様を設定示唆演出の実行状況に応じて変更可能なので、演出のバリエーションが増え、遊技の興趣が向上する。

【 0 4 8 6 】

## (変形例 5)

上記変形例 1 に関連し、演出制御基板 12 が、例えば、設定示唆演出と、可変表示に関連する特定演出（上記ではセリフ予告）と、が同一期間中に実行される場合、設定示唆演出を、特定演出が同一期間中に実行されないときは異なる態様で実行可能であればよい（変形例 1 は、当該構成の一例である）。異なる態様は、設定示唆演出の一部が異なる態様の他、全部が異なる態様であってもよい。異なる態様としては、上記強調表示（視認性を向上させた態様）の他、設定示唆演出の画像を変更する、設定示唆演出の画像の動作スピードを変化させる（停止を含む）などを含む。異なる態様は、設定示唆演出を半透明等とすることで、視認性を低下させる態様であってもよい（これにより、特定演出を目立たせることができる）。その他の説明は、変形例 5 の説明に準じる。

10

## 【0487】

変形例 5 のような構成によれば、示唆演出と特定演出とを同時期に実行可能で、かつ、設定示唆演出の態様を特定演出の実行状況に応じて変更可能なので、演出のバリエーションが増え、遊技の興趣が向上する。

## 【0488】

## (変形例 6)

上記では、セリフ予告の実行中に設定示唆演出を実行する場合に、必ず、モヤ画像の表示及びフリーズを実行しているが、セリフ予告の種類や、設定示唆演出の種類に応じてモヤ画像の表示及びフリーズの実行の有無を決定してもよい。当該決定は、例えば、ステップ 61AKS007 で行われる。

20

## 【0489】

例えば、図 9 - 15 (A) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、ステップ 61AKS002 で決定したセリフ予告の種類が大当たり期待度の比較的低いセリフ予告 A 又は B のときは、モヤ画像の表示及びフリーズを実行すると決定する。他方で、演出制御用 CPU 120 は、ステップ 61AKS002 で決定したセリフ予告の種類が大当たり期待度の比較的高いセリフ予告 C のときは、モヤ画像の表示及びフリーズを実行しないと決定する。これにより、大当たり期待度が高いセリフ予告 C が実行されるときには、視認性の低下などが防止され、大当たり期待度が高いセリフ予告 C の視認性が低下することによる遊技の興趣の低下を防止できる。

## 【0490】

30

例えば、図 9 - 15 (B) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、ステップ 61AKS005 で決定した設定示唆演出の種類が、設定値が「1」～「3」であるときに設定値が「4」～「6」であるときよりも実行されやすい設定示唆演出 A であるときには、モヤ画像の表示及びフリーズを実行しないと決定する。一方で、ステップ 61AKS005 で決定した設定示唆演出の種類が、設定値が「4」～「6」であるとき（「1」～「3」よりも有利のとき）に設定値が「1」～「3」であるときよりも実行されやすい設定示唆演出 B～D であるときには、モヤ画像の表示及びフリーズを実行すると決定する。このようにすることで、有利度（出玉率）が高い設定値が設定されている可能性が高い設定示唆演出 B～D については目立つように実行することができる一方で、有利度（出玉率）が低い設定値が設定されている可能性が高い設定示唆演出 A については過度に目立たせることなく実行できる。これにより、目立つ態様で設定示唆演出が実行されたにもかかわらず、その設定示唆演出では有利度（出玉率）が低い設定値が設定されている可能性が高いことによる遊技の興趣の低下を防止できる。

40

## 【0491】

以上のように、特定演出や設定示唆演出の種類に応じて、特定演出を異なる態様で実行する／しないを分けることで、演出のバリエーションが増え、遊技の興趣が向上する。

## 【0492】

なお、変形例 1 に関連して、特定演出や設定示唆演出の種類に応じて、設定示唆演出を異なる態様で実行する／しないを分けてもよく、これにより、演出のバリエーションが増え、遊技の興趣が向上する。なお、例えば、大当たり期待度が低い特定演出が実行される場

50



合に、設定示唆演出の視認性を強調表示等により向上させ、大当たり期待度が高い特定演出が実行される場合には、強調表示等しないことにより、大当たり期待度が高い特定演出への注目度が設定示唆演出により低下してしまうことを防止でき、遊技の興趣が向上する。また、例えば、大当たり期待度が低い特定演出が実行される場合に、設定示唆演出の視認性を強調表示等により向上させ、大当たり期待度が高い特定演出が実行される場合には、強調表示等しないことにより、大当たり期待度が高い特定演出への注目度が設定示唆演出により低下してしまうことを防止でき、遊技の興趣が向上する。また、設定示唆演出の種類が、設定値が「1」～「3」であるときに設定値が「4」～「6」であるときよりも実行されやすい設定示唆演出Aであるときには、設定示唆演出を強調表示等しないようにしてもよい。これにより、目立つ態様で設定示唆演出が実行されたにもかかわらず、その設定示唆演出では有利度（出玉率）が低い設定値が設定されている可能性が高いことによる遊技の興趣の低下を防止できる。

10

【0493】

(変形例7)

大当たり期待度が高い特定演出（例えば、セリフ予告Cなど、一定以上の大当たり期待度の特定演出）と、示唆する設定値の有利度が高い（示唆する設定値の有利度が高いときに低いときよりも実行されやすい）設定示唆演出B～Cとで、スピーカ8L、8Rからの音声（例えば、効果音）や、遊技効果ランプ9及び装飾用LEDといった装飾発光体の点灯動作とを共通化してもよい。なお、特定演出を、大当たり遊技状態中に実行される演出であって、そのときに、先読み判定によって大当たりの判定がなされた保留が存在する場合に実行される保留連チャン報知演出としてもよい。これら演出について、前記共通化をすることで、効率的な演出が実行される。

20

【0494】

(変形例8)

上記では、パチンコ遊技機1に設定される設定値に応じて大当たり確率が変化する一方で、遊技性自体は変化しない形態を例示しているが、設定値に応じて遊技性が変化するようにしてもよい。

【0495】

例えば、パチンコ遊技機1に設定される設定値が1である場合は、通常状態での大当たり確率が1/320、確変状態が65%の割合でループする遊技性（所謂確変ループタイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が2である場合は、通常状態での大当たり確率が1/200、大当たり遊技中に遊技球が、特別可変入賞球装置7内に設けられた所定スイッチを通過することに基づいて大当たり遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御する一方で、変動特図に応じて大当たり遊技中に遊技球が該所定スイッチを通過する割合が異なる遊技性（所謂V確変タイプ）とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が3である場合は、大当たり確率が1/320且つ小当たり確率が1/50であり、高ベース中（時短制御中）に遊技球が特別可変入賞球装置7内に設けられた所定スイッチを通過することに基づいて大当たり遊技状態に制御する遊技性（所謂1種2種混合タイプ）としてもよい。更に、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかである場合は遊技性が同一であるが、これら設定値が1～3のいずれかである場合よりも大当たり確率や小当たり確率が高い一方で大当たり遊技中に獲得可能な賞球数が少ない設定（例えば、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかである場合）を設けてもよい。

30

40

【0496】

更に、このように、設定値に応じて遊技性を変化させる場合は、共通のスイッチを異なる用途に使用してもよい。具体的には、上述の例であれば、設定値が1～3の場合は、特別可変入賞球装置7内に設けられた所定スイッチを演出用スイッチ（遊技球が所定領域を通過する毎に所定の演出を実行するためのスイッチ）として使用し、設定値が4～6の場合は、該所定スイッチを遊技用スイッチ（遊技球が所定スイッチを通過したことに基づいて遊技状態を確変状態や大当たり遊技状態に制御するためのスイッチ）として使用してもよい。

50

## 【 0 4 9 7 】

## ( 変形例 9 )

パチンコ遊技機 1 に設定可能な設定値として 1 ～ 6 の計 6 個の設定値を設けているが、この発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機 1 に設定可能な設定値は、5 個以下や 7 個以上であってもよい。設定値は、パチンコ遊技機 1 に設定される設定値が小さいほど遊技者にとって有利となるようにしてもよい。

## 【 0 4 9 8 】

## ( 変形例 1 0 )

前記では、遊技機の一例としてパチンコ遊技機が適用されていたが、例えば遊技用価値を用いて 1 ゲームに対して所定数の賭数を設定することによりゲームが開始可能となるとともに、各々が識別可能な複数種類の図柄を変動表示可能な変動表示装置に変動表示結果が導出されることにより 1 ゲームが終了し、該変動表示装置に導出された変動表示結果に応じて入賞が発生可能とされたスロットマシンにも適用可能である。この場合、大当り遊技状態などの遊技者にとって有利な状態に相当する状態として、小役の当選確率が高まるビッグボーナスボーナスやレギュラーボーナスや、遊技者にとって有利な操作態様が報知される状態（例えば、A T（アシストタイム）状態）や、遊技者にとって有利な操作態様が報知され、かつ、リプレイ役の当選確率が高まる状態（例えば、A R T（アシストリプレイタイム）状態）等が用意される。

## 【 0 4 9 9 】

また、スロットマシンにおける前記特定演出は、ビッグボーナスボーナスやレギュラーボーナス等の特別役が内部当選したが図柄の組合せが揃わずに持ち越されている状態等において、特別役に対応する図柄の組合せが導出表示される可能性を示唆する示唆演出などであればよい。設定示唆演出は、スロットマシンに設定されている設定値を示唆する設定示唆演出などであればよい。設定示唆演出は、複数ゲーム（複数回の可変表示）に渡って実行されてもよい。

## 【 符号の説明 】

## 【 0 5 0 0 】

1	パチンコ遊技機
5	画像表示装置
1 0 3	R O M
1 2 0	演出制御用 C P U

10

20

30

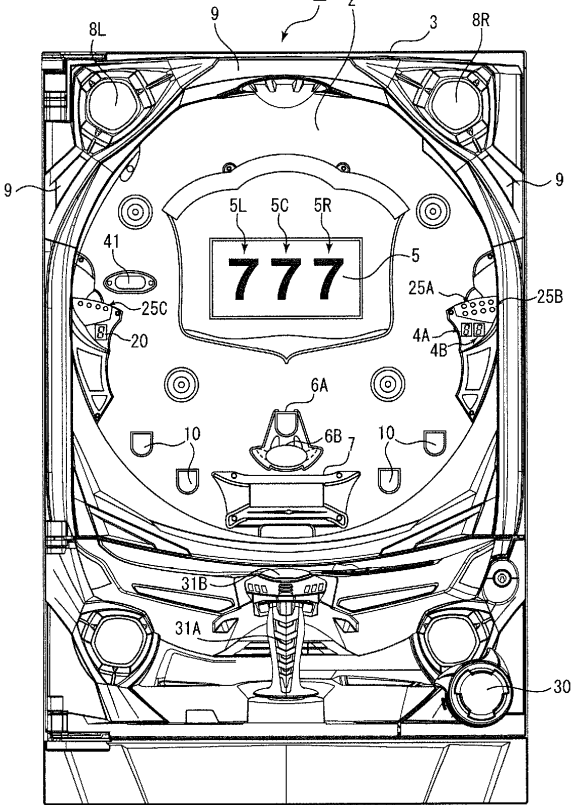
40

50

【図面】

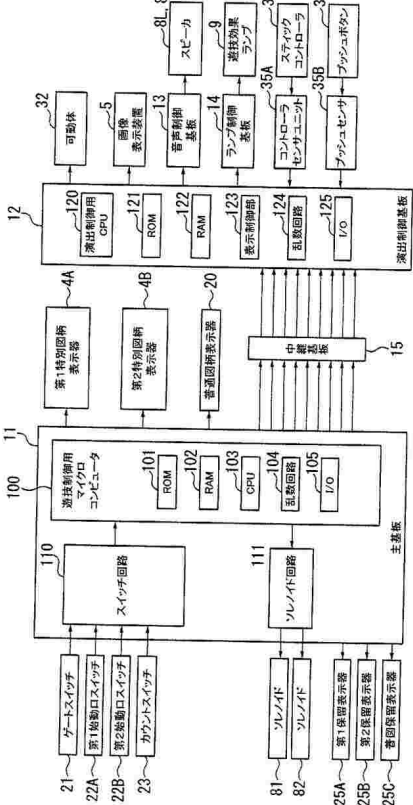
【図 1】

【図 1】



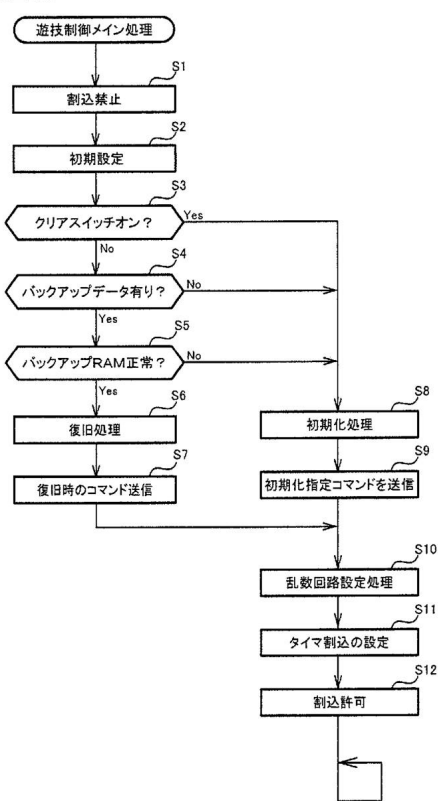
【図 2】

【図 2】



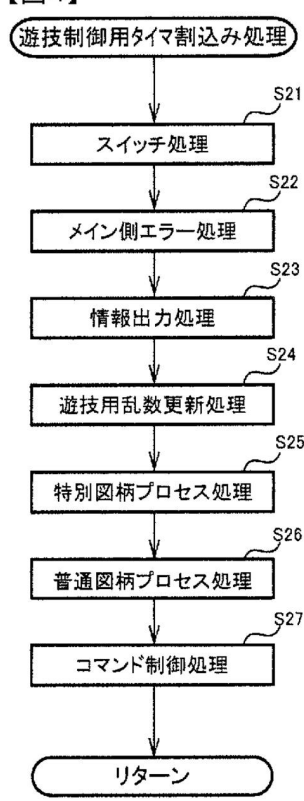
【図 3】

【図 3】



【図 4】

【図 4】



10

20

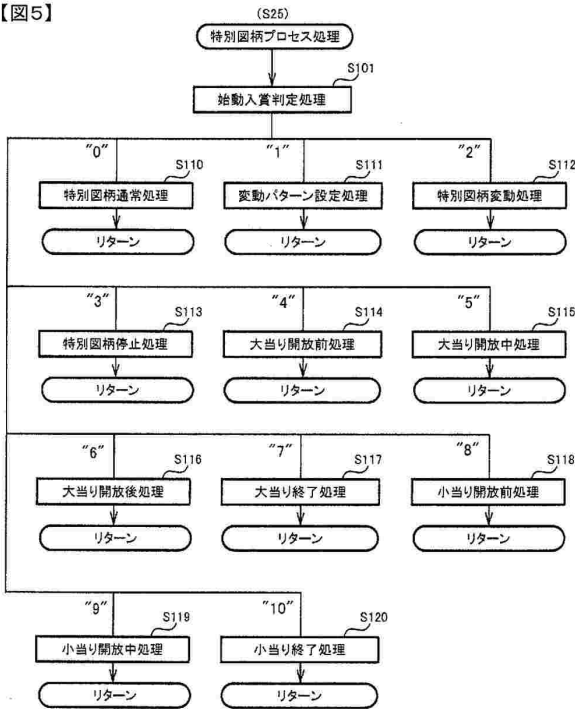
30

40

50

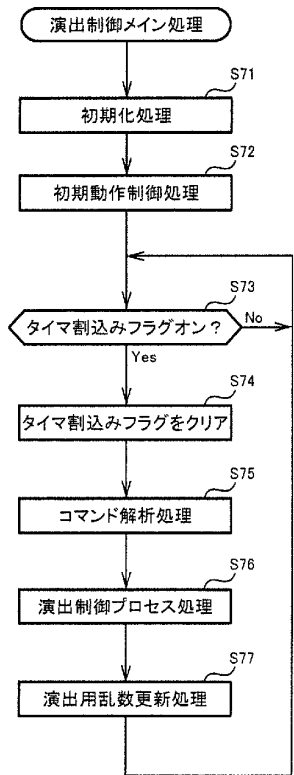
【図 5】

【図5】



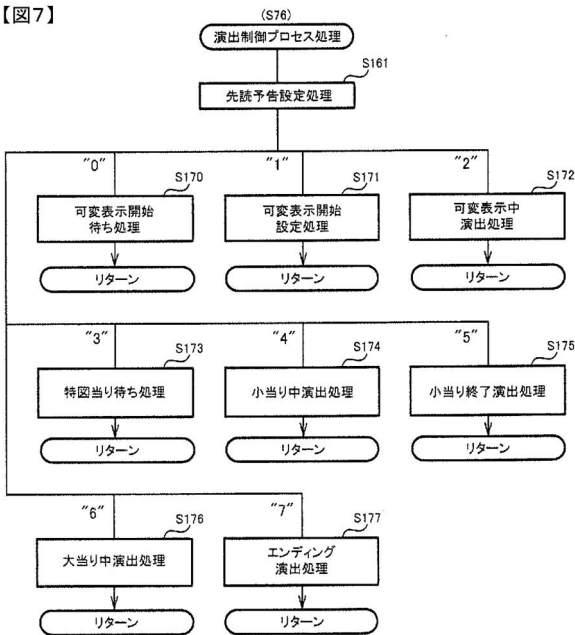
【図 6】

【図6】



【図 7】

【図7】



【図 8 - 1】

【図8-1】

MODE	EXT	名称	内容
B0	O1	第1変動開始	第1特図の変動開始を指定
B0	O2	第2変動開始	第2特図の変動開始を指定
B1	X X	変動パターン指定	変動パターン(変動表示時間)を指定
B0	X X	変動表示結果通知	変動表示結果を指定
B0	DO	図柄確定	演出図柄の変動表示の停止指定
95	X X	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
96	X X	エラー指定	XXで示すエラーの発生を指定
A0	X X	当り開始指定	大当り・小当りの開始指定
A1	X X	大入賞口開放中指定	大入賞口開放中を指定
A2	X X	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	X X	当り終了指定	大当り・小当りの終了指定
B1	DO	第1始動入賞口入賞指定	第1始動入賞口への入賞を通知
B2	DO	第2始動入賞口入賞指定	第2始動入賞口への入賞を通知
C1	X X	第1保留記憶数通知	第1保留記憶数を通知
C2	X X	第2保留記憶数通知	第2保留記憶数を通知
DO	X X	設定値指定	設定値を指定
E1	O1	ホットスタート通知	ホットスタートを通知
E1	O2	コールドスタート通知	コールドスタートを通知
E1	O3	設定値変更開始通知	設定値変更の開始を通知
E1	O4	設定値変更終了通知	設定値変更の終了を通知
E1	O5	設定値確認開始通知	設定値確認の開始を通知
E1	O6	設定値確認終了通知	設定値確認の終了を通知
F1	X X	図柄指定	始動入賞時の入賞時判定結果(表示結果)を指定
F2	X X	変動種別指定	始動入賞時の入賞時判定結果(変動パターン種別)を指定

10

20

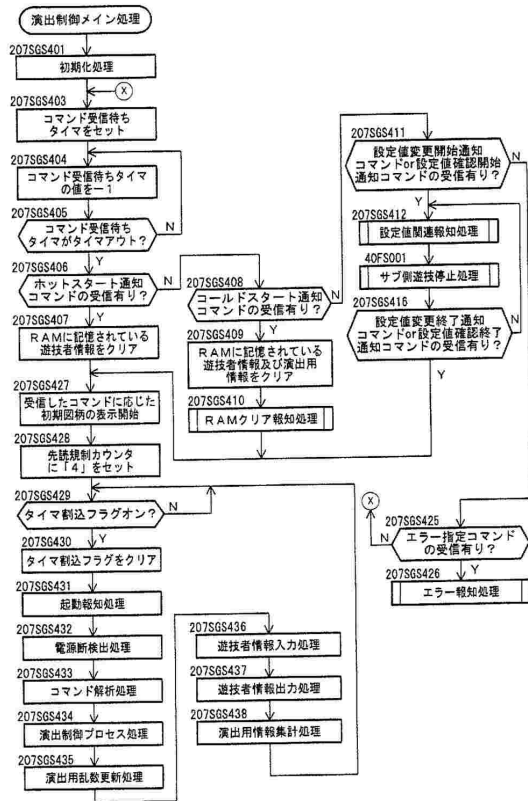
30

40

50

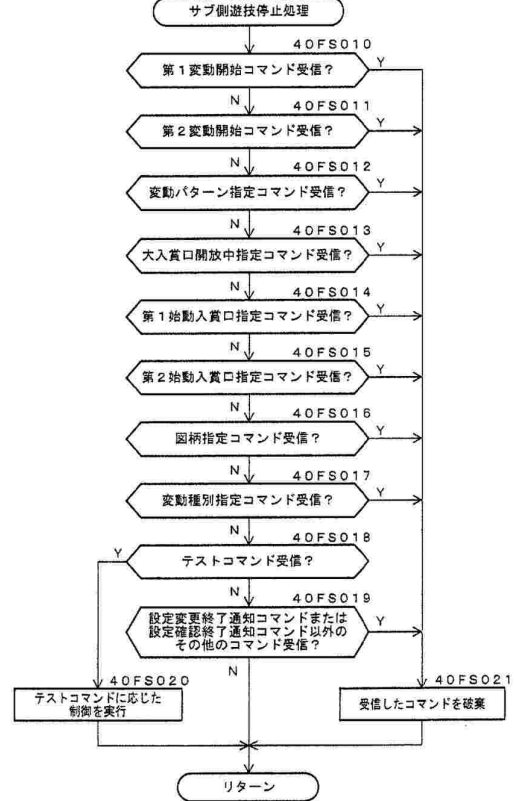
【図 8 - 2】

【図8-2】



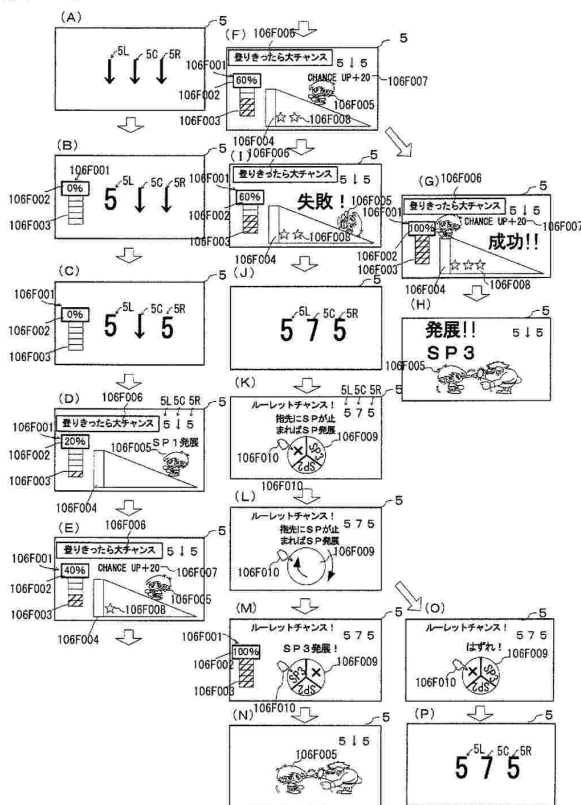
【図 8 - 3】

【図8-3】



【図 8 - 4】

【図8-4】



【図 8 - 5】

【図8-5】

(A) 示唆表示有無判定テーブル

変動パターン	SR2(個数300)	
	示唆表示演出実行有	示唆表示演出実行無
非リーチ	5	295
ノーマルリーチ	10	290
第1スーパーリーチ	15	285
第2スーパーリーチ	20	280
第3スーパーリーチ	25	275

(B) 示唆表示演出種類選択テーブル

示唆表示演出種類	SR3(個数210)				
	非リーチ	ノーマルリーチ	第1スーパーリーチ	第2スーパーリーチ	第3スーパーリーチ
非リーチはずれ →SP発展なし	210	0	0	0	0
ノーマルリーチはずれ →SP発展なし	0	210	0	0	0
第1SPリーチはずれ →SP発展なし	0	0	210	0	0
非リーチはずれ →SP2発展(80%値表示)	0	0	0	10	0
ノーマルリーチはずれ →SP2発展(80%値表示)	0	0	0	50	0
第1SPリーチはずれ →SP2発展(80%値表示)	0	0	0	150	0
非リーチはずれ →SP3発展(100%値表示)	0	0	0	0	10
ノーマルリーチはずれ →SP3発展(100%値表示)	0	0	0	0	20
第1SPリーチはずれ →SP3発展(100%値表示)	0	0	0	0	30
第2SPリーチはずれ →SP3発展(100%値表示)	0	0	0	0	150

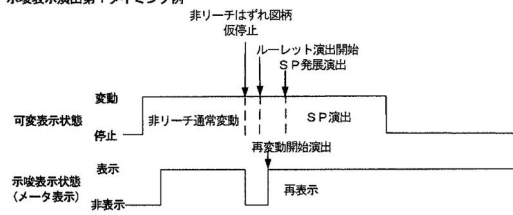
(C) 示唆表示再表示開始タイミング選択テーブル

開始タイミング種類	SR4(個数400)	
	大当たり時	はずれ時
再表示決定演出後 1秒経過時	60	280
再表示決定演出後 3秒経過時	140	80
再表示決定演出後 5秒経過時	200	40

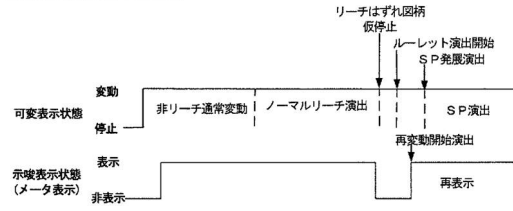
【 図 8 - 6 】

【図8-6】

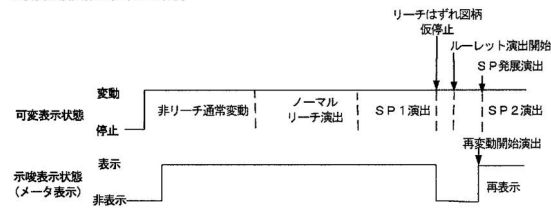
(A) 示唆表示演出第1タイミング例



(B) 示唆表示演出第2タイミング例



(C) 示唆表示演出第3タイミング例



【 図 9 - 2 】

【图9-2】

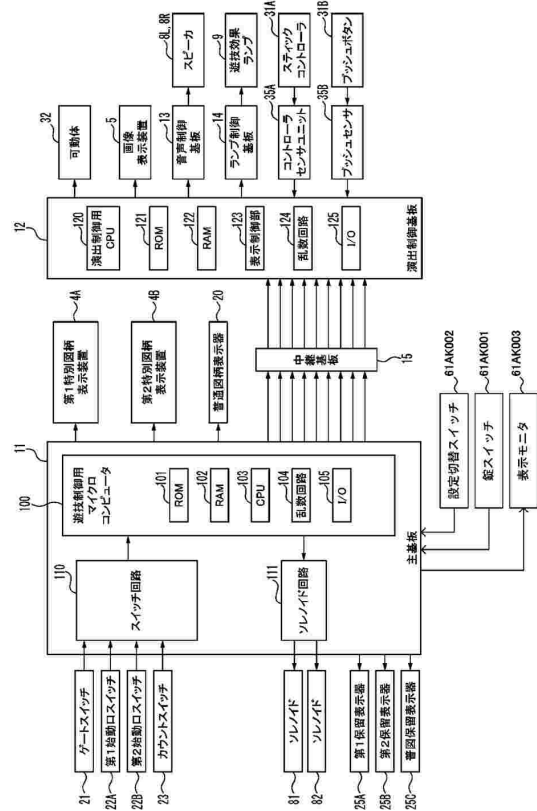
[illegible]

(B)第2特図用表示結果判定テーブル

遊技状態	MR1 (設定値1)	MR1 (設定値2)	MR1 (設定値3)	MR1 (設定値4)	MR1 (設定値5)	MR1 (設定値6)
特別表示結果	1020→1237 (確率1/200)	1020→1253 (確率1/280)	1020→1272 (確率1/260)	1020→1292 (確率1/240)	1020→1317 (確率1/220)	1020→1346 (確率1/200)
通常状態	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)
主役・時短状態	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外
遊技状態	1020→1346 (確率1/200)	1020→1363 (確率1/180)	1020→1429 (確率1/160)	1020→1487 (確率1/140)	1020→1556 (確率1/120)	1020→1674 (確率1/100)
小当り	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)	32767→33421 (確率1/100)
はずれ	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外	上記数値以外

【 図 9 - 1 】

【图9-1】



10

20

【 図 9 - 3 】

【图9-3】

(A)大当たり種別判定テーブル(第1特別図柄用)

判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)	MR2 (設定値4)	MR2 (設定値5)	MR2 (設定値6)
大当りA	0～99	0～99	0～99	0～99	0～99	0～99
大当りB	100～249	100～229	100～209	100～189	100～169	100～149
大当りC	250～299	230～299	21～299	190～299	170～299	150～299

(B)大当たり種別判定テーブル(第2特別図柄用)

判定結果	MR2 (設定値1)	MR2 (設定値2)	MR2 (設定値3)	MR2 (設定値4)	MR2 (設定値5)	MR2 (設定値6)
大当りA	0～99	0～99	0～99	0～99	0～99	0～99
大当りB	100～199	100～179	100～159	100～139	100～119	—
大当りC	200～299	180～269	160～299	140～299	120～299	100～299

30

40

50

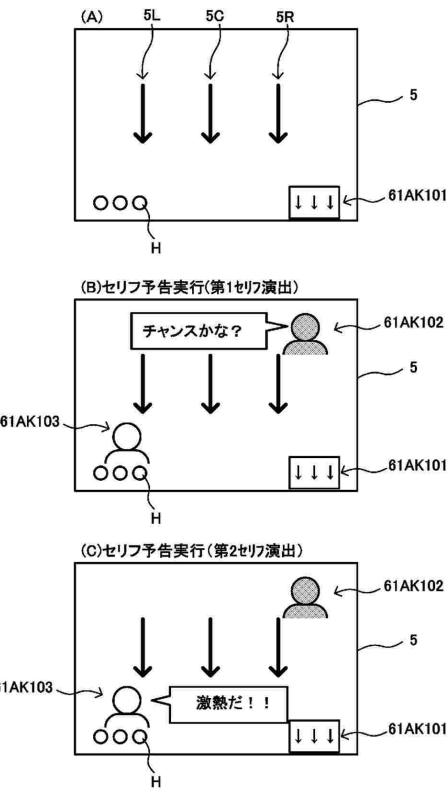
【図 9 - 4】

【図9-4】

変動パターン	特図変動時間 (ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-2	5750	保留2~4個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-3	3750	保留5~8個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-4	5000	短縮(時短制御中)→非リーチ(はずれ)
PA2-1	20000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-2	43000	スーパーリーチα(はずれ)
PA2-3	53000	スーパーリーチβ(はずれ)
PB1-1	20000	ノーマルリーチ(大当たり)
PB1-2	43000	スーパーリーチα(大当たり)
PB1-3	53000	スーパーリーチβ(大当たり)
PC1-1	4000	小当たり

【図 9 - 5】

【図9-5】セリフ予告

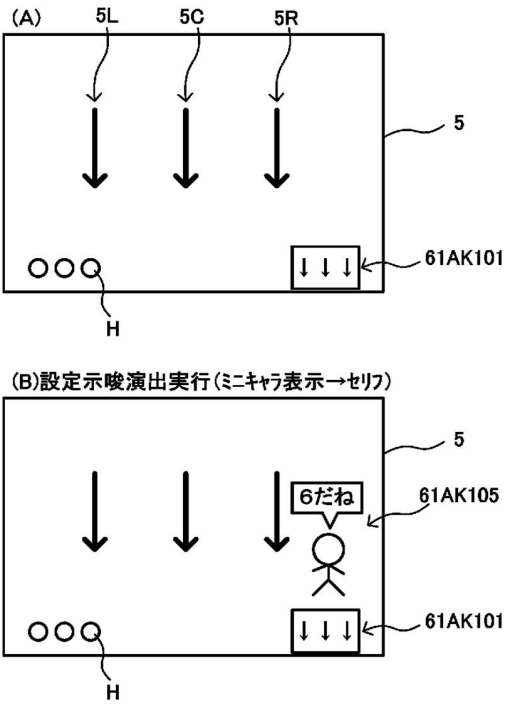


10

20

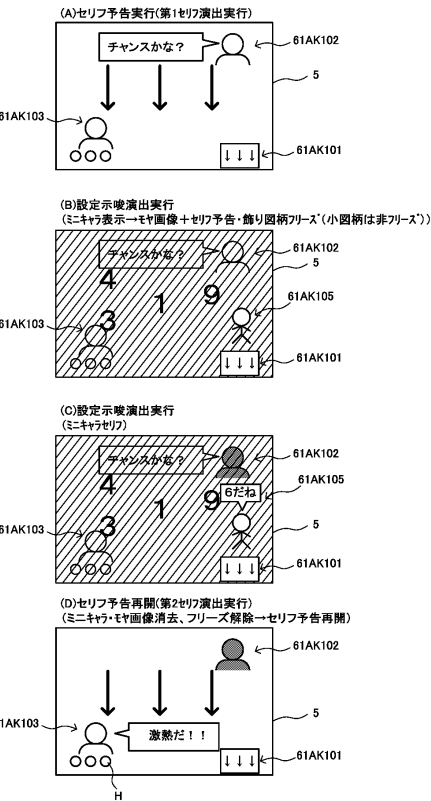
【図 9 - 6】

【図9-6】設定示唆演出



【図 9 - 7】

【図9-7】セリフ予告及び設定示唆演出を実行

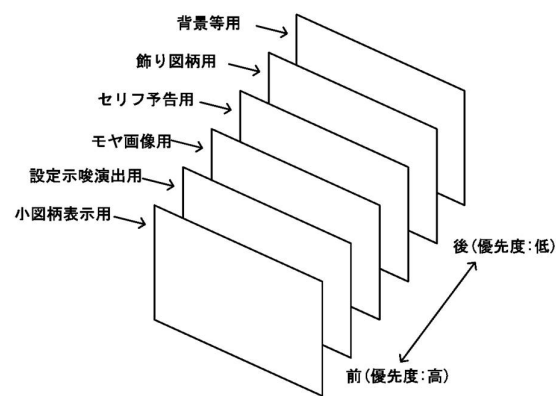


30

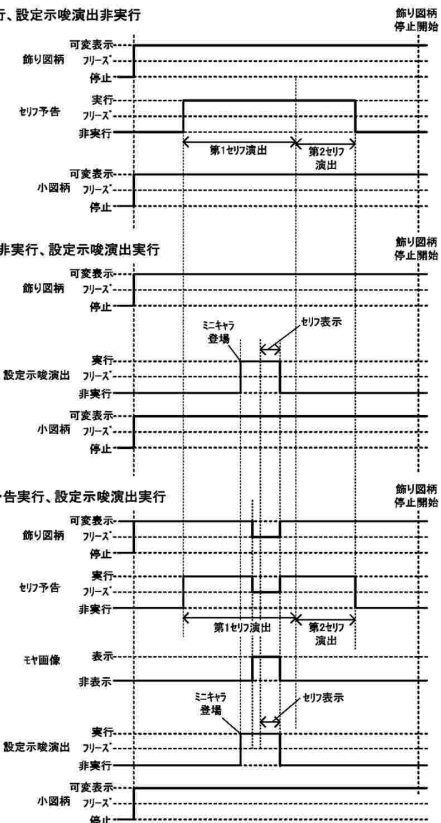
40

50

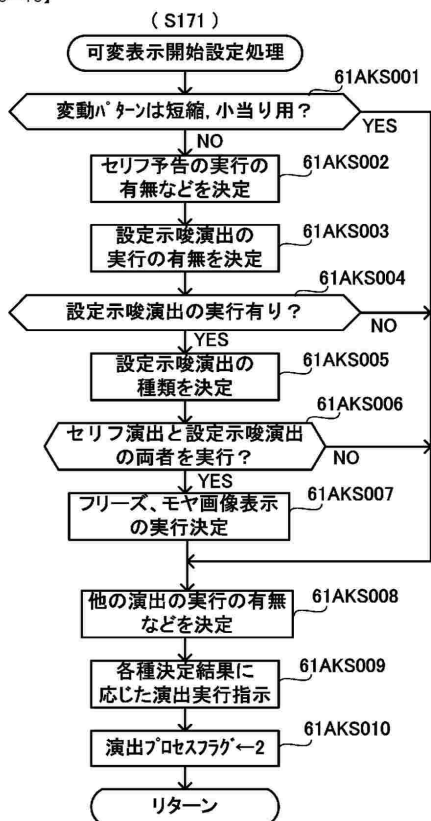
【図 9 - 8】  
【図9-8】演出画像を構成する各レイヤー



【図 9 - 9】  
【図9-9】  
(A)セリフ予告実行、設定示唆演出非実行



【図 9 - 10】  
【図9-10】



【図 9 - 11】  
【図9-11】  
セリフ予告の決定例

決定結果	決定割合(可変表示結果)	
	はずれ	大当たり
セリフ予告を 実行しない	65%	5%
セリフ予告Aを 実行する	25%	15%
セリフ予告Bを 実行する	9%	30%
セリフ予告Cを 実行する	1%	50%

10

20

30

40

50



【図 9 - 1 2】

【図9-12】

設定示唆演出の実行の有無の決定例

決定結果	決定割合
設定示唆演出を 実行しない	99%
設定示唆演出を 実行する	1%

【図 9 - 1 3】

【図9-13】

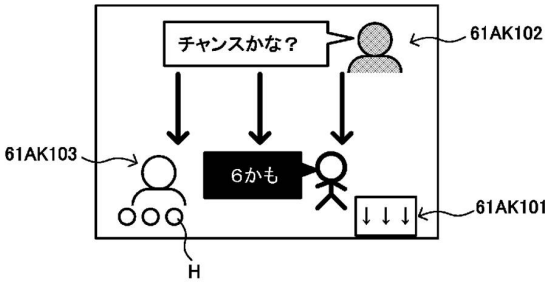
設定示唆演出の種類の決定例

決定結果	決定割合(設定値)					
	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」
設定示唆演出 A	95%	90%	85%	20%	15%	5%
設定示唆演出 B	5%	10%	15%	45%	55%	60%
設定示唆演出 C	0%	0%	0%	35%	30%	25%
設定示唆演出 D	0%	0%	0%	0%	0%	10%

10

【図 9 - 1 4】

【図9-14】変形例(示唆演出強調)



【図 9 - 1 5】

【図9-15】変形例(フリーズ、もや実行の決定例)

(A)		(B)	
実行するセリフ予告の種類	モヤ画像の表示フリーズ	実行する設定示唆演出の種類	モヤ画像の表示フリーズ
セリフ予告 A	実行する	設定示唆演出 A	実行しない
セリフ予告 B	実行する	設定示唆演出 B	実行する
セリフ予告 C	実行しない	設定示唆演出 C	実行する
		設定示唆演出 D	実行する

20

30

40

50

---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 8 - 0 3 3 5 9 6 ( J P , A )  
特開 2 0 1 7 - 0 1 2 5 1 6 ( J P , A )  
特開 2 0 1 8 - 0 9 9 6 0 3 ( J P , A )  
特開 2 0 1 9 - 0 3 7 3 9 5 ( J P , A )
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)  
A 6 3 F 7 / 0 2